

第18回 キャリア教育優良教育委員会、学校及び PTA団体等文部科学大臣表彰 取組内容



同窓会の、卒業生による、在校生のための本気講話（通称：六華ゼミ）

キーワード

グローバル人材／キャリア教育／アントレプレナーシップ教育／

取組概要

キャリア教育の活動の一環として、本校在校生に将来の職業選択の参考にしてもらうことを目的に、本校同窓会である「六華同窓会」の主催による卒業生の講演を一年に8～10回程度開催。各回、起業・医療・研究・経営・海外等に関するテーマについて、それぞれの分野で活躍する同窓生を呼んで実施。

基礎情報

本校は今年度創立130周年を迎える。同窓会は札幌中学校、札幌第一中学校、札幌第一高校、そして現在の札幌南高校の卒業生約47,300人により構成されており、会員は国内外の各界でリーダーや個性的な活動で活躍する著名人が多く、今年の3月には南75期が同窓生として加わった。

取組の詳細

六華同窓生によるこの講演は通称六華ゼミと呼ばれており、その源流は2000年、卒業25年目の南25期生の「2525ゼミ」にさかのぼり、今年で四半世紀を迎える。六華同窓会事業の重要な一つであり、講師の選定など企画・運営は、その年の総会・懇親会の当番期が担当している。今年度は節目の南50期が担当、学校では総合的な探究の時間として位置づけ、重要な進路学習の機会ともなっている。会場となる体育館や視聴覚室はいつも満員、鋭い質問が出るなど非常に熱気に溢れている。
(↓2025年度の第2回のチラシ、第1・5・6回の概要)



成果

- ・六華ゼミの実施により、在校生の進路への意欲が高まるとともに、選択の視野は道外へも広がり、昨年度は、東大18人、京大18人、早稲田大18人、慶應大10人など、進学実績をあげている。
- ・在校生と卒業生が直接つながる場となり、探究的な活動等において、支援をいただく機会が増えている。
- ・卒業生同士のあらたな交流も生まれている。

課題や今後に向けて

- ・大学進学後も見据え、在学中の起業や、研究につながる探究活動のより一層の充実を図りたい。
- ・社会の変化や在校生のニーズに応じるため、より多様な分野の講師の選定について検討したい。



同志社交流事業のきっかけである新島襄氏を探る函館市内の体験学習

キーワード

職場体験学習、村PR活動、大学等訪問、同志社及び新島襄関連施設見学

取組概要

- 同志社交流事業のきっかけである新島襄氏と関連の深い函館市において、公共交通機関を利用し、生徒が一人で企業等を訪問し、初対面の人たちとコミュニケーションをとりながら進める職場体験学習
- 本村の観光や林業、漁業について、新島襄氏ゆかりの函館市を訪れる観光客に対してPR活動を行う地域学習
- 同志社及び新島襄氏と関連のある施設等の見学や調査をとおして、風間浦村との関わりについての理解を深める地域学習

取組の詳細

- 生徒一人一人が自分の将来をみつめる一助となるよう、新島襄氏とゆかりのある函館市内の各事業所での職場体験学習を行い、初対面の人たちとのコミュニケーションをとおして、自分自身をみつめている。
- 本村の自然や温泉、海の幸などの特徴をまとめたパンフレットを作成し、村の木である「ヒバ」をチップ加工したものと一緒に、観光客に配付しながらPR活動を行っている。
- 函館市内の大学や高等専門学校などの教育施設を訪問し、授業体験や学生生活についての説明、施設見学をとおして、夢や生きがい、将来のビジョンをえがく力を育成している。
- 同志社交流事業のきっかけである新島襄氏ゆかりの地である函館市において、新島襄氏のブロンズ像や海外渡航碑、渡航の際の船舶、身を寄せていた教会を見学し、新島襄氏についての理解を深めている。また、前教育長である越膳泰彦氏を講師に招き、同志社交流事業の背景等について講話していただくことで、新島襄氏と風間浦村との関わりについての理解を深めている。



基礎情報

団体の特徴（学校）

本校は、自然と温泉、海の幸に恵まれた村にある唯一の中学校であり、全校生徒29名の小規模校である。キャリア教育では、4つの力（みつける力・つながる力・やりぬく力・えがく力）を意識して取り組んでいる。

同志社創設者の新島襄氏が本村にある温泉施設に立ち寄ったことが縁で同志社との交流が始まり、今年で32年目となる。同志社交流事業の一環として、毎年、本校の中学校2年生が同志社中学校や同志社大学を訪問し、授業等をとおして交流を深めている。また、同志社中学校の生徒会役員が来校し、本校の全校生徒と交流している。

成果

- 職場体験学習後のアンケート結果は、4点満点中3.1という数値であり、職場体験学習が、自分の将来を「えがく力」の育成の一助となっていることがわかる。
- 一事業所で一名が体験するため、周りに頼ることなく、事業所の方々とコミュニケーションを取るなど、「やりぬく力」、「つながる力」の育成の一助となっている。
- 78%の生徒が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と考えるなど、キャリア教育での取組が、自分の郷土を「みつめる力」の育成の一助となっている。

課題や今後に向けて

これまでのキャリア教育の取組により、自分の将来や地域の発展に目を向ける生徒の育成につながっているが、33%の生徒が「将来の夢や目標をもっていない」と回答していることから、職場体験学習で学んだことや育成した「自分の将来をえがく力」を、その後の学校生活にどのように活用させ、さらには進路選択や自分の将来にどのように活用させるか。



Waku Waku Challenge! Smile 五農 人口減少地域における地域課題解決型キャリア教育

キーワード

産学官連携／地域課題解決／キャリアファイル／農業教育

取組概要

生徒個々が挑戦し、笑顔で地域課題解決に資する学びができるよう、キャリアポートフォリオを含めたキャリアファイルを活用し、日々の成長を実感させるとともに、実習・体験活動、地域人材の活用及び産学官との地域連携を核とした農業教育を中心に地域課題解決型のキャリア教育を実践している。生徒は学んだことを生かし着実な進路達成につなげている。



取組の詳細

1 幼児・児童に対する食育体験の実施

人口減少地域における健康な次世代の育成のため、地域の学校・こども園などと連携し、播種・収穫・試食等を実施、地域のこどもとコミュニケーションを図ることで生徒の主体的な汎用的能力の伸長につなげている。

2 環境教育を軸としたフィールドワーク等の実施

持続可能な地域インフラの着実な整備を支える人材等の育成のため、企業訪問や現場体験など多くのフィールドワークを行うとともに、シミュレータ等の体験学習、SDGsの考えに基づく農業高校フードバンクの運営に取り組むなど、生徒のキャリアの幅を広げている。

3 森林科学等における農福連携等の実践

森林資源の有効活用と保存・福祉等との外部機関との連携において、必要な地域人材等、自己のキャリアの可能性や担うべき役割を認識させている。

4 スマート農業を中心とした生物生産体験

農業人口減少地域の課題解決のための自動操舵トラクタ等のスマート農業や安定した食糧資源生産、オリジナル商品開発など6次産業化等を対話を通じて学び、先端技術の学習体験を通じ職業的自立意識の形成を図っている。

5 キャリアファイルを活用した主体性を引き出す実践

マナー講座、インターンシップや職業体験、海外研修等、それに伴う事前事後指導などを含め様々な学習経験を「キャリア・パスポート」にまとめ、関係資料等を自己のキャリア形成に有効な資料と合わせ省察し、系統的なキャリア形成につなげている。

基礎情報



青森県西北地域の中心都市五所川原市にある創立123年の伝統校であり、農業科4コース（食品科学・環境土木・生物生産・森林科学）を設置している。全国でも有数の農業経営者育成高校もあり、世界の高校として初のGLOBAL G.A.P.認証やFSC認証を取得、また、スマート農業の推進など、先進的な取組を展開している。全校生徒280名。

成果



・国際認証資格の取得数 3

GLOBAL G.A.P.（リンゴ・コメ）、FSC認証

・産学官との連携数

企業・団体・法人等 30（企業 14 団体・法人 8 専門家 8 教育機関 5（大学 1 専門学校 1 小学校・こども園 3）官公庁 8（国 3 県市町村 5）

・五農市開催数 4（五農祭を含めて 5）

・就職・進学等 全員達成（公務員 19 高卒では本県トップ 就職 県内外ともに全員内定 大学短大等 国立大学 2 を含め全員合格）

課題や今後に向けて

- ・即戦力及び将来活躍できる人材が多数いる中で、日本の未来の農業を支える就農者・農業経営者を継続して育成
- ・農業高校で学んだ専門性が生かせる官公庁・企業等への就職
- ・大学など高等教育機関で学び、日々進んでいく技術革新を牽引し、後輩につないでいくような人材の育成
- ・生徒主体のキャリアの学びのための校内キャリアサロンの整備



むつ下北地域産・官・学と連携したインターンシップ・探究学習を核としたキャリア教育の推進

キーワード

企業公募型インターンシップ／地域連携探究学習／地域産業見学／

取組概要

本校では、むつ下北地域の産・官・学と連携したキャリア教育を推進している。インターンシップでは、企業公募型という県内でも特徴的な形式で行っている。また、課題研究という授業の中で、地域と連携し学科横断型で取り組むプロジェクトチームをつくり探究学習に取り組んでいる。

取組の詳細

【企業公募型インターンシップ】

インターンシップに協力いただける地域企業を公募し、企業は生徒に対し、企業説明会を行う。

生徒は説明会を聞き、自分が参加したい企業を選択する。

【課題研究プロジェクトチーム】

学科横断で生徒の研究チームをつくり、下記のテーマに取り組んでいる。

- ・テーマ1（海洋研究開発機構との共同研究）

風向風速観測機（簡易タイプ）実用化へ向けて

- ・テーマ2（（株）永木精機との共同研究）

プラスチックシュレッダーおよびプラスチック射出成型機の製作研究

- ・テーマ3（風間浦村との共同研究）

ケウルシグサを用いた発電研究、未利用海藻の活用研究

- ・テーマ4（下北ジオパークとの共同研究）

災害時における電源確保、地域理解と防災知識の発信に関する研究



図1 企業説明会の様子



図2 海洋研究開発機構との共同研究の様子

基礎情報

団体の特徴（学校）

本校は、全校生徒260名の本州最北端の工業高校である。機械科、電気科、設備・エネルギー科の3つの学科を有し、特に設備・エネルギー科は地域の特徴でもあるエネルギー産業について学べる特色ある学科である。

成果

- 1) 生徒及び企業がともに主体的にインターンシップに取り組むことで大きな相乗効果が生まれている。

- 2) 課題研究プロジェクトチームの活動を通じて、対話的で深い学びが実践できている。

- 3) 「生徒や地域の実態を踏まえ、就業体験等を意欲的に取り組まれているか。」というアンケートに対して、88%の生徒が達成できていると回答している。

課題や今後に向けて

- 1) 企業公募型インターンシップは、まだ地域全体に周知されていない部分もあるので、広く周知し、多くの地域企業から応募してもらえるようにしたい。

- 2) 今後は、課題研究プロジェクトチームの成果を外部コンテストで発表することで、さらに生徒の成長につなげたい。



郷土を愛し未来を切り拓く力に満ちた人づくり

キーワード

学校教育振興協議会／地域連携／滝沢魅力学／リカレント教育／職業体験

取組概要

学校教育振興協議会（滝沢版コミュニティ・スクール）と、「いわての教育振興運動」の一体的な推進による地域学校協働活動の展開や、大学など関係機関と連携したリカレント教育の推進により、滝沢魅力学に基づく学びや体験活動を通じ「郷土を愛し未来を切り拓く力に満ちた人づくり」に取り組んでいる。

取組の詳細

1 滝沢魅力学の取組支援

すべての学校において、郷土滝沢に関する学習「滝沢魅力学」を推進し、学校教育振興協議会との連携による農業や伝統文化などの体験活動を展開している。また、岩手県立大学ソフトウェア情報学部の学生による小学生へのプログラミング指導や、企業による職業体験など、多様な学びと体験によりキャリア教育の充実を図っている。

2 たきざわ学びフェスタの開催による交流

「学びフェスタ」を開催し、各校の学校教育振興協議会の実践発表により取組の共有がなされ、学習支援の広がりにつながっている。また、小学生から大学生までの学びの成果発表も行われ、子どもたちの活躍の機会となっている。学びと多世代の交流により地域とのつながりやかかわりについて考える場となっている。

3 リカレント教育の推進

誰もが何歳になっても学びなおし、キャリアアップや活躍分野の拡充を図るリカレント教育セミナーを盛岡大学との連携により開催している。心身の健康や歴史文化などをテーマに、年間5回開催のセミナーには、高校生から80代まで幅広い世代の約300人が受講している。



リカレント教育セミナー

基礎情報

団体の特徴（教育委員会）

- ・小学校9校、児童数2,693人。中学校6校、生徒数1,613人。（R6.9現在）
- ・教育振興運動推進協議会は市教育委員会が事務局として運営し、各学校教育振興協議会を設置し、地域コーディネーターを教育委員会の社会教育指導員が担い、市全体で一貫的な推進が図られている。
- ・大学や企業、各種団体が学校協働活動を支援し、各学校のキャリア教育における学びと体験の充実に貢献している。

成果

- ・市内全ての学校に設置されている「学校の応援団」である学校教育振興協議会（滝沢版コミュニティ・スクール）により、子どもの成長を地域全体で支える仕組みが整ってきてている。
- ・岩手県学習定着度状況調査の児童生徒質問紙結果より、「学校や地域が行う体験活動に参加し、達成感や有用感をもった児童生徒の割合」において、同一集団の経年比較をみると、中学1年：25%→中学2年：48%と、23ポイント上昇している。
- ・地域活動である外来種駆除や清掃等の活動に積極的に参加する児童生徒が多くなっている。

課題や今後に向けて

- ・子どもたちの地域への愛着形成と、スキルをもった地域人材との関りを通じて子どもたちの「生きる力」を育んでいきたい。
- ・学校と地域のさらなる連携強化により、子どもたちの活躍が地域全体の活性化と子どもたちの夢や目標づくりにつながるよう、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。



地域の産業や伝統、文化、人との関わり、地域を愛し、自信や誇りを抱ける児童に！

キーワード

地域連携／ふるさと学習 ⇒ 地域を愛する心／自分への自信や誇り

取組概要

- ・縦割り班活動を通した異年齢児童との交流
- ・伝統芸能である「上郷しし踊り」の伝承活動
- ・遠野の文化を学ぶ「語り部」学習
- ・米作りと販売体験による農業体験学習
- ・夢先生（アスリート選手）による「夢の教室」実施
- ・JRC精神を基盤とした各種活動（「ふれあいホーム上郷」訪問、森林愛護少年団活動、委員会活動など）

取組の詳細

【上郷しし踊りの伝承活動】
子どもたちは活動の成果を各種行事で発揮し、地域、保護者からの温かな拍手の中で自信と誇りを育んでいる。年度終わりの引継ぎ会では、しし踊りの技術だけでなく、お世話になった方への感謝の心や伝統、郷土を愛する心、進学・進級する心構えなどいろいろな心を育んでいる。



【夢先生による夢の教室】
自分の夢をもち、失敗を恐れずに周りの人と支え合い生きていくってほしいという願いのもと「夢の教室」を実施している。アスリート選手が本音で語る経験を子どもたちは真剣なまなざしで聴き、夢をもつことの大切さを学んでいる。また、パラアスリートによる教室も実施している。



基礎情報

- ・全校児童数48名、複式学級を有する創立151年目の学校である。
- ・本学区は、遠野市の東部に位置し、町内を早瀬川と猫川が流れ、その川沿いの低地では、米、野菜、葉タバコ、ホップなどが生産されている。
- ・地域連携並びに「ふるさと学習」実施計画を立案し、各学年において地域連携を図り、地域を愛する心を育んでいる。
- ・教育活動の一貫として、伝統芸能「上郷しし踊り」に取り組み、令和4年に「いわてユネスコ文化賞（上郷しし踊り伝承活動）」を受賞。

成果

【全国学力・学習状況調査児童質問紙 肯定回答100%の項目（一部）】

- ・自分にはよいところがある
- ・人が困っているときは、進んで助ける
- ・いじめはどんな理由があってもいけない
- ・人の役に立つ人間になりたい
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

異年齢児童との交流や地域との触れ合う温かな体験活動をとおして、地域を愛する心や自信、誇りが育まれている。全校児童の全員が学校に登校できているのは、生活の中で、幸せな気持ちになれているからだと考える。今後も、たくさんの人に支えられ、支えていることを実感できる教育活動を展開していきたい。

課題や今後に向けて

- ・小規模校のメリットとして、一人ひとりの子どもが主役になれる機会を多く設定できることがある。その子の長所を教職員間で共有し、引き続き、自信や誇りにつながる活動にしていく。
- ・学校運営協議会において、学校の情報を発信し、地域を巻き込んだ教育活動が展開できるよう努めていく。
- ・子どもの実態を把握し、目の前の子どもに必要な資質・能力を明確にし、教育活動全体で育んでいく。

推薦教育委員会名：(岩手県教育委員会)



農業のこれからを見据えて～学校運営協議会がつなげる米づくり体験学習～

キーワード

学校運営協議会／地域連携／地域文化の継承／スマート農業への移行

取組概要

「ふるさと学習」では、生徒の「キャリアビジョン」を確立することをねらいとして、以下の取組を行っている。
 1 米づくり体験学習と姉妹都市（日野市）や産業まつりでの販売体験
 2 米づくり体験学習の終了にともなう新たな学習の開拓
 3 学校運営協議会からの協力・支援
 4 「スマート農業体験」への移行と地元企業からの協力

基礎情報

県央紫波町の西部に位置する紫波第三中学校は令和3年度から新たに開校した西の杜小学校とともに、施設併設型の小中一貫校「紫波西学園」としてスタートした。学校運営協議会の支援を受けながら、教育目標「郷土を愛し、自ら未来を切り拓いていく人間の育成」の実現に向けて日々精力的に活動している。令和7年度の中学校の生徒数は127名。通常6、特別支援2の全8クラスである。

取組の詳細

1 これまで十数年にわたり、2年生が学校田にて、手作業による田植え（写真上）から稲刈りまでを体験。代表・有志の生徒は日野市の焚火祭、町の産業祭で収穫したもち米を販売する体験（写真中）も行ってきた。また、3年生に向けて「合格餅」づくりを全員で行い、地域文化の継承にも力を入れてきた。

2 令和6年度で学校田を提供していただいた地域の方が勇退。学校は感謝の会を実施するとともに新たな受け入れ先を開拓する必要に迫られた。

3 学校は、学校運営協議会に事情を説明し、新たな受け入れ先を見つけるよう依頼。結果、地元企業に手を挙げていただき、令和7年度の受け入れ先が決定した。

4 学校は地元企業と協議する中で、「町の農業の現状をふまえ、これからの農業に目を向けた学習を組んでみてはどうか」という提案を受け、検討。「スマート農業体験」を中心とした学習（写真下）に移行し、農業の実情を理解するとともに、町の農業の未来に目を向けて考えることを重視する取組に舵を切ることにした。



成果

- 生徒自身が感謝の会でお世話になった地元の方に気持ちを伝えることができたこと。
- 学校運営協議会が効果的に働き、学習の移行をスムーズに行うことができたこと。
- 手作業とスマート農業の違いを理解し、今後の農業を見据える視点を持つことができたこと。
- 「ふるさと学習」を通じて、生徒の「キャリアビジョン」を確立するための取組を進めることができたこと。

課題や今後に向けて

- 手作業からスマート農業に移行したことにより、時数（約5時間の余剰）の調整と年間計画を見直す必要性が生じたこと。
- 販売体験が廃止されたこと。



雫石町と連携したキャリア教育プログラム「雫高虹色コンパス」

キーワード

地域連携／地域課題解決／地元愛／職場体験活動／販売促進体験／協働的学習

取組概要

2019年から雫石町と連携した「雫高虹色コンパス」として系統的かつ組織的なキャリア教育を提供し、それを支える多様な体験活動として日本初の軽トラ市である「元祖！しづくいし軽トラ市」への販売促進体験やソクラテスミーティング等を通じて、生徒のキャリア形成を多角的に支援している。1・2学年が協働で学習に励みながら、地域の方々の協力を得て、多くの取組を行っている。

取組の詳細

◆雫石町との連携「雫高虹色コンパス」◆

- 1 地元店舗と連携した、しづくいし軽トラ市への参加
- 2 しづくいし軽トラ市に向けたチームビルディング
- 3 ロールモデルインタビュー
- 4 インターンシップ
- 5 ソクラテスミーティング
- 6 虹色コンパス発表会
- 7 産学連携による主権者教育
- 8 活動のふりかえり活動から生まれた問いの言語化
- 9 特別活動等との連携
 - ・ 進路ガイダンス
 - ・ 講演会
 - ・ 雫石町議会との意見交換会
 - ・ 地域ボランティア活動や
地域福祉への意識の向上復興学習
 - ・ 次世代モビリティハイスクール



基礎情報

- ・全校生徒数
88名（1学年41名、2学年26名、3学年21名）
- ・少人数という特徴を生かした、丁寧できめ細やかな指導、生徒に寄り添った指導を実践している。
- ・雫石町からの手厚い支援と地域の方々のキャリア教育への積極的な参画がなされている。

成果

- 活動を通して、生徒が主体的・意欲的に学ぶ姿勢をもち、自らの考えを創造する力を身に付けている。
- 未来を切り拓く意欲をもち、地域の方々とともに将来について考え、地域や社会へ貢献する姿勢が養われている。
- 地域や企業の方々からの学び、協働的な学習により、問題解決能力や豊かな人間性が育成されている。

課題や今後に向けて

- ◆「しづくいし軽トラ市」への継続的な参加のみならず、販売促進に向けての戦略形成といった、探究のさらなる深化に努める。
- ◆協働的な学習をさらに進め、地域課題解決に向けた取組を深めると同時に、多角的なキャリア形成に努める。



「Select Future Design」 PTA、地域と連携したキャリア教育の推進

キーワード

PTAと地域の連携／人材活用／自分らしい生き方

取組概要

保護者の「子どもたちに自分の人生をしっかり生きてほしい」という願いのもと、PTAが主体となって学校、地域との連携により開催するキャリア講演会

基礎情報

岩手県の最北端、二戸市に昭和22年に開校し来年創立80年を迎える。生徒数は378名。多くの卒業生が保護者としてPTA会員となり、子どもたちの健やかな成長を願いキャリア講演会を始めとする様々なPTA活動に積極的に協力している。

取組の詳細

「大人に学ぶキャリア講演会～SFD～」の実施

【取組の経緯】

平成25年度まで、地域人材を活用したキャリア教育を学年ごとに行っていた。平成26年度から、PTAが講師を選定し、対象を2・3年生に拡大し「先輩に学ぶ会」を行った。平成27年度からは、「大人に学ぶキャリア講演会～SFD（Select Future Design）～」と称し、PTAが主体となって10～15人ほどの講師を招いてキャリア講演会を行っている。

【講演会の内容】

講師は二戸市内で活躍する本校の卒業生を中心としており、生徒の進路希望や興味関心に合わせ参加したい講座を2コマ選び、実施している。講演では、職業に就くまでの考え方や心構え、自分の生き方を決めたきっかけや出来事、未来を生きる中学生へのアドバイスやメッセージなど、生徒が生き方を考える契機となるようなお話をしている。



成果

- ・職業に就くまでの考え方や心構え、経験に基づくやりがいや充実感等の話を聞くことにより、生徒自身が自分の進路を前向きに捉え、進路選択に役立てている。
- ・地域の講師の話を聞き、改めて地域に誇りを抱き地域愛を育む機会となっている。
- ・本校卒業生として誇りをもって歩まれている方の姿を見られる機会であり派遣側も人材育成の機会としている。

課題や今後に向けて

- ・生徒の興味関心を引き付ける企画運営を行う。
- ・職種等偏りのないように講師を選定する。
- ・新たな地域人材の発掘。
- ・保護者、地域へのPTA活動の魅力の発信。



「よりよい生き方を探究する生徒の育成」～その学び、どう生かす～

キーワード

系統性を踏まえたカリキュラム／保護者プロフェッショナルバンク／「キャリア・パスポート」活用／教員研修の実施

取組概要

本校では、「よりよい生き方を探究する生徒の育成」を研究テーマに掲げ、教科教育はもとより、全教育課程を通じて生徒の学びを支えている。キャリア教育においては、1年次に保護者プロフェッショナルバンクを活用した職業講話およびインタビューを2回実施し、2年次には山形県温海地方での職場体験、3年次には長野県茅野市での地域活性化体験と提案活動を行うなど、系統的なキャリア学習を展開。また、キャリア教育や各種行事での学びの振り返りを「キャリア・パスポート」に記録し、生徒一人一人の歩みを可視化している。また、教員も学びを深めるために、教員研修を計画的に実施するとともに、近隣の教員との学びの機会を設け、地域貢献に努めている。

取組の詳細



1年次には、保護者プロフェッショナルバンクを活用し、さまざまな職業に就く保護者の方々から「仕事のやりがい」や「課題への向き合い方」について講話をいただき、生徒が働くことの意義や現実に触れる貴重な機会となった。



2年次には、山形県温海地方を訪問し、過疎化が進む地域で活性化に取り組む方々から直接お話を伺うとともに、地域の仕事や暮らしに関わる体験学習を行いました。生徒たちは、地域課題に向き合う姿勢や地域に根ざした働き方について学ぶ貴重な機会となつた。



3年次には、長野県茅野市にて、地域の方々や移住者の方々が連携しながら地域活性化に取り組む現場を訪問し、体験活動を通して地域づくりの実際を学びました。その後、学びをまとめたレポートを作成し、自らの考えを深める機会とした。



「キャリア講演会」では、文部科学省教育課程課調査官・長田徹先生を講師にお迎えし、宮城県および仙台市の教員も参加して実施しました。教員にとっても、キャリア教育に関する理解を深める有意義な学びの場となつた。

基礎情報

宮城教育大学附属中学校は、宮城県で唯一の国立中学校であり、教育研究と実践の拠点として重要な役割を担っている。仙台市の中心部に位置し、全校生徒476名が在籍している。「自主・協同・明朗」の校是のもと、「自ら考え行動し、共に学び合い、高め合う生徒の育成」を学校教育目標として掲げ、自己肯定感を基盤とした学びを重視し、生徒一人ひとりが未来を主体的に生き抜く力を育むことを目指している。

この教育理念の実現に向けて、教職員は先進的かつ先導的なモデル校となるべく研鑽を重ねている。また、地域社会および宮城教育大学との連携を積極的に活用し、教育実践の充実を図っている。

成果

【R6年度の全校アンケート調査から、以下の成果が見られる。】

- ・「将来の目標や夢を持っていますか」の問い合わせ77.6%(前年度比+4.1)の生徒が肯定的な回答をした。中でも3年生からは、82.2%で最も高い肯定的回答を得られた。
- ・課題の解決に向けて自分で考え、主体的に取り組む生徒94.7%(前年度比12.8)の肯定的な回答を得られた。
- ・「学校生活を振り返り、自己の成長を実感できていますか」の問い合わせ93.2%の生徒から肯定的な回答を得られた。
- ・「今の学びが将来につながっていると思いますか」の問い合わせ、9割以上の生徒から、肯定的な回答を得られた。

これらの結果から、生徒たちが将来を見据えながら日々の学びに前向きに取り組み、自己の成長を実感していることがうかがえる。

課題や今後に向けて

- ・生徒のアンケート調査の結果から、「よりよい生き方について」経験を通して、自分なりの生き方を見出そうとしている様子が見られる。生徒の1割弱の生徒が、肯定的な意見ではなかったため今後は、一人一人の考えに寄り添い、より質の高い充実した実践ができるように考えていきたい。
- ・保護者プロフェッショナルバンクに加え、地域の方々のボランティアバンクも活用して、幅広く生き方について考察させたい。
- ・キャリア教育の充実と働き方改革の推進を図りたい。



模擬株式会社 石商マーケット

キーワード

起業体験活動／商品開発／地域連携・活性化

取組概要

商業高校での学びを総合的に実践し、実社会で役立つ力を身に付けるとともに、将来、地域に貢献できる人材を育成することを目的に、**模擬株式会社「石商マーケット」**の設立を通じて、企業や大学、行政、地域等と連携しながら商品開発・仕入れ、販売までの一連の流れを体験・実践している。活動を通して、生徒が地域とのように関わり、どのような役割を果たすかを考える機会とし、より高い志を育み、よりよい生き方を主体的に描く力の育成も目指している。

基礎情報

創立114年目を迎える歴史と伝統のある商業の専門高校。平成18年度より共学化し、総合ビジネス科に学科改編を行った。令和7年度の生徒数は300名である。平成19年度より石巻専修大学と高大接続研究事業をスタートし、より専門的な学習に対する動機付けおよび学習意欲や、将来の進路に対する意識の向上等を図っている。

取組の詳細

○模擬株式会社「石商マーケット」運営、販売実習

3年生が「経営戦略班」「地域連携班」「広報戦略班」「商品開発班」に分かれ、研究テーマを設定し、企業や石巻専修大学、地域等と連携してマーケット運営、商品開発、販促活動を行っている。販売実習は年2回、道の駅と地元スーパー・マーケットの2か所で実施するほか、市内の各種イベントにも参加している。探究のサイクルを繰り返すことで、汎用的な力と深い知識を得るとともに、模擬株主総会に反映させている。

○商品開発

地域の産業活性化を目指し、地域の基幹産業である水産業に着目し、笹かまぼこを使った「**石商パン**」を企画、販売している。また、未利用の水産資源が廃棄されている現状を知り、フードロスの課題および持続可能な漁業の在り方について、検討を行った。漁業生産組合と連携し、「**サステナブルなわかめポップコーン**」を開発、商品化に取り組んでいる。



○模擬株式会社「石商マーケット」運営に向けた各講座の実施

より実践的な知識や技術を身に付けるため、広告制作や販売に関する各種講座を実施。企業の協力を得て、電話対応のロールプレイや生徒同士で身だしなみを評価するビジネスマナー講座も取り入れている。

成果

生徒アンケートでは、「活動に取り組んでよかったです」との回答が97.2%であった。「経営することの難しさを実感できた」「仕入れから販売まで流れを知ることができた」といった回答が多く、地域の人と関わりながら、商品開発・仕入れ・販売までの一連の流れを実践的に学ぶことで、地域における自分の役割や可能性を見つめ直し、将来に向けた志を明確にするきっかけとなっている。

課題や今後に向けて

- ・より充実・発展的な活動にするため、同地域にある他の高校や学科との連携を検討し、交流や協働を通して、新たな視点を取り入れる。
- ・地域の小・中学生との連携を検討し、早期より協働学習を通じて、キャリア意識の醸成を図る。



ふるさと「鹿角」を学びのフィールドに～ふるさとかづの絆プラン事業～

キーワード

ふるさと・キャリア教育、学校間連携、地域連携、仲間づくり

取組概要

- 「学校区のある地域」だけでなく、「市内全域」をふるさとのフィールドとして捉え、学校同士が連携して体験活動を行う「ふるさとかづの絆プラン事業」を令和3年度から展開している。
- ふるさと鹿角に対する理解や愛着を深められるよう、それぞれの地域特有の農産物や伝統芸能について、体験活動を通した学習を実践している。
- 児童生徒数の減少が進み、人間関係が固定化されている小規模校もあるため、他校との交流により、仲間を増やしていくこともねらいの一つとしている。

基礎情報

- 市内小学校数 6校、全児童数 966名
- 市内中学校数 4校、全生徒数 600名
- 鹿角市教育大綱 基本理念「ふるさとを誇り未来を拓くまち～鹿角の未来を拓く教育の推進～」
- キャリア教育関連事業 「ふるさとかづの絆プラン事業」、「ふるさと・キャリア教育推進事業」、「特色ある学校づくり推進事業」

取組の詳細

令和6年度実績

○小学校 12事業

- 農作業交流（鹿角りんご摘果～収穫～発表会、稻刈り、松館しづき大根引き～収穫）
芸能交流（花輪ばやし・毛馬内盆踊、からめ節）
文化交流（大湯環状列石）



国指定特別史跡である大湯環状列石について、大湯小学校と尾去沢小学校の児童が一緒に学習する取組。このほか、農作業交流（鹿角りんご）や芸能交流（からめ節）など、小規模校同士で年間で複数回に渡り体験活動をしている。



八幡平小学校で地元農家と連携して栽培している「松館しづき大根」について、栽培作業の一部と収穫作業を柴平小学校の児童と共同で行う取組。地域特産の農作物への理解を深めるとともに、収穫の喜びや達成感を共有している。

○中学校 4事業

- 合唱交流（合唱披露）
ガイド交流（史跡尾去沢鉱山、八幡平大沼・後生掛）



尾去沢中学校生徒が、鉱山ガイドの取組の成果発表の場として、八幡平中学校生徒にガイドを行う取組。鹿角に対する郷土愛を育むだけでなく、人間関係能力やコミュニケーション能力、表現力を育むことをねらいとしている。

成果

- 学校区だけでなく鹿角市全域をふるさととして捉え、それぞれの地域の魅力を発見することで、より広い視野でふるさと鹿角についての理解を深めることにつながっている。
- 郷土愛の醸成のほか、児童生徒の地域への貢献意欲や自己肯定感の向上が図られている。
- 他校の様子に刺激を受け、更に自らを高めようと児童生徒が自発的に考える機会にもなっている。

課題や今後に向けて

- 学校間や地域との調整に係る教職員の負担軽減のほか、移動時間を含めた事業実施のための授業時間の確保が課題である。ふるさとを誇り、ふるさとを支える人材育成を目指し、関係機関との連携・協力の下、継続した事業展開を図っていく。

推薦教育委員会名：（秋田県教育委員会）



地域を巻き込み 未来を創る 総合的な学習の取組（iNAゼミ）

キーワード

地域活性化／総合的な学習の時間／ふるさと教育／起業家教育

取組概要

総合的な学習の時間において、地域活性化を目指すことを通じて、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目的とした全校縦割りの活動に取り組んでいる。生徒が主体となって模擬会社を設立し、PTAや学校運営協議会などの協力を得ながら、会社の運営を行っている。地域が抱える少子高齢化という課題に、地域の大人と共に向き合い、解決に向けた実践的な活動を通して、秋田県の学校教育の共通実践課題である「ふるさと教育」を基盤としたキャリア教育を推進している。

取組の詳細

【会社組織の確立】

模擬会社「iNA-CO」は、管理部・事業部・営業部の3部門と、それらを統括する最高運営会議によって構成されている。各部門の代表は主に2・3年生が務め、全校生徒は自らの希望に基づいていざれかの部門に所属している。

【株主総会の開催】

地域の全戸に活動PRチラシを配布し、株主総会を開催している。地域の方々に株を購入してもらい、模擬会社の運営資金としている。

【事業者との交渉・商品開発】

事業部を中心に、川連漆器・三梨牛・稻庭うどん・駒形りんごなど、県内を代表する地場産業を素材とした商品を企画・開発している。地元PRにつながる商品づくりを目指し、協力企業の選定や交渉も生徒が主体的に行っている。

【広報活動】

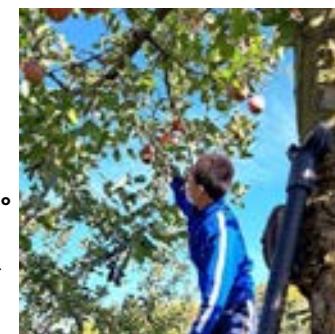
営業部を中心に、PR動画やポスターの制作、報道機関への情報発信などの広報活動を展開している。

【販売活動】

地域行事や学校祭において、開発した商品の販売を通じて地域PRを行っている。また、市内4カ所での一斉販売会を、全校生徒とPTA会員が協力して実施している。

【成果発表】

1年間の活動成果は株主総会で発表している。株主には、保有株数に応じて開発商品を株主優待として提供している。



基礎情報

団体の特徴（学校）

全校生徒131名（1年37名、2年46名、3年48名）秋田県南部の湯沢市にあり、今年で創立50年を迎える。県内有数の地場産業（川連漆器・三梨牛・稻庭うどん・駒形りんご等）があり、東西が山に囲まれ、中央を皆瀬川が流れる自然豊かな伝統のある地域である。少子高齢化という地域の課題に向き合い、地域の一員として中学生ができる地域活性化事業として総合的な学習の時間に取り組んでいる。

成果

- ・郷土愛に関する生徒アンケートの結果、地域のために貢献したいとする肯定的な回答の割合は90%を超えており、経年比較では、学年が上がるにつれてその割合が増加する傾向が見られる。
- ・将来の夢や目標をもつている生徒の割合は80%を超えており、郷土愛に関するアンケート結果と同様に、学年の上昇に伴って増加傾向にある。
- ・学校運営協議会、地域学校協働活動推進員、PTA、地域事業者等との連携が強まることで、地域住民から生徒に対する肯定的な声掛けが増加している。また、総合的な学習の時間以外でも、外部機関からの協力が得やすくなっている。

課題や今後に向けて

- ・生徒の活動は原則として週2時間であるため、協力事業者の負担が大きくなる場合がある。今後は、生徒の活動時間をより効果的に確保するための組織体制や計画を工夫していく。
- ・保護者以外の外部協力者が年々増加しており、中学生による地域活性化の取組を地域全体に広げていくために、外部機関と連携した広報活動をさらに推進していく。
- ・学校行事や教科・領域との関連性を明確にしながら、活動の質の向上と行事の精選を図り、カリキュラム・マネジメントを一層充実させていく。



「ふるさと大好きプロジェクト（＝ふるさと学習）」を主体とした富並式「キャリア教育」

キーワード

ふるさとのよさ再発見／ふるさと学習／地域連携／系統的キャリア教育／複式学級／大学教員との連携

取組概要

- 1) 「ふるさと大好きプロジェクト」（＝ふるさと学習）主体の全校キャリア教育
～「ふるさと学習」を年間プログラムに組込み郷土のひと・もの・ことに学ぶ～
- 2) キメ細かな教育で、「井の中の蛙にならず大海を知る」大作戦
～小規模校のメリットを最大限生かした、キメ細かなふるさとキャリア教育
- 3) 富並式「キャリア・パスポート」の作成
～「世界に一つだけの宝物ファイル」を作ろう作戦！～

取組の詳細

（上記「取組概要」の番号に対応）

- 1) ふるさと学習と年間プログラム～地域住民の支援による展開～
 - 年間計画に「ふるさと学習」を組込み、地域住民による学校応援団が地域の先生となり、米作りをはじめ、ジンサイ摘み・べに花・里芋栽培・鮭捕獲等、富並ならではの実践体験活動や地域資源・素材をフル活用した「実践型＆探究型のふるさと体験学習」を長年展開
- 2) 児童一人ひとりに“キメ細かな”ふるさとキャリア教育
 - 本校出身の先輩（大学教員）や各種地域人材を講師に招き、話を聞いたり、ワークショップをしたりすることによる「キャリア形成」を継続的に実施/一旦、山形を出て、地元に戻ってきた教員の目を通し、“富並”的よさを再発見する授業は、何より効果的な方法
- 3) 富並式「キャリア・パスポート」作成
 - ～「世界に一つだけの宝物ファイル」を作ろう作戦～
 - 自分や友達、地域の良さを見つめて一冊のファイルにまとめ、人間関係形成能力を育て、“未来のキャリア”へのストック（蓄積）としている。



基礎情報

- 教育目標：「よく学び、心豊かで、たくましい人間の育成」
- 児童数：20人（1-2年/3-4年/5-6年＝複式3学級）
- 地域人口：1,140人（410世帯）
- 地域の特徴：靈峰葉山（1,462m）のふもとに位置し、富並地区と山の内地区からなる。ジンサイの県随一の特産地で、摘み取り風景は、山形を代表する“初夏の風物詩”ともなっている。



成果

- ◎【成果1】コミュニケーション力が向上したこと
- ◎【成果2】児童の視野が格段に広くなったこと
 - ～ふるさと学習で多くの方々と関わり、また発表機会などを通し、人と上手に関わる力・対話力・伝える力などが向上したことが何よりの成果である。



課題や今後に向けて

- “地元に帰るDNA育成”に向けて
 - 「ふるさと学習」をしっかりと行うことが、キャリア教育、あるいは、“地元に帰るDNA育成”に役立つことが、データとして確かめられるとよい。また、PDCAサイクルをきちんと回しながら実践することも課題。



地域をフィールドとし、地域に愛されるキャリア教育の推進

キーワード

学校をあげてのキャリア教育／地域理解と連携／地域課題への参画

取組概要

学校の重点目標の一つとして「高校卒業後の志を育て、志望実現のために努力できるキャリア形成環境をつくる」を掲げ、学校全体でキャリア教育に取り組んでいる。総合ビジネス科では、地域を学びのフィールドとし、関係団体と連携した実践的・体験的な学習活動を行っている。地域産業や課題への理解を深め、地域活性化に向けた企画・実践・情報発信を自ら行うことのできる力を育てている。普通科では、1・2年次で地元の企業における体験的学习を実施し、3年次の進路選択につなげている。

基礎情報

団体の特徴（学校）：全校生徒143名、2学科を設置（総合ビジネス科14名、普通科129名）。山形県の北部新庄市に所在。創立111年の歴史があるが、本年度末で閉校し、来年4月に新庄北高校と統合し新庄志誠館高校として生まれ変わる。これまで地域に貢献できる人材を育成し続けて来た。特に総合ビジネス科は地域と連携・協働による学習を推進してきた。

取組の詳細

総合ビジネス科の取組

①地元店舗との共同商品開発

（代表例：最上伝承野菜を活用した黒豆スイーツ「ねーじゅ」の開発）

市内の老舗和菓子店の協力を得て、商品化を進め、市役所主催のイベントでは他の地域物産品とともに販売も行った。地域資源の魅力を再発見し、発信する力を実践的に養っている。

※このほかにも、他の店舗と、最上伝承野菜「黒五葉」や「くるみ豆」を用いた共同商品開発を実施した

②「地域貢献プロジェクト」長期産業現場実習。

令和7年5月から9月にかけて全12回実施している。市内8か所の事業所に分かれて活動し、新庄市開府400年を記念した弁当の立案・販売を目指す取り組みや、図書館での読み聞かせ・読書会イベントの企画を行っている。

地域の課題や魅力に直接触れながら、地域とともに学び、行動する姿勢と実践力を育んでいる。

普通科の取組

進学者の割合が多いが、勤労観・職業観の育成に力を入れている。1年次には企業見学、職業人を招いての講話等、2年次には希望者に地元企業でのインターンシップを実施している。

成果

○学校全体としては、具体的な取り組みを通して、地域や地元産業への理解と貢献意識が高まった。

○特に総合ビジネス科では、以下の成果が得られた。

- ・商品開発を通じて、地域の伝統食文化の魅力を知り、発信する機会となった。
- ・販売までの準備や調整の難しさを実感し、商品企画から販売までの一連の流れを学ぶことができた。
- ・市内複数の事業所での実習を通じて、企画力や調整力、コミュニケーション能力など多様な実践力を身につけた。

課題や今後に向けて

○実習先や活動内容によって学びの深さに差が出るため、事前・事後の振り返りをさらに充実させ、学びの言語化や共有できる場の工夫が必要である。

○継続的な学びの機会を確保するとともに、生徒が主体的に地域課題に取り組むプロセスをさらに支援していく。

○来年度からは、統合・新設される新庄志誠館高校の普通科のキャリア教育プログラムに活かしていく。



「たい」が泳ぎ続ける学校づくり

キーワード

キャリア教育の視点を生かした授業デザイン／「ここでほめたい！」の設定／特別活動を要としてキャリア教育

取組概要

特別活動を要としながら、各教科等において、キャリア教育の視点を生かした授業デザインのもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、児童に学ぶことの価値や意義を実感させることで、「チャレンジする力」や「感じとる力」といった資質・能力を育み、短期及び中長期的に「なりたい自分」や「夢や目標の実現」に向けて学び続ける児童の育成を目指した。

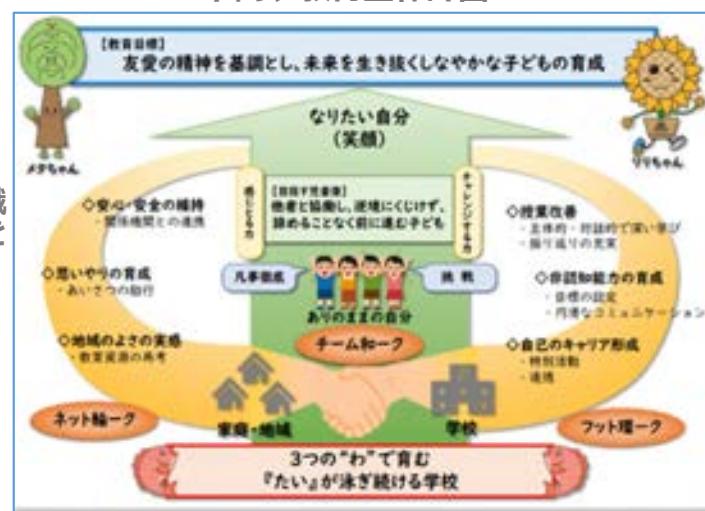
取組の詳細

○各教科等の目標やねらいの達成とともに、各教科等の学びにおいてキャリア教育の視点を意図的・系統的に指導することで、教科固有の資質・能力及びキャリア発達のための教科横断的資質・能力を育成する授業実現と「キャリア・パスポート」の効果的な活用により、キャリア発達を目指す。

キャリア教育全体計画

○育みたい資質・能力（「チャレンジする力」「感じとる力」）を明確化し、育成を目指す資質・能力が高まっている姿を「ここでほめたい！」姿として設定し、教育課程全体で、全職員で価値付け・意味付けをしていく。

○特別活動を要としたキャリア教育を実践し、各教科等や行事等との関連を明確化して授業改善を目指す。



基礎情報

団体の特徴（学校）

教育目標「友愛の精神を基調とし、未来を生き抜くしなやかな子どもの育成」を掲げた創立152年の学校である。令和5年度より2年間「福島県キャリア教育推進事業 キャリア教育モデル校」の指定を受け、実践を積み重ねてきた。

成果

○育成を目指す資質・能力を明確化することで、特別活動を要として各教科等の中でキャリア発達を目指す児童の姿をイメージして授業実現を図ることができた。指導案に「ここでほめたい！」と明文化し、教師が意図的に価値付けることができた。
○学級活動や各種行事等教育活動全体で児童に目的をもたらせ、役割を決めることで、主体的な態度の表れである「～したい」を生み出すことができた。また、さらに「～したい」が各教科等でも引き出され、問題解決の過程で連続していく授業実現に向けて学校全体で取り組むことができた。

課題や今後に向けて

○家庭や地域を巻き込んでキャリア発達を目指していくことが重要である。令和5年度の創立150周年行事では、児童は地域の方々と広く関わることができたので、今後も家庭や地域との連携強化を図りながら、「ひと、もの、こと」との対話によりキャリア発達を目指し、夢や希望を追い求め学び続ける自立的な学び手を育てていく必要がある。



キャリアカレンダーの充実へ

キーワード

児童が自己を振り返り、充実した学校生活へ

取組概要

- 学校全体の取組として、「キャリア・パスポート」の活用だけではなく、各学級で「キャリアカレンダー」を作成し、児童が主体的に活動や行事を振り返ることができる掲示物の工夫にも取組んでいる。



取組の詳細

- 学校行事や学年行事を中心に学年の実態に合わせて、めあてや振り返りの時間を確保している。
- 1年生は、担任の聞き取りによるキャリアカレンダーの作成を行っている。
- 学級活動の時間には、学期2回、「キャリア・パスポート」を記入し、自己を振り返る時間を設定している。目標に向かう力の育成と共に、友達と協力したり協働したりする力の育成を図る時間の充実を図っている。

基礎情報

- 全校児童数110名である。
- 相馬野馬追に縁がある家庭が多く、特設の「ふるさとクラブ」では、相馬野馬追の法螺貝演奏を行うなど、地域学習にも取組んでいる。
- 令和4年度から2年間キャリア教育推進校の指定を受けた後も、キャリアカレンダーを継続して実践し、将来とのつながりを考える時間の大切にしてきた。

成果

- 児童の身に付けたい力を可視化できる「キャリアカレンダー」を作成し、年間を通して実践することで「なりたい自分」を意識できる取組となっている。
- 地域学校協働活動等の推進・充実を図ることで、児童が目標に向かって高め合う時間がが多くなり、粘り強く努力する姿が多くみられる。

課題や今後に向けて

- 「キャリアカレンダー」の内容を見直し、将来に向けて自己を見つめる機会の充実を図る必要がある。
- キャリア教育の視点を生かし、授業における主体的・対話的な学びの実現に向けて学校全体として取組内容を検討していく。



特別活動を要にし、すべての活動をとおした、見通し・ふり返りと目標設定の実践

キーワード

ふり返りと目標設定／「キャリア・パスポート」の活用／心理的安全性のある学級集団づくり／職場体験学習／見通しとふり返りの強化

取組概要

- ①ふり返りと目標設定：学級活動（3）
- ②「キャリア・パスポート」・自分発見シートの活用：小中接続、面談とふり返り
- ③心理的安全性のある学級集団づくり：学級活動（1）生徒主体の学級会、SST、QUテスト
- ④職場体験学習：小学校からの系統的な探究的な学習と地域貢献
- ⑤見通しとふり返りの強化：各教科、総合的な学習、生徒指導、部活動

取組の詳細

○学級活動（3）におけるふり返りと目標設定

1年間を4つに分けた四半期ごとに、学年の目標に則しながら「なりたい自分の姿（Whyなぜ, Whatどんな, Whereどの場面）」を各自設定し、クラスメイトとの対話をとおして自分の成長を振り返る。

○小中接続のための自分発見シートの活用

小学校卒業前に自分発見シートを記入し、担任と保護者から応援メッセージをもらう。自己分析、目標、なりたい自分とその手法、または不安な事を明確にして中学校に入学する。入学後に中学校の担任がそのシートを基に、生徒理解や本人の頑張りや成長を見取る。

○見通しとふり返りの強化

各教科、特別活動、総合的な学習、発達支持的な生徒指導の場面、日々の部活動においても常に見通しを立てて、自分の活動を振り返る場面を意図的に設定している。



基礎情報

団体の特徴（学校）

棚倉町教育委員会は平成25年よりキャリア教育を推し進めており、棚倉中学校もキャリア教育を基盤とした教育課程の研究に取り組み、成果を上げている。特に小学校の実践を中学校に繋ぎ、且つ広げるためにも、常に生徒の姿の変容を捉えながら自己マネジメント力の育成を図る実践を行っている。

成果

○キャリア教育意識調査から見た変容（R6年11月→R7年6月）

・「基礎的・汎用的能力」の伸びに関する質問項目において、4能力全てで伸びと定着が認められた。学校教育理念を踏まえたキャリア教育の実践できた結果、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。」の質問について「実践している。」の回答が18%→33%へ、「どちらかといえばしている」の回答が67%から79%になった。

○不登校生徒の減少

・生徒にとって居場所となる心理的安全性のある学級経営がてきた結果、全校で不登校生徒の出現率が減少した。

○部活動上位大会への進出と活躍の原動力

・見通しとふり返り、目標づくりをサイクル化したことで、役割を果たす意義が明確になり、東北大会・全国大会等上位大会で顕著な活躍をすることができた。

課題や今後に向けて

・学級活動(1)(2)(3)を有機的に関連付け、否定から入らない価値づけ、つなぎ、語らせる対話の技法を習得し、カリキュラムマネジメントを生かした心理的安全性のある学級づくりにチーム学校で取り組んでいく。
・特別活動を要として集団づくりをとおしながら教科の授業でも基礎的・汎用的能力の育成を目指し、合科的な授業実践を進め、学んだことをつなぎ、活用する力の育成と深い学びにつなげる授業研究を進めていく。

保護者対象進路ガイダンス及び意見交換会の開催

キーワード

保護者の進路対策、保護者間での悩み解決意見交換会

取組概要

保護者と教師の会進路対策委員会が企画・運営している、『保護者対象進路ガイダンス』を、年2回（7月・12月）実施している。その際に、保護者同士での悩み解決及び情報共有の機会として『意見交換会』も実施している。

本校は、中高一貫校であるため、中高の保護者が混じって参加しているところが特徴である。7月は、中学生保護者をメインとして開催している。

取組の詳細

・令和5年度

12月16日（土） 参加人数：25名

参加内訳：中学保護者6名 高校保護者：19名

講師依頼企業：株式会社ライセンスアカデミー

講演動画を作成し中高の全保護者へ公開した。

・令和6年度

7月31日（水） 参加人数：26名

参加内訳：中学保護者18名 高校保護者8名

講師依頼企業：株式会社リクルート

講演動画を作成し中高の全保護者へ公開した。

12月14日（土） 参加人数：38名

参加内訳：中学保護者11名 高校保護者27名

講師依頼企業：株式会社さんぽう

・令和7年度

7月29日（火） 参加人数：36名

参加内訳：中学保護者12名 高校保護者5名

中学生10名 高校生2名

他校保護者 4名

講師依頼企業：株式会社ベネッセコーポレーション

保護者と生徒と一緒に参加できるようにした。

また、他校保護者の参加も受け入れた。



進路ガイダンスの様子



意見交換会の様子

基礎情報

団体の特徴（学校・PTA）

在籍生徒数：高校458名 中学178名（令和7年5月1日現在）

クラス数：高校1学年5クラス 中学1学年2クラス

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故後に、教育環境の整備と震災を踏まえた諸課題に対応できる人材育成のために平成27年4月に新設開校した学校である。平成31年には、中学校が開校された。

今年度は、創立10周年記念式典を10月に開催する。

成果

- ・保護者への進路に関する幅広い情報提供が可能となり、学校全体の進路情報の質を高めることに結びついている。
- ・保護者間で進路情報を共有する機会をつくることで、家庭における生徒への進路に関する的確な助言に結びついている。
- ・中高保護者の交流の機会を作ることで、生徒のキャリア形成の早期支援に結びついている。

課題や今後に向けて

- ・参加人数を増やすための保護者への案内方法を検討する。
- ・保護者と生徒が確実に情報共有できるよう検討する。



農業体験と販売体験のハイブリッドによるアントレプレナーシップの涵養

キーワード

地域連携／稲作体験／起業体験活動

取組概要

- (1) 地域の協力を得た米作り
学校近くの水田を借用し「稻田きずな園」の名称で米作りを行っている。活動に際しては、農業団体「さわやか上稲田」の方々の協力のもと、児童が主体となって田植えや稲刈りを行っている。
- (2) 「道の駅かさま」での販売体験
2回に分けて実施した。1回目(11月)は、収穫したもち米の販売、2回目(2月)は、加工品の販売(収穫したもち米を地域の企業が団子、おかき、もち、いちご大福等に加工)を行った。

取組の詳細

- (1) 地域の協力を得た米作り
令和6年度には、それまで6年生が行っていた田植え・稲刈りの活動を、できるだけ多くの児童がかかるように、4~6年生で実施した。稲の成長の様子を児童に伝えるため、農業団体と学校が協力して出穂した稲を撮影した写真を児童に紹介した。また、収穫したもち米を昇降口の近くに展示し、一人一人が米袋を持ち上げて重さを実感できるようにしたことで、全児童が「自分の学校でできたもち米」という思いがもてた。

- (2) 「道の駅かさま」での販売体験
令和3年にオープンした「道の駅かさま」は、特産品の販売や全国1位の生産量を誇る笠間の栗を使ったスイーツを目当てに地元のみならず、近隣の都県からの来訪者も多い。そのような人気の公共の施設の一部を借りて、販売体験を行った。1回目(R6. 11)は、収穫したもち米を販売した。米の銘柄を決める際、各学級から名前を募集し、話し合いの結果「絆の結晶」に決定した。銘柄のラベルを作成し、児童が米袋に貼って仕上げた。販売は、土曜日に実施したため、参加可能な児童を募った。集客のためののぼり旗や看板も児童が作成し、販売のための口上や接客の基本的な所作について児童と相談しながら、マニュアルを作成して、全員が同じように接客できるようにした。当日は用意した126袋が完売する大盛況であった。

2回目(R7. 2)は、地元企業の協力を得て、もち米をおかき、団子、もち、いちご大福等に加工し、それらを販売した。1回目に参加した児童の「楽しかった」という感想を受け、メンバーも増えた中で、1回目に続き大盛況で、児童の表情にも、満足した様子が見られた。



基礎情報

全校児童129名の小規模校である。稲田地区は古くから採石、石材加工が盛んな地域で、稲田御影石は国際会議場や最高裁判所、東京駅など、日本を代表する建造物に使用されている。地区の小学校、中学校は共に1校のため、小中連携を図り、9年間の継続した教育活動を実践している。地域とのかかわりも密接で、各種体験活動や学校行事等、多くの場面で地域の方に協力をいただいている。

成果

- ・地域(団体や企業)と学校が連携して米作りや販売活動を行ったことで、地域や学校の特色を発信することができた。
- ・令和5年度における学校評価アンケートでは、「人の役に立っている」という設問に対し肯定的な回答をした児童が58%であったのに対し、令和6年度は86%となった。このことから、この取り組みが児童の自己有用感の獲得につながったと考える。
- ・米作りと販売体験を一体化することで、生産者、販売者としての責任をもたせ、一般の方々にも評価される活動として再設定したことにより、児童は自己有用感を得ることができた。このことから、アントレプレナーシップの涵養にもつながったと考える。

課題や今後に向けて

- ・昨年度までは、学校の代表として中高学年の児童が主体となった活動であったが、今年度から全校での取組として、低学年の児童も参加できるようにした。
- ・現在は、米作りを実施しているが、広い敷地を活用し笠間の名産である栗の栽培にチャレンジするなど、活動の幅を広げていきたい。
- ・より多くの人に本校の取組を知りたいためにはどうすればよいか、児童の自由な発想を取り入れ、よりアントレプレナーシップの涵養を図っていきたい。
- ・働いて得た収益金については、使い道を見つけるが、被災地への義援金等、社会貢献活動につながるよう話し合いを進め、更に自己有用感を高めていきたい。



自分のよさに気付き、「学ぶこと」と「自己の将来」をつなげる

キーワード

地域・企業連携／他校種との交流／プロジェクト型学習

取組概要

- 系統的、教科等横断的なつながりを意識した探究的な学びの実践
- 地域・企業と連携した学習の工夫（第6学年「夢に向かって進もうプロジェクト」）
- 他校の児童生徒や市役所との交流
(第5学年「中一小(中郷第一小学校の略)校舎リニューアルプロジェクト」)
- 福祉体験活動及び福祉の視点を生かした地域貢献活動
(パラスポーツ体験、白杖体験、盲導犬教室、シニア体験、福祉キャラバン等)

基礎情報

- 団体の特徴(学校)
- 児童数 434名
- 地域・学校
本学区は茨城県北茨城市南部の中郷町に属している。学校のまわりに田園風景が残っているが、新たな住宅地の造成や大型スーパーの出店等により変化を見せており、これらの環境を学校教育に有効に活用する取組を行っている。
- キャリア教育の取組
校内課題研究のテーマとして「主体的に判断し行動する力の育成へ『つなぐ・つながる・活用する』学びを通して～」を設定し、キャリア教育を中心とした取組を進めている。

取組の詳細

夢に向かって進もうプロジェクト

自分の将来について思い描くことを目標とし、パーソルホールディングス株式会社と連携し、「はたらく」を考えるワークショップを実施した。その後、保護者や地域の方を招き、座談会方式でインタビューを行った。働いている大人の習慣や姿勢について学ぶことで職業観を深め、将来のキャリア形成に役立てることができた。



中一小校舎リニューアルプロジェクト

新校舎のデザイン案を考える活動を行った。デザインのアイデアを得るために、市役所の関係職員や他校の児童生徒にインタビューを行った。プロジェクトの最後には、保護者や地域の方々を招き、提案のためのプレゼンテーションを行った。課題を解決するためのアイデアを相手意識をもってまとめ、わかりやすく発表することができた。

成果

- 学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを感じている児童が1.3ポイント(95.6%[R5.12]→96.9%[R6.12])増加した。これは、市の関係者や他校との交流を行うことにより、学習が学校で完結するものではなく、社会とつながるリアルな学びになったからだと考える。
- 「中一小校舎リニューアルプロジェクトを通して、生活経験の中から課題を見いだし、その解決の中で主体性、企画力、課題解決能力が高まった。また、自分の興味・関心に合ったテーマの設定や、解決について自分自身で考えていくことにより、現時点での自分のよさを考えることにつながった。
- 「学校は、地域の方や『なかいち応援団』と連携して、児童の支援にあたっています」という保護者アンケートで、肯定的な回答が50ポイント(79.5%[R6.7]→84.5%[R6.12])増加した。

課題や今後に向けて

- 小中連携による9年間の系統的な指導を意識したカリキュラム・マネジメントの継続的実施
- 地域人材を中心とした外部講師の活用及びリストの作成
- 「キャリア・パスポート」を活用した、キャリア・カウンセリングの実施



生徒一人ひとりの「未来を支え・拓く」キャリア教育

キーワード 「多文化共生」「地域連携」「学校連携」「多様な進路」「キャリア支援」

取組概要

外国につながる生徒と日本人生徒が共に学ぶ環境を生かし、地域・大学・NPOと連携したキャリア教育を実施。多様な進路希望に対応し、就職・進学双方に強みを持つ支援プログラムを開設している。

取組の詳細

*は主な取り組み

①学校全体でのキャリア教育推進 1年次からの段階的キャリア教育プログラムを実施し、自己理解・職業理解・社会理解を深める。特に日本人生徒について、担任・教科・日本語支援担当が連携し、学力・生活・進路の面から一体的に支援している。

*1・2年生で実施する「なかまづくり活動」

*R5から特別の教育課程を編成（「日本の言葉と文化」）

*R8から商業科目（鬼怒商業高校からの遠隔授業）を開講

進路ガイダンス



なかまづくり活動



②多様な進路への対応

外国につながる生徒を含め、一人ひとりの希望に沿った進路支援を開設している。

*全員参加のインターンシップ（2年） インターンシップ

③キャリアガイダンス（全生徒） 企業や上級学校、卒業生や地域の社会人を招き、生徒が将来像を描きやすくするとともに、多様なロールモデルに触れられる機会を提供している。

④地域・大学・企業との連携（外国人生徒） 近隣大学やNPO、地元企業と協力し、課外活動や夏休みのフィールドワークを実施している。

基礎情報

結城第一高校は茨城県結城市に位置し、全校生徒約270名のうち約5割が外国につながる生徒である。半数以上が就職し、大学や専門学校への進学も多い。R4から外国人生徒支援の重点校となり、多文化共生を特色とした環境で、自分らしい進路を切り拓く力の育成を目指している。R7から、鬼怒商業高校との学校連携型キャンパス制を導入し、商業分野の学習や資格取得を可能にすることで、進路選択の幅を広げ、自立した進路決定力を育んでいる。

成果

- ・異文化理解と共生の雰囲気が校内に定着
- ・教員間の連携強化により、全校的な推進体制を整備
- ・就職内定率が高く、企業からの信頼を獲得
- ・日本語支援の充実により、進学実績も着実に伸長
- ・卒業生や地域人材を活用したガイダンスにより将来像を具体化

課題や今後に向けて

- ・外国につながる生徒への日本語支援体制の充実
- ・多様な進路希望に応じた支援体制の整備
- ・探究活動とキャリア形成の連動
- ・教員負担に配慮した持続可能な仕組みづくり



ライトラインで地域と共に創する次世代観光の実現を目指して（学科横断的な取組）

キーワード

地域連携/学科横断的な取組/探究学習/アントレプレナーシップ

取組概要

- ・白楊高校をライトレールの観光地の一つとしてPRする。
- (株)日本旅行が主催するGREEN JOURNEYと連携し、特定の学校が総合的な探究の時間の一環として農業体験などを行い、地域の自然や産業への理解を深めるとともに、持続可能な社会の実現に向けた課題意識を育んでいく。さらに、生徒同士の協働などの交流を通じて、多様な価値観に触れ、主体的に学ぶ態度や課題解決能力を磨くことを目指す。
- ・白楊高校の特色を活かし、学科横断的なライトライン関連商品を開発販売する。
- 7学科を擁する総合選択制専門高校である本校では、各学科の高い専門性を活かした連携体制により、学科横断的なプロジェクトや地域連携を主体的に推進。

取組の詳細

- ・白楊高校をライトレールツアーの観光地の一つとしてPRする。



本校の観光資源である文化庁国指定登録文化財を観光PRするため、案内板を設置。農業体験とライトレール乗車をセットにしたツアーを企画。サステナブルな観光プログラムをテーマに具体案を提案し、GREEN JOURNEYに参画。

- ・白楊高校の特色を活かし、学科横断的なライトライン関連商品を開発販売する。

本校の特色を活かした学科横断的な商品開発に取り組み、各学科の専門知識や技術を活用し、地域産業と連携・協働してライトレールの形をしたスイートポテト「ライトラインすいーとぼてと」を開発・販売。



基礎情報

明治28年に創設され、今年で130年を迎えた歴史と伝統のある総合選択制専門高校である。農業系学科の農業経営科・生物工学科・食品科学科・農業工学科・工業系学科の情報技術科、商業系学科の流通経済科、家庭系学科の服飾デザイン科の7学科が設置されている。栃木県宇都宮市にあり、JR宇都宮駅から近いにもかかわらず、東京ドーム2個分の敷地を有し、緑生い茂る教育環境に恵まれた学校である。全校生徒数は840名で、地域社会との連携や探究活動を通じ、地域に開かれた学校づくりを推進している。安心安全な環境のもと、未来を担う人材を育む学校を目指している。

成果

・本来実施したかった農業体験は“田植え”であったが、様々な問題があり断念した。しかし、諦めずに別の手段を模索することにより、新たな方法が見つかった。環境配慮と地域連携が加わることで、個の取り組みから共創するプロジェクトへと一步前進した。実社会でも、こうしたトライ＆エラーを繰り返し多くのことが生み出されていくのだという、貴重な体験を通じて新たな学びを得た。

・「ライトラインすいーとぼてと」は様々な所で販売され、販売開始の2024年10月から2025年6月までの販売実績は、6,787個、売上金額は¥4,072,200（税別）となった。当初の想定を上回る成果となった。これまでの取り組みを通して、「ライトラインすいーとぼてと」は地域に根差した商品として高い評価を得ることができた。

課題や今後に向けて

・今後は、田植え体験ツアーの実施に向けて準備を進め、地域と連携した新たな学びの場を創出していく。

・スタンプラリーを企画し、景品には生徒が開発した人気商品「ライトラインすいーとぼてと」を活用することで、地域との交流と教育活動の成果を広く発信していく。

・DX戦略を導入し、活動の成果を客観的に検証・蓄積するとともに、教育実践の質を高める取り組みへつなげる。

・このようにして、生徒はアントレプレナーシップを身につけて卒業し、社会に貢献する人材へと成長していく。課題解決に向けた探究活動や地域との協働を通じて、自ら考え行動する力を養い、将来は地域産業の担い手や新たな価値創造するリーダーとして活躍できることを期待したい。さらに、生徒が培った主体性や創造力は、変化の激しい社会において、柔軟に対応できる力となり、持続可能な社会の実現に寄与していくと願っている。



地域と共に創る！魅力溢れるみなかみ町PR大作戦

キーワード

郷土愛／地域協働／社会参画／キャリア形成／課題解決学習

取組概要

本校では、「人の関わり合いを通じ、夢や希望をもって将来の生き方を考えることのできる基礎的な態度や能力をもった児童の育成」をキャリア教育推進目標とし、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の4つの基礎的・汎用的能力の育成を目指している。その一環として、5年生の総合的な学習の時間（水上ハートタイム）では、単元「みんなが住みたい町～首都東京と私たちの水上」において、町役場職員の助言を得ながら、町をPRする移住希望者向けガイドブックの作成に取り組んだ。

取組の詳細

1 単元の流れ

- ①町役場職員から、みなかみ町の現状について聞く
- ②移住希望者向けガイドブック作成を単元の課題に設定
- ③みなかみ町のよさ・課題を調べ、ガイドブックを作成
- ④町役場職員からの助言を受け、内容を改善
- ⑤ガイドブックを完成させ、町役場へ送付し、実際の移住相談会などで活用

2 育成が期待される基礎的・汎用的能力

- 人間関係形成・社会形成能力：町役場職員との対話を通じたコミュニケーション・スキルの向上
- 自己理解・自己管理能力：移住希望者への魅力発信という明確な目的により、みなかみ町民としての自覚と主体性を育成
- 課題対応能力：みなかみ町のよさ・課題を見出し・分析し、効果的に魅力をまとめる計画立案力の育成
- キャリアプランニング能力：町役場職員との交流による学習・労働の意義理解

※町役場職員に助言をもらいながら、みなかみ町をPRするガイドブックを作成することで、郷土愛の育成と社会的・職業的自立に向けた基盤づくりを図っている。



児童が作成したガイドブックの表紙（一例）



ゲストティーチャーに自作のガイドブックを説明し、助言を受けている様子

基礎情報

団体の特徴（学校）

本校が位置するみなかみ町は、2017年にユネスコエコパークに登録され、水と森林を「まもる・いかす・ひろめる」人材育成に取り組む持続可能な町づくりを推進している。本校ではみなかみふるさと学習として、総合的な学習の時間（水上ハートタイム）の中で、ユネスコエコパークに関わる教材を活用した課題解決的な学習を通じて、郷土愛を育んでいる。児童数89名の小規模校であり、明るく元気な児童が多い。

成果

- ・ガイドブック作成により、情報活用能力と、自分の考えを正確に伝える表現力が向上した。
- ・地域で働く方々との交流を通じて郷土愛が育まれ、みなかみ町の発展に向けて自分たちにできることを考えるようになった。
- ・町役場職員にガイドブックのポイントを説明する活動を通して、様々な場面において話の順序や内容を工夫するようになった。
- ・多様な職種の方々との交流から専門的な学びを得るとともに、職業観が広がった。

課題や今後に向けて

- ・前学年の学びを活用し、教科等横断的な学習を取り入れた縦・横のつながりを重視した単元計画の構築が必要である。
- ・児童のキャリア形成にとって、より有効なゲストティーチャー招聘のため、地域学校協働活動推進員等との連携をさらに深める。

推薦教育委員会名：(群馬県教育委員会)



「生徒の可能性を引き出す教育デザイン」～南中学校の非認知能力育成とキャリア形成支援～

キーワード

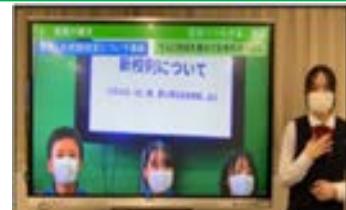
生徒による学校改革／異年齢集団による協働活動／対話力／3つの力（自律・つなぐ・グリット）／エージェンシー

取組概要

- ・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けられるよう、生徒の非認知能力の育成に着目したキャリア教育を推進している。
- ・特に、生徒会本部役員を中心とした生徒主体の学校改革を通じて、生徒のエージェンシー（主体的に社会に関わる力）を引き出す実践を展開している。

取組の詳細

- ・校長との懇談を契機に「理想の南中をつくろう」という目標を掲げ、生徒による学校改革が始動。
- ・令和5年度前期には、校則改定および縦割り活動の導入に挑戦。
- ・ICTを活用した「全校学活」により、全校生徒の対話を促進。生徒会が職員会議に提案・修正・再提案を行い、「TPOに応じた髪型」へと校則を改定。自律的判断を促す内容へと進化。
- ・生徒会はその後も「全員が笑顔」「全員で笑顔」というスローガンを策定し、地域連携活動や委員会改革など、理想の学校づくりに向けた実践を継続。
- ・教職員も非認知能力の育成を意識し、生徒と共に挑戦する姿勢を重視。生徒のアイデアを否定せず、支援的・伴走的な関わりを通じて、生徒の挑戦を後押し。
- ・生徒会活動の影響を受け、学年を超えた学び合いや協働が広がり、委員会活動・道徳・合唱など多様な場面で主体的な学びが見られるようになった。



基礎情報

団体の特徴

- ・全校生徒 387名
- ・非認知能力の評価・育成事業における指定校（県指定R5年度～）
- ・全校学活や南中Channel(生徒や教師の対話の機会)
- ・複数担任制



成果

- ・IGS株式会社の「Ai GROW」を活用し生徒のコンピテンシー（非認知能力）を分析したところ、自律する力、つなぐ力、グリットの3つの力が全学年で向上していた。
- ・話し合いを通して自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりができる生徒が増えた。R3 (35.7%) → R6 (44.4%)
- ・学校や学級をより良くするため、学活で話し合い互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている生徒が増加した。R3 (35.7%) → R6 (42.9%)
- ・理想の学校にするため、前例や慣例にとらわれず挑戦する生徒や教職員が増えた。

課題や今後に向けて

- ・より多くの生徒がエージェンシーを発揮できる場の拡充が今後の課題と考える。理由は令和6年度全国学力・学習状況調査の質問調査のうち、「自分にはよいところがあると思いますか?」に「当てはまる」と回答した割合が、全国平均は40.4%であったが、本校は32.1%であったため。
- ・生徒同士や生徒と教師が協働して取り組むことで大きな成果が得られているが、教職員の多忙化という現実的な課題も存在する。持続可能な体制づくりが求められる。
- ・前例や慣例にとらわれず学校改革を進める姿勢を続けることが大切である。
- ・今後も、生徒一人ひとりの主体性と協働性を育むことを大切にしながら、学校全体で理想の南中づくりに向けた取り組みを丁寧に進めたいと考えている。



地域と育てる全員参加型就業体験

キーワード 就業体験／地域連携／主体的な選択／自己実現

取組概要

主体的な進路実現につなぐ、1年間を通じて地域と育てる全員参加型の就業体験を実施。

取組の詳細

- ・体験先は28カ所。近隣の企業、商店、医療・福祉施設、農家等（ボランティア団体も含む。）。
- ・体験先は、希望調査を元に決定。
- ・毎週月曜日5、6限（学校設定科目）で実施。
- ・1年間を通じて全3期（3事業所）それぞれ7回ずつ、42時間。
- ・企業と連携した生徒評価の実施（生徒は「自己評価表」に基づき実施。事業所担当者は期ごとに参加生徒の評価を実施。）。

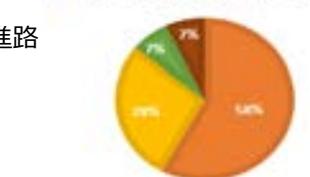


基礎情報

- ・地元からの要望を受け、昭和26（1951）年に開校。創立74年。
- ・在籍生徒数148名（令和7年8月末現在）。現在は町外からの通学者が約9割。外国にルーツがある生徒が3割、日本語の支援が必要な生徒が2割在籍。
- ・所在地である板倉町は、群馬県東端に位置。製造業・農業が盛ん。特にキュウリの生産量は全国屈指。
- ・3年間を通じ、進路への興味・関心を喚起させ、自分の適性を見つけて進路を選択し、その実現を目指す、独自のドリカムプランを実践している。

成果

- ・事前指導を通じて、体験先における主体的な姿勢を涵養できた。
- ・事後指導（振り返り）を通じて、各自、自己改善につなぐことができた。
- ・実体験を通じて、各自、自己の適性を把握できた。また、実体験が卒業後の進路選択に生かされている。
- ・様々な体験先企業との連携が構築され、進路先の開拓にもつながった。
- ・外国にルーツがある生徒を含め、地域社会の一員という意識が醸成された。



（生徒へのアンケート 令和6年12月実施）

課題や今後に向けて

【課題】

- ・体験意義の十分な理解
- ・生徒の希望する職種の受け入れ確保
- ・体験先との十分な連携
- ・外国にルーツがある生徒への就業支援の更なる充実

【今後に向けて】

- ・事前指導の充実
- ・商工会等と連携した開拓
- ・体験先との事前打合せ等による連携の充実
- ・外国にルーツがある生徒における地域企業等の理解
- ・在校生における地域企業等の理解



みんなで取り組むステ活

キーワード

社会課題解決／SDGs／児童会活動

取組概要

本取組は、資源回収活動（通称「ステ活」）を、児童のキャリア教育の一環として位置づけ、PTAが学校および児童会と連携して実施しているものである。ステ活とは、金属資源を回収し、リサイクル業者を通じて換金した利益を社会課題解決のために寄付する取組である。この活動を通して、児童は SDGsへの貢献や、より良い社会づくりについての理解を深めることができる。児童が自発的にステ活に取り組めるように、学校と連携し、児童会のJRC委員会を中心とした体制を整え、PTAがその運営を支援している。

取組の詳細

- ①PTAと学校で連携し、児童の学習活動としてステ活を計画する。
- ②JRC委員会が中心となり、全校児童に活動の概要を説明して進める。
- ③期間を決めて金属資源を児童玄関ホールで回収してもらう。
- ④社会課題解決のために、資源回収で得られた寄付金のより良い使い方について全校児童に考えさせる。
- ⑤寄付金の使い道を全校児童のシール投票により決める。
- ⑥集まった寄付金やその使い方の報告資料を渡し、児童が活動を振り返り、まとめの活動をできるようにする。



児童玄関での資源回収の様子



寄付金の使い方について選んで貼ってもらったシール

基礎情報

茂呂小学校は、全校児童数 760 名を超える市内でも有数の大規模校である。学校教育目標である「考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」の実現に向けて、地域とともに学校づくりに努めている。本PTAは、SDGsに関する取組や学校と地域をつなぐ取組を行っており、キャリア教育への充実に寄与している。

成果

- ・学校と連携し、ステ活を児童会のJRC委員会を中心に取り組む活動と位置付けたため、児童は、寄付金の使い方について活発に意見を出し合い、社会課題解決について深く考えることができた。
- ・児童一人一人が寄付金の使い方について考え、シールを貼つて選ぶ活動を通して、児童全員が活動に参加でき、より良い社会づくりについて考えを深め、自己成長を促すことができた。

課題や今後に向けて

- ・今後もPTAが学校と連携し、キャリア教育について保護者や児童が求めていることの実態把握に努めながら、保護者や児童、地域のニーズに合った教育支援活動をPTA会員同士が協力し合って進めていく。



児童と国家公務員とのワークショップ形式による交流活動

キーワード

人事院初任行政フォローアップ研修／国家公務員／ワークショップ 形式／交流活動

取組概要

本校のキャリア教育の一環として、人事院が実施する国家公務員の職員研修とタイアップし、6年児童が3年目の若手職員とのワークショップ形式による交流活動を通して、夢と希望を膨らませている活動である。

取組の詳細

人事院公務員研修所が本校の近くにあり、令和6年度から人事院が実施している初任行政フォローアップ研修、具体的には、各省庁の国家公務員3年目の職員の現場体験研修に協力させていただいている。実施内容としては、①校長による学校経営方針の講義、②校内全学級授業視察、③休み時間における児童とのふれあいタイム、④6年児童と夢や希望を語り合う交流活動、である。

本校は夢や希望を持つ児童を育てるため、キャリア教育を学校経営方針の重点事項の1つに掲げており、校長による講話朝会や、6年の総合的な学習の時間などにおいて、職業観はもちろん、目標に向かって努力する心、諦めないチャレンジ精神を学校教育活動全般で取り組んでいる。

本取組は、特色あるキャリア教育の一環として、入間市役所、及び入間市教育委員会からの依頼を受けて取り組んでいる。



基礎情報

団体の特徴（学校）

本校は開校137年目を迎えた児童数288名の歴史ある学校である。加治丘陵の見晴らしのよい高台に位置し、狭山茶畑と隣接している。目指す児童像の1つに、夢や希望を持つ児童を掲げている。

成果

- ・令和7年度実施の全国・学力学習状況調査の質問紙調査結果からは、「夢や希望がありますか？」の問い合わせに對し、87%（全国平均83%）と上回っていた。
- ・児童からは、「社会をよくするために頑張っている方々の話を聞いて、自分も夢をあきらめずに努力しようと思った。」との感想があった。また、研修生からも「小学生の頃の自分、この職を目指した頃の初志を改めて思い出し、元気をもらえた。」との感想をいただいた。

課題や今後に向けて

- ・将来への意識が芽生え始める6年生児童と、入職3年目の若手職員の双方にとって、大変貴重な交流活動である。今後もこの取組を継続することで、本校児童の夢や希望への意識高揚につなげるとともに、3年目職員にとっても有益なものとなるよう期待したい。



農福連携によるキャリア教育の推進

キーワード

農業／食品加工／地域連携／地元野菜／特産品

取組概要

- ・地域の農業関係者と連携し、直接、栽培等に関する指導を受けた。
- ・学校周辺の遊休農地を借用して農産物の生産を行った。
- ・地域の加工業者等と連携して加工品を製造した。

基礎情報

- ・生徒数：男66名 女27名 計93名 (R7.5.1)
- ・農業技術科と生活技術科の2学科4コースを設け、就労に向けた意欲と態度を醸成している。
- ・企業就労と定着を目指し支援しており、R6年度卒業生は37名のうち35名が企業等に就労した。

取組の詳細

地域の生産者から、直接、そばやトマトの栽培等の指導を受け、知識・技能の定着を図った。また、5軒の農家から学校周辺の遊休農地を借用し、年間を通じて農産物を生産した。生産した農産物を使った商品を生徒が企画立案し、地域の加工業者と連携して「にんにく味噌」等の加工品を製造した。地域の特産品を活かした「モロヘイヤうどん」やビールの製造等、地元企業や行政、JA、農業高校等と連携した商品開発を行った。



成果

- ・農産物の年間売上高が取組開始当初の約20万円(H19)から、約150万円(R6)に増加した。
- ・遊休農地36.7a(R6)を管理し、農地の維持に寄与した。
- ・地元の特産品や地域の企業と連携する中で、地域に対する理解や愛着を育むことができた。

課題や今後に向けて

- ・連携して生産した商品の定着、改良を通して、引き続き、生徒自身が、既存の成果に満足せず常に向上を目指す姿勢を育めるようにしたい。
- ・連携先の企業等へ就労する可能性を模索し、就労先拡大につなげていきたい。



豊富な地域人材を活用したキャリアトークの取組

キーワード

キャリア教育／地域連携

取組概要

- 多様なキャリア背景を持つ保護者や地域で活躍する方を中心にキャリアにまつわるエピソードを中学1年生を対象に講演をいただく。
- 生徒が将来の自らのキャリア形成を考えるきっかけづくりとする。
- 講演後のグループワークを通して生徒が意見を互いに交換するとともに登壇者との質疑応答により、学びを深める。

取組の詳細

- 保護者や地域の方から講演者を選出
自然エネルギー開発、医師、総合商社
食品会社、スーパー・コンピューター開発
教員など
- 自らの経験を発表
 1. 今の職業・業種
業務内容、一番の失敗・しくじり
やりがいを感じる瞬間
 2. キャリア形成の経緯
中学時代のキャリアビジョン
今の職業を選択した経緯
 3. 中学生へのアドバイス
学生のうちに取り組むこと
- グループワーク
印象に残った話・感想
自らの将来について考えたこと
- 全体共有、質疑応答
生徒からの質問に登壇者が回答



基礎情報

- 全校生徒数 322名
- 開校25年目の新興住宅地に立地する学校である。
- PTAは、組織や活動内容の見直しを行い、スリム化を果たしながらも学校の教育活動の充実に貢献している。
- 「キャリアトーク」の取組を2年前から実施し、学校・家庭・地域の連携を図りながらキャリア教育を推進している。

成果

- 働くことや職業に関する学びから、自己の将来を見据え、進路選択につなげていく礎を築くことができた。
- 失敗談や仕事のやりがいなど講師の経験をもとにした話は、生徒自身の生き方を考えるきっかけとなった。
- 1年生のキャリアトーク、2年生の夢を語る会、3年生の進路選択という本校独自の取組となっている。
- PTA主催の事業であり、教職員の負担軽減にもつながっている。

課題や今後に向けて

- 登壇者の立候補が少なく、人材を確保するのが課題である。
- パネルディスカッション形式や双方向型となるよう実施形態を取り入れ、参加型の活動していく。
- 保護者や地域の方、他地区のPTAの方にも参観いただき、この取組を積極的に発信していく。



「ふるさと茂原」の自然や文化を愛し、社会に貢献しようとする児童の育成 ～『茂原学』の充実を目指して～

キーワード

MIRAI塾（キャリア教育）/ 地域連携 / 体験活動 / 異学年交流 / 小中連携 / 教科等横断的

取組概要

- (1) 体験活動を主体的に活用できる技能を身に付けるための単元構成の工夫
 - ・「まちの先生リスト」を基にした体験活動の充実
 - ・教科等横断的・系統的な関わりをとおした授業展開（MIRAI塾等）
- (2) 学習過程における対話をとおして考えたことを表現するための授業の工夫
 - ・異学年交流、小小交流、小中交流等、話し合い活動や表現活動における場の工夫
 - ・ICT機器の効果的な利活用
- (3) よりよいまちづくりに主体的・協働的に取り組むことのできる授業の工夫
 - ・単元のまとめとしての振り返りシートの活用
 - ・教師による働きかけの工夫

基礎情報

昭和44年4月1日に開校し、現在、児童数は325名である。保護者や地域住民の教育に関する関心は高く、協力的である。各地区の自治会や長寿会、学校支援ボランティア、防犯パトロール等、地域の多くの方々が多方面から学校教育を支えてくださっている。令和2年度から校務分掌に「茂原学」（小中一貫教育）を位置づけ、教科等横断的に授業展開していくなかで、郷土愛を深め、地域社会に貢献しようとする児童の育成を目指している。

取組の詳細

【各学年の取組み】

- 1年生** サツマイモの栽培(写真左)、昔遊び(写真中央)
2年生 野菜の苗植え、他校とまちのよさを伝え合う（オンライン授業）
3年生 中の島のひみつ発見、市内巡り
 　　（地域の方をゲストティーチャーとして招く）
4年生 福祉学習（社会福祉協議会・パラスポーツ茂原の方の出前授業）
 　　市役所の方による姉妹都市の出前授業、ツルレイシ苗植え
5年生 市役所企画政策課による茂原市の現状と課題についての講義
6年生 茂原市商工会議所の協力によるMIRAI塾(写真右)
 　　（市内の事業者による職業の説明・他校とのパネルディスカッション）



成果

- (1) 校務分掌に「茂原学」（地域学習）を位置づけ、郷土を意識して教科等横断的に学習することで郷土愛を深め、地域に貢献しようとする意識が高まった。（肯定的意見 95 %）
- (2) 具体的な活動や学習をとおして、児童が地域社会とのつながりを実感し、地域社会に貢献しようとする意識を高めることができた。（肯定的意見 16 %増）
- (3) 「まちの先生リスト」をデータベース化することで、地域や外部との繋がりを持続可能とし、継続することが可能となった。
- (4) カリキュラム表を活用することで教科等横断的な学習を進めることができ、郷土を意識した学習から郷土愛が深まった。
- (5) ICTを活用し、小小交流（オンライン授業）を行う中で、郷土のよさについて考え、様々な意見を共有することで、郷土愛が深まり、地域社会に貢献しようとする意識が高まった。

課題や今後に向けて

- (1) 持続可能な学習として「茂原学」や「MIRAI塾」を各学校にさらに広めるために、本校が核となって発信していく必要性を考える。
- (2) 幼保小中高の連携について、今後、中学校区などで具体的な活動について協議を進めていきたい。

推薦教育委員会名：(千葉県教育委員会)



「人と命と成田北」 医療コースの取組を中心に

キーワード 医療探究Ⅰ・医療探究Ⅱ／高大連携／地域連携

取組概要

- ① 高大連携を活用した大学講師等による講義及び実習（医療に関する職業理解）
- ② 地域連携を活用した病院実習や様々な体験活動（実践的なキャリア教育）
- ③ 総合的な探究の時間（医療探究Ⅱ）を活用した探究活動・発表活動（課題探究型キャリア教育）

取組の詳細

【1年次】

- 年2回、医療に関するテーマによるキャリア講演会
- PTA主催「成北未来講座」⇒ 医療を含む様々な分野の職業人講話
- 成田市消防署と連携した救急救命講習会



【2年次】 医療コース「医療探究Ⅰ」(1単位)

- 年間20回の高大連携大学、医師会からの外部講師による講義及び実習
例：「言語聴覚士とは」「チーム医療について」「グリーフケアについて」等
- 国際医療福祉大学での夏季集中講義Ⅰ（2日間）⇒ 様々な医療職種を理解する
- 凤生会成田病院での病院実習Ⅰ（2日間）⇒ 一人が様々な職種を体験する
- 文化祭でのAED普及活動 ⇒ 成田市消防署の事前指導を受けて生徒が実施



【3年次】 医療コース「医療探究Ⅱ」(1単位)

- 各グループ（3人～4人）で医療に関するテーマを設定して探究活動し発表する
⇒ 優秀チームは他学年の前で発表する
- 国際医療福祉大学（高大連携大学）での夏季集中講座Ⅱ（1日間）
⇒ 進学希望の医療分野・職種に関する高大連携大学での講義・実習体験
- 凤生会成田病院実習・成田赤十字病院実習（1～2日間）
⇒ 各自の進路希望に合わせた職種の病院実習・現場実習
- 成田市健康増進課との連携
⇒ 保健師体験でババマ学級体験・地域課題について地元大学生との話し合い



【その他】

- 多様な進路に適応したカリキュラムを編成
⇒ 医療看護国語・医療数学・医療理科・情報Ⅱ・スポーツマネジメントなど進路に合わせた科目が選択可能
- 医療コースを中心地域と連携した様々なインターナーシップ・ボランティア活動を実施
⇒ 小学校での教職インターンシップ（2日間）（敬愛大学による事前指導後に実施）
⇒ 地域での保育実習（千葉敬愛短期大学による事前指導後に実施）
- 校内マラソン大会での同窓生との交流
⇒ 成田消防署勤務の同窓生（4～5名）によるAED配置と見守り活動
⇒ 同窓生の社会人ランナー（2～3名）が参加し社会人との交流の場としている



基礎情報

成田ニュータウンの北端に位置し、共学の全日制普通科高校として創立46周年を迎える。

『自律・協調・健全』を校訓に、スクールポリシーとして、「未来を切り拓く向上心と、自ら考え行動する力の育成」、「多様な社会を生き抜くコミュニケーション力の育成」、「健やかな心身とやり抜く力の育成」を掲げ、将来「確かな学力」と「豊かな人間性」を備えた調和の取れた社会に貢献できる人材となることを目指している。

「医療コース」は、令和2年に設置され、学校設定科目「医療探究Ⅰ・Ⅱ」を通してキャリア教育を実施している。国家戦略医療特区の成田市で、優秀な医療スタッフを志す生徒を育成し、地域に還元することを目指し、多くの看護医療系進学者を輩出している。

「人と命と成田北」をスローガンとし、生徒一人一人を大切に育て、幅広い進路実現を支援する学校として、保護者・地域から信頼され、教育愛あふれる学校づくりに取り組んでいる。PTA・同窓会・後援会、学校運営協議会の協力により、講義や体験活動を通して体系的なキャリア教育を推進している。

成果

- 将来を見据え、学習活動・体験活動・ボランティア活動に対する全生徒の主体的な取組が向上している。
- 毎年卒業生の約2割が、看護医療系の大学・短大・専門学校に進学し安定した実績を残している。
- 医療コース希望者は年々増加し、学校魅力化を促進している。48名（開設初年度）→87名（令和7年度生）
- 医療探究Ⅰの生徒の振り返りでは「成長した。受けたよかったです。」の評価が毎年100%を示し、ニーズに合った教育実践となっている。
- 医療コースの取組は、地域でも高く評価され、実習体験等の積極的な支援を受けている。
- 関係機関の方が学校運営協議会委員となり、連携が深まっている。

課題や今後に向けて

- 年々増加する希望者に対応した学習施設整備と指導者の増員
- 外部専門機関との連携により更なる医療探究Ⅱの探究活動の深化

推薦教育委員会名：(千葉県教育委員会)



地域・関係団体等と連携したキャリア教育の推進

キーワード

地域連携/職場体験活動/キャリア教育モデル校の設置

取組概要

- 職場体験連絡協議会を実施し、職場体験活動の目的や課題等を共有している。また、事前・事後学習を充実させ、次年度に向けたPDCAサイクルをまわしている。
- キャリア教育モデル校を区内4校を指定し、各団体の協力のもとキャリア教育を推進している。また、モデル校の実践では、区独自教科の「おおたの未来づくり」と相互に関連させた実践を行っている。

取組の詳細

- 職場体験連絡協議会を年間1回実施し、各校の職場体験担当教諭・地域支援コーディネーター・職場体験受入事業所・大学教授等を招集し、職場体験活動の目的や課題等を話し合う場を設けている。区独自マニュアルを活用した事前学習や各校に事後報告書を提出してもらい、成果と課題について共有し、次年度の活動の充実へつなげている。
- 一般社団法人「大田CP21」と連携し、職場体験活動の支援・受入事業所の一覧リストの作成・キャリア教育動画の提供・事業所向けのガイダンス冊子の制作等の各種支援を行っている。
- キャリア教育モデル校に区内小・中学校4校を指定し、NPO法人等の外部人材を活用した出前講座を実施し、多様な生き方に触れる機会を設けるとともに、各校のキャリア教育充実のための支援を行っている。加えて、未来を創り出す力を育むことを目的とした区独自教科の「おおたの未来づくり」と相互に関連させたキャリア教育の実践に取り組むことなど充実を図っている。また、モデル校4校のうち2校は、分教室型の学びの多様化学校であり、よりよい未来を創造しようとする態度を養うキャリア教育を実践することで、不登校対策等に資する取組となっている。



基礎情報

- 区内小学校60校 中学校28校
- 第4期大田区教育振興基本計画「おおた教育ビジョン」に基づき、教育施策を展開している。個別目標1施策（2）取組①「主体的に考え、行動し、協働していく力の育成」にキャリア教育を位置付け、各校の支援を行っている。

成果

- 職場体験連絡協議会の事後アンケートでは、教職員の約9割が「今後の職務に活かすことができた」と回答するなど、本連絡協議会が一定の成果を上げた。
- 職場体験活動では、教職員の事業所への事前訪問の校数が年々増加（令和6年度中学校22校）しており、事前準備の段階から地域・事業所と連携を深め、協働して生徒を育していく体制づくりの充実を図った。
- キャリア教育モデル校の指定及び成果の普及をとおして、区内のキャリア教育の推進を行うことができた。

課題や今後に向けて

- 生徒育成に向けて、職場体験活動の受入事業所との連携と協働を更に深める。
- 職場体験活動の「事前学習マニュアル」等を充実させ、各学校での有効活用を図る。
- キャリア教育モデル校の取組を区内に発信し、各学校のキャリア教育を一層充実させる。

推薦教育委員会名：(東京都教育委員会)



キャリア教育の日常化を目指して

キーワード

キャリア教育を日常に！／「キャリアのかけら」を見付けて価値付け！／児童は「自分で決める」、教師は「任せて見守り価値付ける」

取組概要

- キャリア教育を通して児童に育みたい力を、「基礎的・汎用的能力」を基に、小学生の発達の段階に合わせて、峡田小独自に再定義
(自)自分で考え、気付く力 (友)友達等と関わり、学び合う力
(ふ)活動を振り返る力 (見)将来を見通す力
- 教育活動全体において、上記の力を育む機会を「キャリアのかけらの発見」と設定し、キャリア教育の視点をもって、教育活動を実施
- 教師が児童の主体性を重視し、学びの伴走者となることを意識した教育活動の推進

取組の詳細

1 キャリア教育の視点を生かした特別活動の実施

- ・学級活動を生かした、児童による児童のための係活動・当番活動
- ・児童によるクラブ・委員会活動の設立と運営
- ・児童自らつくり上げる、プロジェクト制による学校行事
- ・関わり、交流を重視した異学年交流
(縦割り班活動・きょうだい学年・読み聞かせ等)



2 キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の実施

- ・課題解決学習、探究活動を重視した授業づくり
- ・学校図書館の効果的な活用及び読書活動の連携
- ・学び合いが生まれる場を意識した授業実践



3 キャリア教育を意識した、その他の取組

- ・キャリア教育年間計画を基に「学びのみちしるべ」を作成・更新し、キャリア教育を通して児童に育みたい力を児童と共有
- ・自身の成長を振り返り気付かせるための「キャリア・パスポート」の活用
- ・キャリア・カウンセリングの視点による教師の声掛け、評価の実施
- ・特別支援教育にキャリア教育の視点を取り入れ、児童の主体性を育成



基礎情報

- 児童数：425名（令和7年7月1日現在）
- 地域：下町情緒あふれる荒川区の中央に位置し、学区は12町会にわたる。地域に根付き、地域に愛される小学校である。
- 特徴：「自分で考え、友達といっしょに活動し、ふりかえりのできる子」を教育目標に、児童の主体性を重視した教育を行っている。長年にわたり特別活動を校内研究のテーマとして扱い、令和2年度よりキャリア教育を取り入れた。
・令和4・5年度荒川区教育委員会教育研究指定校（キャリア教育）
・令和5年度国立教育政策研究所 教育課程実践検証協力校
・令和5年度第7回全国小学校キャリア教育研究協議会東京大会 会場校

成果

- 「子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査」において、キャリア教育本格実施時の令和2年度から令和6年度まで向上した項目
・「成功体験と自信」…+1.5ポイント : 「充実感と向上心」…+2.4ポイント
・「人間関係構築力」…+0.7ポイント : 「学級の絆」…+2.3ポイント
- 令和7年度「全国学力・学習状況調査」において、全国平均値を上回った内容
(対象：1年生からキャリア教育を学んできた現6年生)
・自分にはよいところがある…+1.8ポイント : 先生方はよいところを認めてくれる…+8.6ポイント
・困っている人を助けている…+1.4ポイント : 学校に行くのは楽しい…+20.5ポイント
・読書が好き…+14.0ポイント : 地域や社会のために何かしたい…+3.2ポイント
・学級会で話し合い、解決する…+8.0ポイント : 自分と違う意見について考えるのが楽しい…+1.6ポイント
- 令和7年度「荒川区学力向上のための調査」において、国語と算数の正答率が全学年で区の平均値を上回った。(キャリア教育実施前は、ほぼ全学年で下回っていた。)
- 生活指導上の課題や不登校児童が減少し、教職員のキャリア教育への理解が深まった。

課題や今後に向けて

- 教科におけるキャリア教育の更なる推進
- 教員の「任せて見守り価値付ける」指導に関する検証と共通理解
- キャリア教育年間計画「学びの道しるべ」の見直し、修正、改善
- 教職員のキャリア教育に関する理解の深化と指導技術の向上
- 「キャリア・パスポート」の有効的な活用に向けた研究・検証
- 持続可能なキャリア教育の研究・検証と普及・啓発



自己の生き方を見つめ、協働しながら深めるキャリア教育の推進 ~教育活動全体で取り組むキャリア教育~

キーワード

基礎的・汎用的能力のアイコン化／電子版「キャリア・パスポート」／自己理解・自己管理能力の育成／特別活動の充実

取組概要

<特色的な4つの取組>

- (1) 基礎的・汎用的能力をアイコンで「見える化」
- (2) 電子版「キャリア・パスポート」の効果的な活用
- (3) 9年間を見据えたスケジュール帳の活用
- (4) 小中一貫のよさを存分に発揮する特別活動

取組の詳細

(1) 基礎的・汎用的能力をアイコンで「見える化」

9年間で育てたい4つの力をアイコン化し、児童・生徒・教職員で共有する。特別活動だけでなく教科の授業でも4つのアイコンのマグネットを掲示し、振り返りに生かしている。



(2) 電子版「キャリア・パスポート」の効果的な活用

クラウド型表計算アプリを用いて、行事や学期ごとの目標・振り返りを記録する。教員や保護者もコメントを加え、面談などで活用している。また、「キャリア・パスポート」と通知表所見を統合することで、過去の記録をいつでも見返すことができ、自らの成長を実感しやすくなった。

(3) 9年間を見据えたスケジュール帳の活用

中学校では、「目標を決め、予定を立てた後、自分の進捗に応じて予定を調整できる力」をゴールイメージとし、PDCAサイクルを意識したスケジュール管理の力を育成している。その実現に向けて、小学校第1学年から発達段階に応じた様式や活用目標を設定して段階的に指導を行っている。

(4) 小中一貫校のよさを存分に発揮する特別活動

9年間を通して、特別活動を充実させ、自分自身の役割を意識させる取組の充実を図っている。具体的には学級会や縦割り班活動を充実させるとともに、中学校では生徒会及び専門委員会へ生徒全員が所属している。生徒会に予算配分し、生徒が自ら議論し、予算計画を作成している。

基礎情報

- ・ 平成24年、市立大戸小学校と市立武蔵岡中学校が統合し、町田市唯一の施設一体型小中一貫校として開校
- ・ 自然豊かな環境と地域に根ざした教育活動が特色である
- ・ 在籍数 児童105名、生徒55名
- ・ 9年間を見通したキャリア教育及びESDを推進している

成果

児童・生徒アンケート、「自分には良いところがあると思いますか」は、中学生の肯定的回答率が92%を超えた。また、「キャリア・パスポート」やスケジュール帳の活用、対話的な関わりや日々の振り返りの充実、役割を意識させた特別活動の充実により、「自分の役割を理解し、集団のために貢献・活用することができますか。」に対し、中学生の肯定的回収率がR5年81.9%からR6年92.3%へ10.4ポイント上昇した。



課題や今後に向けて

- 「キャリア・パスポート」の活用にあたっては、児童・生徒が見返したり振り返ったりする機会を意図的に設定・確保していくことが大切である。
- アイコンや「キャリア・パスポート」、スケジュール帳など、児童・生徒がより使いやすいものへと見直しを図るとともに、学園全体でねらいを明確にし、教育活動の軸とする。
- 「キャリア・パスポート」やスケジュール帳の活用が難しい児童・生徒への支援方法を検討・実践していく。



未来をデザインするキャリア教育の体系的実践

キーワード

自己理解／社会との関わり／主体性

取組概要

中高一貫教育の特性を生かし、自己理解・社会との関わり・主体性を柱としたキャリア教育を体系的に展開している。

中学では入学者段階より「キャリア・パスポート」を用いて自己理解を深め、職業人との対話を通じて将来像を描き、高校では探究活動や専門的進路説明会を通して社会課題や進路への意識を高めている。

デジタルによる情報提供により、全学年いつでも情報にアクセスできる環境を整備し、生徒一人ひとりが自らの未来を主体的にデザインできるよう支援している。

基礎情報

東京にある都立中高一貫教育校 生徒数854名

中学校では「志学」を軸に、多様な職業理解や職場体験を通じて学問への情熱と、社会との関わりの中で他者と協働する力をつける。

高校では進路指導と探究活動を通じて、具体的なキャリア形成に向けた学びを深めている。

取組の詳細

1 中高全学年「デジタル進路室」

teams上で進路・職業情報を集約し、いつでもアクセス可能な学びの場を提供



2 中学2年「職場体験」

職業人インタビューや将来像の可視化、職場体験を通して自己の未来を具体的にイメージ

3 中学3年「卒業面接」

高校進学前に「キャリア・パスポート」をまとめ、自分の歩みと将来像を言葉で表現する面接を実施



4 高校1～2年「夢職人」

地域N P Oと連携し、社会課題をテーマとしたワークショップを通じて、探究活動を深める

5 高校1～3年「医学部志望者向け説明会」

専門講師による情報提供と模擬面接を通して、医師志望者の進路意識を高める

成果

- 生徒が自分の言葉で将来像を表現できるようになった。
- 「好き」や関心を起点に進路を考える姿勢が育まれた。
- 校外活動やワークショップへの参加意欲が高まった。
- 探究活動で独自のアイデアが生まれた。
- 医学部をはじめとする難関進路への合格者を毎年輩出している。

課題や今後に向けて

各学年の学びを次の学びへと有機的につなげることで、点を線に、さらに面へと広がるキャリア教育を目指す。生徒一人ひとりが自分の将来像を主体的に構築できるよう支援し、多様な他者と協働する実感をもちながらキャリアを考えられる環境を整備する。



現場実習を通じたキャリア教育の推進

キーワード

現場実習、自己評価と他者評価、自己理解、目標設定

取組概要

知的障害特別支援学校高等部において、ほとんどの生徒が卒業後の進路のため、現場実習を実施している。

この現場実習終了後に、生徒本人が自身を評価したものと、事業所からの評価を一つの書式にまとめ、振り返りレーダーチャートとして活用している。

取組の詳細

現場実習終了後、振り返るために、生徒本人と事業所が3項目（「社会生活能力」、「対人関係」、「作業遂行能力」）について、評価を行う。3項目には、以下の16の小項目があり、それぞれの小項目に対して4段階（4：非常に優れている 3：優れている 2：訓練が必要 1：改善は難しい）で評価をしている。

○ 社会生活能力

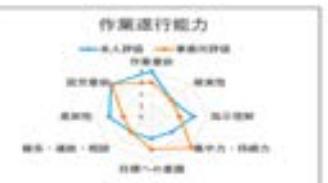
身だしなみ、健康管理、物の管理、衛生面

○ 対人関係

挨拶・言葉遣い、協調性、態度、意思表示

○ 作業遂行能力

作業意欲、確実性、指示理解、集中力・持続力、目標への意識、報告・連絡・相談、柔軟性、勤労意欲



基礎情報

知的障害特別支援学校の高等部単独校で、普通科と職能開発科を併設している。職能開発科の生徒全員が、企業就労を目指している。

生徒数：普通科 188名、 職能開発科 59名

成果

- ・自己評価と他者評価の合致度や相違度を視覚的に捉えることで、自分自身の強みや課題点の整理につながる。
- ・自分自身の強みを生かした進路選択につながる。
- ・課題点から目標設定を行い、学校生活での改善への取り組みにつながる。

課題や今後に向けて

- ・各項目の意味や数値による評価基準のについて理解を深め、適切な自己評価につなげる学習支援を行う。
- ・作成した資料を作業学習や職業に関する専門教科に共有し、授業内での求められる作業スキルの向上を図る。
- ・生徒本人の意思を尊重した家庭における進路選択や課題点の改善への取組につなげる。



企業と協力し、インターネット販売（EC）を活用した実践的な学習活動を実施

キーワード

企業連携／商品開発／産官学連携／アントレプレナーシップ

取組概要

- ・包括連携協定を締結している企業と協力。
- ・インターネット販売（EC）を活用した、実践的な学習活動である「県内商業高校ECプログラム」を実施。
- ・年度末に成果発表会を実施。

取組の詳細

- ・インターネット販売（EC）を行っている地元洋菓子店が抱える課題である「若者への魅力発信」を目標に、1年間にわたり、イベント企画や、商品開発を実施。

- ・授業内で提案した商品が実際に販売された。



(開発商品)



(企業との授業)



(グループワーク)

基礎情報

- ・全校生徒数662名。
- ・県で唯一の商業（総合ビジネス科：334名）と工業（総合技術科：328名）が併置された高等学校。
- ・2つの学科が相互に融合を図り、将来の神奈川県の地域産業を担うスペシャリストを養成。

成果

- ・アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成。
- ・PDCAサイクルを実践する姿勢を身につけ、社会の課題解決に向けた、実践的なスキルを習得することができた。

課題や今後に向けて

- ・学校のニーズを、企業等と丁寧にすり合わせ、学びの質は落とさず、効率的な運営と関係者の負担軽減を図る目的で、オンライン授業を活用することも考えられる。



栽培、収穫、提供の活動を通じて仕事の意味付けや価値付けができる子の育成

キーワード

地域の人材や関係団体との連携

取組概要

米や野菜の栽培及び収穫とその利活用を子どもの願いを大切にしながら進める。また、地域の人材や関係団体と連携協力することで活動を広げ、学びを深化させる。栽培、収穫、提供及び販売だけでなく収益の活用までを意図的に関連付けることによって、自分たちの活動が、様々な意味や価値を持つことを学ぶ。

取組の詳細

- | | |
|--------|--|
| ベース | <ol style="list-style-type: none"> 1 米作りの現状を知ろう！ 十日町市の米作りの課題について学ぶ。 2 米作りの課題に立ち向かっている方から学ぼう！ <ul style="list-style-type: none"> 【パート1】耕作放棄地を減らそうと奮闘している村山土建の社長さんから学ぶ。 【パート2】暑さに強くしかもおいしい品種の研究をしている石川さんから学ぶ。 【パート3】パックご飯を製造・販売（株）テーブルマークから学ぶ。 3 起業について学ぼう！ <p>地域の経営者から、「起業とは新しい価値を生むこと」「仕事とは、自分の長所を生かして、自分・相手・世の中を幸せにすること」と学ぶ。</p> 4 自分の長所を生かした会社をつくる！ <p>自分の長所は何かを考え、その長所を仕事にする会社をつくる。</p> |
| アクション | <ol style="list-style-type: none"> 5 会社活動をしよう！ <ul style="list-style-type: none"> 【パート1】学校ののぼりづくりの挑戦！：のぼりのデザイン画を作成する。 【パート2】YOSHIDA祭で販売活動に挑戦！：会社同士で協力し、準備を進め、自分たちで作ったちんころをフリーマーケットで販売する。 【パート3】大収穫祭を企画・運営・実行しよう！：会の進行、餅つき・豚汁・おもてなし茶屋の運営、それらに関わる準備を行う。 6 品質のよさを保証してもらおう！ <p>JJA魚沼の検査員の方から、全校で田植えをし稲刈りをし収穫した米を検査してもらう。その結果を販売活動に生かす。</p> |
| プラスアップ | <ol style="list-style-type: none"> 7 会社活動をしよう！ <ul style="list-style-type: none"> 【パート4】雪まつりで販売活動に挑戦！：コシヒカリ・こがねもち・ちんころ・吉田小グッズを雪まつり会場で販売する。 販売の仕方やパッケージの作り方を、プロから教えていただく。 8 会社活動の報告会をしよう！ <p>1年間の活動をロイロノートにまとめ、学習参観時に、保護者に発表する。</p> |



基礎情報

学級数 4 全校児童数 26

新潟県のアントレプレナーシップ教育推進モデル校として、総合的な学習の時間を柱に、各教科とも連携させながらアントレプレナーシップ教育の視点を加え、カリキュラムを編成し、キャリア教育の実践に取り組んでいる。

成果

- ・1人1会社にすることで、自分から進んでアイデアを出し、実行する姿が多く見られるようになった。また、担任に頼らず自分たちで考え、活動を進めることができるようになった。
- ・活動を通して学んだことや反省を次の活動にどう生かすか具体的に考えるなど、前向きに検討することができるようになった。
 - 「夢や目標を持っている」56% → 76%
 - 「うまくいかなかった原因を考えることができる」40% → 68%
 その他に「人の役に立つ人間になりたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしたい」といった関心や意欲に関わる項目の肯定的回答が増加した。

課題や今後に向けて

先を見て計画的に行動することができる」(56%→28%)、「うまくいかなかったときに次の方法やアイディアを考えようとする」(80%→44%)の2点が活動前後で大きく数値を減らした。これらの結果は、自分自身の具体的な行動について体験活動を重ねることで、より現実的に自分の行動を見つめ直し、反省できるようになった結果であると考える。自分の考えを計画や行動の改善につなげることができる子を育てていくことが今後の課題と言える。



「佐渡学」から広がる未来 — 地域とともに歩む課題解決型探究学習

キーワード

佐渡学／地域連携／課題解決型職場体験

取組概要

1学年：地域を知る「佐渡学」

地域の歴史・文化・課題を学び、探究の基礎を身につける。

2学年：課題に挑む「職場体験」

地域事業所の課題に向き合い、実践的な解決策を考える。

3学年：探究を深める「地域探究」

学びを地域へ還元する探究学習。

基礎情報

創立90周年を迎え、1万人以上の卒業生が全国で活躍。少人数・遠隔授業により個別指導を充実させ、多様な進路に対応。地域探究コースでは課題発見や提案を通じて地域と連携した学びを推進し、心豊かで健康な人間育成を目指している。

生徒数	1年	2年	3年	合計
18	15	26	59	

取組の詳細

1学年：『佐渡学』による地域探究活動

「総合的な探究の時間」において、佐渡の特産品や文化を体験的に学ぶ『佐渡学』を実施。柿農家での収穫や選果場の見学、地元有識者の講演などを通じて地域理解を深めた。「佐渡を学ぶ」をテーマに、地域資源を活用した提案や成果発表を行い、探究の基礎力を養った。

2学年：課題解決型職場体験

佐渡市教育委員会のキャリア教育プログラムに参加し、地域事業所の課題に取り組む職場体験を実施。成果発表会では協力事業所を招き、提案内容の評価を受けることで実践的な学びを深めた。

3学年：学校設定科目「地域探究」

佐渡の地域資源や課題をテーマに探究活動を実施し、生活・文化・福祉・環境に関する多様な視点から地域への提案を行った。



成果

課題解決型職場体験成果発表会

協力事業所による評価結果（5点満点）

評価項目	平均点
体験に基づいた分析ができるか(課題分析力)	4.3
課題を解決できる提案になっているか(提案力)	4.5

上記から、実践的な課題対応力と思考力の向上が確認できる。

課題や今後に向けて

○視野の拡張によるキャリア形成支援

地域に根ざした職場体験は重要な学びの機会であるが、今後は生活圏外の職種にも目を向けさせることで、生徒が多様な職業観を獲得し、柔軟で主体的なキャリア形成につながるよう支援していく必要がある。

○持続可能な運営への課題

外部人材の活用に向けた財源と人材確保のための仕組み作りが必要。



なりたい自分探し～地域の教育資源（ひと・もの・こと）との出会いから～

キーワード

地域連携／体験活動／人間関係づくり

取組概要

- ・地域と連携して伝統行事（やんさんま、稚児舞等）や栽培体験（畑、米づくり）、いのちの授業（生き方に学ぶ）を実施している。
 - ・言語的な活動を全校で行う「やっちータイム」を設定し、表現力の向上を図り、温かい人間関係づくりに取り組んでいる。
- ※「やっちー」とは、創校145周年を記念した下村小学校のキャラクター

取組の詳細

伝統行事の体験活動

3年生の総合的な学習の時間で地域のよさについて調べ、地域への誇りと愛着をもって生きていこうとする気持ちを高めている。稚児舞の体験では、お師匠さんから3年生全員が「胡蝶の舞」を直接指導してもらう。稚児舞は、学習発表会や地域の行事等で披露している。

表現力の向上、温かい人間関係づくり

毎週火曜日に全校で行う「やっちータイム」では、国語科での学びや行事、諸活動の振り返り等について代表者が学びを発表する。聞いていた児童は発表者に対して感想を述べる。この活動を積み重ねることで、伝えるための表現力を向上させるとともに、温かい人間関係を育み、自己存在感や自己有用感も高められるようにしている。



基礎情報

団体の特徴（学校）

- ・全校児童50名の小規模校である。
- ・地域には国の重要無形文化財の稚児舞をはじめ、多くの歴史的な行事や文化財があり、地域住民は大切に受け継いでいる。
- ・地域のひと・もの・ことを活用した「ふるさと学習」を推進している。

成果

- ・地域と連携して伝統行事の体験を行うことで、調べるだけでは感じることができない、伝統への誇りと、自分たちが伝統行事に関わり、継承していくこうとする気持ちが育まれている。
- ・週1回、全校で「話す」「聞く」の時間をもつことで、自分の考えを伝えることに抵抗が少なくなり、学校評価の「進んで自分の考えを伝える」の項目では96%の児童ができると回答している。

課題や今後に向けて

- ・地域指導者の高齢化により、地域人材の確保が課題となる。そのため、保護者の協力を得たり、上学年から下学年へ伝承したりするなど、活動の在り方を工夫していきたい。
- ・「話す」「聞く」の指導は学級で日頃から繰り返し指導する必要がある。また、児童が「話したい」「伝えたい」と思える、心を揺さぶられるような活動や体験等を今後も取り入れていきたい。



地域とともに歩む「キャリア教育」

キーワード

地域連携／職場体験活動／職業人との交流／地域課題追究学習／社会参画意識の醸成

取組概要

- ・地元や県内にある企業の方の講話や実演を通して、仕事の内容ややりがいについて学ぶ機会を設けている。
- ・地域にある様々な事業所で、職場体験活動を行い、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考える機会としている。
- ・地域が抱える課題から生徒自身が設定した課題を追究する学習を通して、地域への愛着を深め、社会参画意識の醸成を図っている。

取組の詳細

○「プロに学ぶ『13歳の発見』」（1年生）

地域にある事業所を中心に、そこで働く方から直接話を聞く取組である。生徒は、8講座から、複数の講座を受講し、「職業人としての誇りややりがい」について、実演を交えた話を伺う。

○「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」（2年生）

PTAの協力を得ながら、地域にある様々な事業所で職場体験活動を行っている。生徒の興味・関心を基に事業所を決定している。生徒は、学校での事前学習後、体験前の事業所訪問（打合せ）、職場体験活動（原則5日間）、事後学習（まとめ、発表）を行う。

○「『安心安全な藤ノ木中学校』のためにできることを見つけよう」（1年生）

地域を巡り、各自で危険箇所や問題点を見付けた後、地域の方を招いてパネルディスカッションを行った。「交通安全」や「ごみ問題」等、4つのテーマの中から、自分のテーマを決めて調査活動を行った。地域の課題に対する解決策を考え、地域の方々に提案した。



基礎情報

団体の特徴（学校）

- ・全校生徒482名
- ・常願寺川沿いに位置した、1小学校1中学校の校区である。幹線道路が整備され、住宅が増えており、商業施設も多い。
- ・地域と連携しながら、1年生から3年生までを見通した系統的なキャリア教育を実施している。

成果

・職業人から実体験や志を直接聞くことにより、自分の可能性や自分らしさ、自分の将来について探る意欲を高め、職業選択への視野を広げることができた。

・職場体験活動は自らの生き方について考えるよい機会となっている。（事後アンケート：生徒の肯定的な回答97%）

・地域の課題について追究する活動を通して、地域行事やボランティア活動に対する参画意識の醸成を図ることができた。

課題や今後に向けて

・各年度の生徒の興味・関心に応じて、講師を選定することや事業所を新規に確保していくことが課題である。

・地域の課題に根差した追究学習を通して、地域に愛着をもち、地域の一員として主体的に活動する生徒の育成に努めていきたい。



地域や産業界と連携した実践的・体験的なキャリア教育の展開

キーワード

地域連携／地域課題解決／体験活動／デュアルシステム／フィールドワーク

取組概要

学校の教育活動全体を通して、地域と連携したキャリア教育を展開している。
 ・農業科では、長期委託実習や特產品開発、地域資源活用など、地域や地元農家と連携した地域密着型の実践的な取組を展開している。
 ・普通科では、フィールドワークを取り入れ、「地域」を素材とした体験型の学びを実践し、地域課題の解決に向け、地域と連携した取組を展開している。

取組の詳細

<農業科>

地元農家と連携し、教育と職業訓練を同時に進める「入高式デュアルシステム型長期委託実習」を年間10日実施し、長期間に渡って栽培技術や経営について学んでいる。また、地域の特產品のブランド力向上のため、地元農家等と連携した入善ジャンボ西瓜の角形栽培をはじめ、トウガラシの6次産業化など様々な取組を行っている。



<普通科（観光ビジネスコース、自然科学コース）>

観光ビジネスコースでは、地域の自然や文化などの観光資源について理解を深め、地域課題の解決に向け、地域と連携した取組を展開している。

自然科学コースでは地域の豊かな自然環境を活かしたフィールドワークを展開する中で、入善高校ならではの素材や豊かな自然を取り上げた「ローカルサイエンス」を実践している。



基礎情報

- ・全校生徒数491名
- ・普通科、農業科からなる総合制高校
- ・日本有数の湧水溢れる黒部川扇状地の中央に位置
- ・入善町との繋がりが強く、地域や産業界と連携した教育活動を広く展開する地域に根ざした高校である。

成果

- ・地域から、明るい元気な学校、勉強と部活動の両立に励む学校として評価され、厚い信頼を得ている。
- ・3年間を見通したキャリア教育の展開による進路実現進路決定率 99.0% (R5～R7年3月卒平均)
- ・多くの卒業生が地域産業の担い手として活躍 県内就職率 97.1% (R5～R7年3月卒平均)

課題や今後に向けて

- ・体験型学習において、その意義の理解を深めることで、すべての生徒が主体的に行動できるようにする。
- ・地域における協働活動等を通して、社会の一員として活躍する際に必要なコミュニケーション能力や他者と協働する能力等のさらなる育成を図る。



実践的な取組を通じた地域を担う人材の育成

キーワード

地域連携

取組概要

生活・福祉系列、工業系列、ビジネス系列の3系列が連携して福祉用具の開発に取り組み、日常生活に困難を抱えている方々のサポートを目指した。

地元企業や大学等と連携協力した取組を通じて専門的な学びを活用でき、生徒が地元企業や共生社会を理解する機会となつた。

基礎情報

・総合学科、全校生徒数468名（令和7年5月1日現在）

・1年次より、企業訪問やライフプランの作成、インターンシップなどを実施し、学校経営の重点目標の一つとして「『自分を知り、社会を知り、将来の自分を考えること』のできる生徒の育成に向け、キャリア教育の一層の推進を図る。」ことを掲げている。

・2・3年次は、進学系列、生活・福祉系列、工業系列、ビジネス系列の4系列に分かれ、生徒の興味・関心、進路に合わせて学習する。

取組の詳細

令和3年度から令和6年度まで「生活を豊かにするための福祉用具開発プロジェクト」に取り組んだ。病気や加齢に伴い、発生する生活上の諸課題から「食品（ヨーグルトやゼリー）のパッケージを開けやすくする」ことに焦点を当て、「生活・福祉系列」「工業系列」「ビジネス系列」がそれぞれの専門分野の視点で容器づくりや道具づくりに挑んだ。

生活・福祉系列は、患者の声を聞き取り、その声を工業系列へとつなぐ橋渡しとしての役割を担い、工業系列は、生活・福祉系列からの情報や依頼をもとに、CADや3Dプリンタを使って容器や道具の形づくりを行った。ビジネス系列では道具案の商品化の手続き等を行い、各系列が一つのゴールを目指して、それぞれの専門分野から生活に困っている方々の声にアプローチし、解決するために自分たちができることうを考へた。

地元企業の方、代理弁護士やがん患者との関わりを通じて、企業や職業、共生社会について知ることができた。



電動道具の試作品



容器の試作品



蓋の試作品

成果

・がんサロンに試作した道具や容器を展示し、福祉用具を必要とする患者さんと対話する機会をもつなど、外部機関とのつながりは、新たな発見や課題を知る機会となつた。

・授業での学びを発展させ、3Dプリンタを使った製作を行い、生徒の学びの活用・深化につながつた。

・パテントコンテストに応募し、優秀賞を受賞することができた。応募に向けて、生徒は専門家から知的財産権についてより深く学んだ。

課題や今後に向けて

・取組を計画的に進めるにあたり、3系列の情報共有の時間等を調整することが難しく、活動の日程の変更や時間の確保が課題となつた。

・4年間の「生活を豊かにするための福祉用具開発プロジェクト」をテーマとした活動を通して、校内において3系列の連携体制は整えられてきた。令和7年度は「ユニバーサルツーリズム推進プロジェクト」を、各専門分野の協会や大学等と連携して実施し、視覚障害の方が旅行を楽しめる観光ルートの考案を通じて、共生社会と地域活性化について引き続き取り組んでいく。

推薦教育委員会名：(石川県教育委員会)



地域とつながるキャリア教育 「中能登しごと館」

キーワード

地域連携／職業講話／職業体験／働き方改革

取組概要

中能登中学校PTAでは、全校生徒を対象に、保護者や地域の方、企業の方を講師に招いて、職業についての講話や体験活動を提供する「中能登しごと館」という事業を実施している。中能登町の将来を担う子どもたちが仕事の魅力や社会とのつながりについて学び、将来について考える機会となっている。

取組の詳細

「中能登しごと館」

PTAの企画・運営のもと、年に1回、学校を会場に、地元の織物業者、自衛官、介護福祉士、YouTuberなどさまざまな職種の方を招き、仕事内容、仕事を選んだきっかけや体験談などについて、生徒たちが学ぶ機会を作っている。講師の選定にあたっては、事前に生徒から講義を聞きたい職種についてアンケートを取り、結果をもとにPTAが協議をしており、全校生徒それぞれが希望する講師の授業を2つ選んで受講する。



基礎情報

- ・中能登中学校…全校生徒412名、17学級
(中能登町唯一の中学校)
- ・PTA会員数411名(保護者376名、教職員35名)
- ・役員…会長1名、副会長3名、書記2名、会計2名 等
- ・研修部、広報部、生活環境部の3つの専門部を設置

成果

- ・平成29年から毎年実施しており、恒例行事として定着している。
- ・3年間で6業種の講師の話を聞くことで、生徒たちが自分の人生や生き方に关心を持つなど、将来や進路を考えるきっかけとして大きな影響を与えている。
- ・PTAが学校と連携し、事前学習を実施することで、より効果的な学びにつながっている。

課題や今後に向けて

- ・マンネリ化を防ぐために、引き続きアンケートを実施して生徒の意向を汲みつつ、前年度と同じ講師や業種とならないよう、企画や講師の手配をする必要がある。
- ・教職員の働き方改革を踏まえ、あくまでもPTA主催のキャリア教育に取り組んでいく必要がある。



「W A D A」大好きプロジェクト

キーワード

課題解決型探究活動／地域連携／ふるさと学習

取組概要

地域の宝である海や浜などの豊かな自然を内外にアピールすると共に、そこにある課題を掘り起こし、地域の活性化を進めるための探究的な学習に取り組んでいる。キャリア教育推進の核となる体験学習は、生活科や総合的な学習の時間に取り組む「ふるさと学習」として位置付け、地域諸団体（自治体）や異校種と連携・協働し、課題解決策や商品化案等の発信・提案を行うことで、児童のふるさとへの愛着や誇りを育み、キャリア形成を行っている。

取組の詳細

3・4・5・6年生93名を中心に、全校児童138名が各学年で活動を展開



「和田のことを知る」そして、「和田の上きを発信すること」を学習課題として、地元のシンボルである安土山の紹介動画を作成した。また、若狭高校との協働学習を通して、和田浜や海の探索を通して地元の海や浜への理解を探め、QRコードを用いた地域の紹介動画（マップ）を作成した。



地域の「少年高齢化」に対する課題意識を持って学習をスタートし、地域の方と「米づくり（もち米の栽培）」を行った。収穫したもち米で赤飯を作り、地域の高齢者へ配布すると共に、保護者・地域住民へのプレゼンテーションを通して、もち米の新たな活用方法を提案するプレゼン大会を実施した。

基礎情報

全校児童数 138名

【特徴】

校区は、アジア初のブルーフラッグビーチに認定された和田浜を有する等、豊かな自然に恵まれて。自律する力を育む学校行事や縦割活動、農業体験やボランティア活動を通じた職業・地域理解、ICTを活用した学習等を通してキャリア教育を推進している。

成果

- 地域とつながる探究的なふるさと学習に取り組むことで、他者と協働し、解決策を探究する力が大きく伸びた。また、ICTを活用した表現力が向上し、自ら「問い合わせ」を創り出し、その解決に向けて主体的に取り組む児童が増えた。
- キャリア教育に関する児童アンケートの結果
「ふるさと学習（生活、総合）において、地域の方との活動等を通して地域のよさや課題を見つけ、発表・提案することができる」**84% (R6.7月) → 96% (R7.1月) (+12%)**

課題や今後に向けて

- 今後も地域諸団体（自治体）や異校種とつながるだけではなく、他地域の学校等ともオンラインで交流することで、学びをより広げ、深めていきたい。（令和7年度実施）
- 「夢へのパスポート」（福井県版「キャリア・パスポート」）を効果的に活用し、児童がより主体的に学びに向かう力を育み、自己実現が図れるように支援していきたい。



マイキャリアストーリー

キーワード

進路計画のプレゼンテーション、「キャリア・パスポート」の活用

取組概要

2年冬の保護者会で生徒が保護者に対して、進路計画のプレゼンテーションを実施

取組の詳細

取組：「キャリア・パスポート」をもとに、具体的な進路計画を立て、保護者にプレゼンテーションを行う。

目的：自己分析により資質能力を再考察し、進路実現するための手段・方法を考え、今後の実行計画を立てる。

内容：共通で4つの要素を入れた資料を作成。

- ・Goal（進路と社会貢献）
- ・Reality（自己分析）
- ・Options（達成するための手段・方法）
- ・Will（実行計画および意志）

今年度の予定

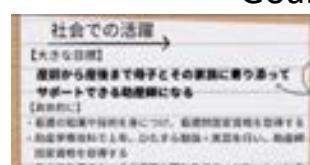
7月中旬：マイキャリアストーリーについての説明会を実施。（夏休み～9月に作成）

9月下旬：担任との面談を通して、内容を深める。

11月：教員に自由にアポイントを取り、プレゼンテーションを実施。質疑で得た情報や助言をもとにブラッシュアップを行う。



Goal



Will



基礎情報

全校生徒： 655 名

＜特徴＞

生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、地域社会や国際社会との連携を深めながら主体的な学びを通して未来志向の教育を推進している。

成果

- ・具体的に2年夏段階で真剣に自身の進路について考えるきっかけとなる為、以前より深く進路について考える生徒が増えた。
- ・マイキャリアストーリーをきっかけに、家庭で進路について話し合う機会が増えた。

課題や今後に向けて

2年夏より自身のキャリアをデザインしていくためにも、1年次より進路について考えたり、様々な体験や研修を経験したりしていくことが重要となる。そのためにも小中学校時に作成した「夢へのパスポート」との接続をより検討していく必要がある。



社会貢献と就労を見据えた技能向上

キーワード

他校種との連携、職業的自立に向けた能力の育成

取組概要

- ①地域の学校や団体に製作物の納品
- ②公園の清掃ボランティア
- ③就労を見据えた職能技能の向上

取組の詳細

①近隣高校の野球部や学童野球チームへ作業実習で製作した「トンボ」を納品。納品の際には、生徒たちが直接、野球部員に手渡すなどして交流を図っている。



②地域の公園の清掃ボランティアを実施。イベント開催時に人の出入りの多い箇所のごみ拾い、落ち葉拾いを行っている。



③清掃など、就労技能に関するスキルアップに努めている。県の主催する特別支援学校技能検定大会にも積極的に挑戦している。



基礎情報

全校生徒：145名

<特徴>

一人一人の発達段階や障がい特性に応じた支援をし、自立と社会参加に必要な力を培っている。地域の幼稚園から高校、関係機関等との連携やつながり大事にしながら、地域に開かれた特別支援学校を目指している。

成果

交流を通して、感謝の言葉を直接耳にすることにより、自己有用感が得られたり、地域の一員であることを感じたりしながら、社会参加や社会貢献への意欲が向上した。

働くことへの意欲の向上、技能の向上により、生徒の中には清掃関連の一般企業へ就職を実現した者もいる。

課題や今後に向けて

学校だけでは得られない貴重な体験を地域のなかでさせていただいている。地域とのつながりから人とのかかわりの広がり、認めらる喜びから勤労意欲や自己有用感の高まりなど大きな学びがある。今後もそういった場所を増やしていく、共生社会の実現につなげていきたい。



令和の富士山学に向けて～吉高GPの育成を目指した探究活動の充実～

キーワード

地域探究/地域連携

取組概要

「富士山学」

普通科の総合的な探究の時間を「富士山学」と称している。「地域資源を活用し、地域と連携しながら社会参画の視点の育成を図るキャリア教育」として、地域を知り、地域を探究する活動を行っている。

また、令和3年度より、NPO法人「かえる舎」が、コーディネーター役として富士吉田市、商工会議所青年部、地域住民と学校をつなぐとともに、探究活動の企画・運営にも参加していただいている。

取組の詳細

富士山学Ⅰ：地域探究（1年生）

探究基礎として、テーマ設定の仕方や探究の方法について学ぶとともに、校外学習を行う。「スポーツ・運動」「情報・科学」「防災」「健康・福祉・医療」「食」「国際」「地域・まちづくり」「芸術・文化」の8分野に関して、「○○×富士吉田」の視点から課題を探究する。



富士山学Ⅱ：チーム探究（2年生）

グループごとにテーマに基づいた地域に関する課題や自身の興味関心に基づいた課題に関する探究活動を行う。地域に関する分野としては、「子ども・教育・文化・福祉」「スポーツ・運動」「旅行・観光」「食」「表現・芸術」「科学・文化・国際」「防災・復興」の7分野がある。



富士山学Ⅲ：論文・進路探究（3年生）

成果のまとめとして、個人でレポートを作成する。

基礎情報

男女共学の公立学校

1学年：普通科（5クラス）・理数科（1クラス）

3学年で計18クラス 全校生徒：670名

・生徒はほぼ全員が大学進学を希望

・理系志望が多い

成果

令和6年度末「富士山学」に関するアンケート

対象：1・2年生（384名）

①職業や自分の将来のことを考えるようになりましたか。

はい：93.0% いいえ：7.0%

②地域課題やSDGsについて理解が深まりましたか。

はい：85.0% いいえ：15.0%

③プログラムを通じて意識や行動が変わりましたか。

はい：95.0% いいえ：5.0%

課題や今後に向けて

- チーム（グループ）探究だけでなく、個人探究があつても良いのではないか。

- 富士北麓地域の課題に限定するのではなく、もっと間口を広げて、テーマ設定に柔軟性を持たせる方が良いのではないか。
→令和7年度からは2年生はテーマ設定の自由度を高めた。



教育委員会が中心となって地域の企業や事業所などと連携した安曇野市中学生キャリアフェスティバル

キーワード

地域連携、系統的・継続的キャリア教育、働く大人と本音トーク、職場体験学習の充実

取組概要

安曇野市にある企業、事業所がブースを出し、「仕事のやりがい」や「魅力」などについて語る。市内中学校一年生が参加し、働く大人の「生の声」を聞き、自分の将来や生き方について考える。また、大人たちと語り合うことで、郷土を見つめ、郷土の良さや特色に改めて気づくことで、参加者全員が郷土に魅力を感じて何かをしたくなるような力が生まれる事業を目指す。

取組の詳細

- ・令和6年度初めての開催。参加事業所58。
 - ①事業所への説明会（全2回）
希望事業所への説明会（6月）決定事業所への直前説明会（9月）を実施。
 - ②生徒実行委員会の運営（全3回）
内容説明と顔合わせ（7月）、ポスターの作成、当日の打合せ（9月）、事後アンケートのまとめ（11月）
 - ③キャリアフェスティバルの実際
・市内7中学校の中学校一年生対象に午前3校、午後4校に分けて実施。合計773名参加。大型バスを使い移動時間を短縮。
 - ④キャリアフェスティバル後の展開
・当日参加したブースや人の情報をまとめた冊子（ジョブハン）を発行。
・各校では振り返りや感想などをレポート型新聞にまとめるなどして「キャリア・パスポート」を作成



基礎情報

- ・安曇野市教育委員会は、小学校10校、中学校7校に加え、認定こども園18園、幼稚園1園を所管し、切れ目のない連携により郷土に対する愛着や誇りを育むことを目指し、幼保小中の連携を推進している。
- ・目指す子ども像として「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”」を掲げて取り組んでいる。

成果

- ・事後アンケートでは「安曇野にある会社や事業所を知る機会となった」と答えた生徒が95%程度、「自分の将来や働く意味を考える機会となった」と答えた生徒が95%程度とねらいの達成に迫ることができた。
- ・各中学校のキャリア教育計画に従って、2学年の職場体験学習へつなげている。以前に比べ、意識や意欲が格段に高まっている。

課題や今後に向けて

- ・令和7年度は昨年を上回る数のブースが出店を予定(63)
- ・事前学習の充実や学校での事前指導を求める声に応えて、学校とも計画的に準備している。
- ・産官学連携の事業となるため、参加企業等の声を聞くとともに、市役所内部でも商工労政課等との連携も図り、次年度もさらに充実したものになるよう推進していく。



実践的学習による地域アイデンティティの醸成

キーワード

総合的な学習の時間／探究／キャリア教育／アントレプレナーシップ教育（起業家精神涵養教育）／地域連携

取組概要

「ずっと住みたくなる依田窪南部地域のために、地域活性化のためのイベント、商品、PR方法、生活環境づくりなどを考え、実践を通して地域に発信する」をテーマに、地域の伝統文化や歴史を題材にした、学校と社会をつなぐ実践的学習を通じた、生徒の地域アイデンティティを育む教育プログラムの開発に取り組んでいる。

取組の詳細

- 本校の3学年 総合的な学習の時間では、上記のテーマを題材にした学習（アントレ学習）として、地域の伝統文化や歴史を題材にした実践的学習を通じた、生徒の地域アイデンティティの醸成を目指している。
- 「Yodakubo Concept Lab」という組織（企業）を立ち上げ、依田窪南部中学校3学年の生徒が、地域活性のコンセプトやアイディアを生み出し、新たな取組として実践的な活動を行い、それを地域に発信することを目標に、学習を進めている。（令和7年4月～12月）
- 「資源」「建物」「イベント」という視点から、9つのグループに分かれ活動がスタートし、生徒の「やってみたい！」という活動を、学校職員や地域の方々の協力の下、一から創り出し、試行錯誤を重ねている。<現時点での活動（一部）>
「地元産の食材を使用したオリジナルクッキー・オリジナルおやき」「信州産カラマツを使用したベン立て」の開発・販売／「地域のバスを活用した交流イベント」「空き家などを活用したカフェ」の提案・実践／模擬実践に向けた仮想通貨やパンフレット作成などのイベント運営、地域広報誌の原稿づくりなどの広報活動
- 9月には、文化祭の学習発表として、1～2年生の生徒や保護者、地域の方々など向けた中学校内での模擬実践を行う。この模擬実践を通して、実践者（中学生）が自分たちの考えたことの価値や意義を実感したり、より具体的なフィードバックを得られることで、企画の妥当性やより実践に向けた改善点を見いだすことを期待している。
- 11月には、これまでの実践を踏まえた成果発表として、地域での本実践および活動報告会を行う予定である。



基礎情報

- 生徒数：172名（学級数11）
- 学校教育目標：知・徳・体の調和がとれ、自立した生徒の育成
- 地域、学校及び家庭が連携し、地域で育てたい子どもの姿を明らかにし、地域の特色を生かした教育活動のあり方及び教育環境の整備の検討を行うことを目的とする「信州型コミュニティスクール：南中応援隊」を設置している。

成果

- 生徒の活動に対する満足度とグループへの所属度における肯定的意見の割合はそれぞれ95%、96%。
- 生徒の目的意識が「楽しいことをしたい」から「地域課題を解決したい」へと深化し、自分たちの手で「地域の未来を変えたい」という思いが明確になりつつある。
- 各グループが計画的に「考える→作る→試す→分析する→伝える」の探究プロセスを踏んでおり、目的意識と社会的視野が育ちつつある。
- 地域が中学生の取組に関心をもち、積極的な支援をしている。

課題や今後に向けて

- 完成度に偏らず、「なぜその活動を行うのか」という目的との接続を再確認する必要がある。
- 生徒に「地域をどうしたいか」だけでなく、「自分はどう関わるか」という主体的役割の探究を促し、自己のキャリアアップに対する認識を深める。



ビジネス探究システムの構築と実践 ～グローバルな環境や地域社会で活躍・貢献できる生徒の育成を目指して～

キーワード

ケースメソッド／PBL／地域人教育HOTAKA

取組概要

ビジネスを探究する学校として1年次に「ケースメソッド」、2年次に「PBL」、3年次に「地域人教育HOTAKA」により、ビジネス探究システムの構築と実践を行っている。「ケースメソッド」「PBL」により課題解決や意思決定能力などを養い、「地域人教育HOTAKA」により地域の課題解決などに取り組む実践をとおして、知識を活用する力を養っている。また、生徒の学びを深め、地域への理解をはぐくみ、地域コミュニティの活性化を目指して、企業や自治体、大学等と連携し、協働した授業や講演、地域イベントへの参画、教職員対象の研修など、さまざまな取組を行っている。

取組の詳細

「ケースメソッド」ではビジネスの場面における出来事を題材に、生徒がどのように行動するかを考え、話し合いをすることにより、課題を解決する力や意思決定能力、コミュニケーション能力などを養う。「PBL」においては企業が抱えている課題などを題材に、生徒が調査や分析、検証、プレゼンテーション、ポスターセッションなどを行い、情報を収集する力や思考力、表現力などを養う。本年度、企業9社と連携した取組を行っている。一例として、日本酒を製造する酒蔵から、廃棄される酒粕の有効活用に向けた課題提供があり、現在、調査、分析等を行っている。後日、解決策に向けた提案を行う予定である。「地域人教育HOTAKA」では生徒が課題を発見し、解決に向けて取り組むことにより知識を活用する力を養う。本年度10を数える企業、自治体、大学と連携した取組を行っている。一例として、本年度、安曇野市による健全な地下水環境の創出を目指す取組「あづみの水結（みずゆい）」に登録、湧水に恵まれる一方で課題となっている地下水の減少などへの理解を深め、環境保全や水資源に係るビジネスの提案に向けた取組を模索している。7月に安曇野市と連携し、観光名所である「安曇野わさび田湧水群憩いの池」清掃活動を、8月に大学と連携し、地下水の減少やその対策を周知するための小学生を対象としたイベントを、また、地下水を利用したビジネスを開拓する企業見学を行い、水資源の保全等に向けた取組について理解や周知に努めている。「地域人教育HOTAKA」の教育活動について、10月と1月に発表の場を設定、取組や成果を公開予定である。

穂高商業高校 様
登録番号 第28号
あづみの水結（みずゆい）に認定します
活動内容 地下水を守るために活動している （清掃の活動で地下水を守る活動を実施している）



基礎情報

北アルプスを一望し清らかな湧水に恵まれた安曇野に立地する本校は、ビジネス教育の習得により社会で活躍、貢献することを目指す近隣地域の生徒258名(8月1日時点)が在籍する商業高校である。令和5年度より、グローバルな環境や地域社会で活躍・貢献できる生徒の育成を目的に、段階的にビジネス探究システムの構築と実践に努めている。

成果

- 「ケースメソッド」により、自分では思いつかない視点に気づき、周囲を尊重しながら話し合うことでコミュニケーション能力や協調性が養われている。
- 「PBL」「地域人教育HOTAKA」により、キャリアを考えるきっかけや、周囲の人々への理解を深め、地域に愛着をもち、社会へ能動的に貢献しようとする意欲を高めることに繋がっている。

【具体的な生徒の声】

- ・企業が置かれている現状の理解を踏まえ、進路選択につなげたい
- ・多くの人たちが人々の幸福のために働き、知恵を絞っていることを実感した
- ・将来、人々のために、地域のために役立つことをしたい

課題や今後に向けて

試行錯誤の段階であるが、企業や自治体、大学等の理解と協力により、学校では得られない体験や経験の機会を得ることで、主体的に課題に取り組む能力や、多様な人々と協働する力の育成に繋がっていることを実感している。今後、学校と企業や自治体、大学等が「どのような生徒を育成したいか」という目標やビジョンについて、共有と確認を行い、地域全体で生徒の成長を支える仕組みにより、ビジネス探究システムの構築と実践に向けた教育環境が持続可能となるよう整備を進めたい。

推薦教育委員会名：(長野県教育委員会)



キャリア学習 企業展in白鳥中

キーワード

「働くことの意義」の講演／職業適性／企業展／勤労体験学習

取組概要

郡上市内の43の事業所と連携し、企業展in白鳥中を実施した。体育館に43のブースを設置し、生徒が5つの事業所を選び、仕事の内容や会社の魅力、求める人物像などを聞いて回り、働くことへの理解を深めるとともに、その後の勤労体験学習につなげていった。

取組の詳細

【第2学年のキャリア教育】

4月～6月	「働くことの意義」講演会 職業適性検査
6月	企業展in白鳥中
8月（夏休み）	勤労体験学習
9月	三白研修（宿泊研修）
10月～12月	キャリア学習 勤労体験学習まとめの会
1月	



ハローワークの「働くことの意義」の講演、職業適性等、キャリア学習を進め、8月の勤労体験学習に向けて、郡上市内43の事業所と連携し、「企業展in白鳥中」を実施した。生徒は「話を伺いたい、質問がしたい」業種、事業所を5つ選択し、各事業所のブースを回り話を聞いた。事業所の魅力、勤務地、従業員数、求人件数（現在、将来）、求める人物像（資格）、勤労体験学習受入について話を聞き、働くことへの理解を深めるとともに、その後の勤労体験学習に対する意欲を高めることにつなげた。話を聞いた事業所で勤労体験学習を行い、その後は、宿泊研修において他地域の仕事を学び、第2学年の出口でまとめの会を行う。勤労体験学習だけで終わらないように、1年間を見通し、教育活動全体を通して、キャリア教育を実践している。

基礎情報

- ・全校生徒268人、各学年3クラス。
- ・校区内の6校の小学校から白鳥中学校へ進学する。
- ・町内の郡上北高等学校とは中高連携を行っている。
- ・学校運営協議会を設置し、地域と連携し、様々な活動を実施している。（白鳥おどり、公民館活動等への参画）

成果

- ・業種や事業所を選択することができ、興味・関心を高めるとともに主体的に学ぶことにつながった。
- ・働くことの意義や社会での役割を考えるとともに、勤労体験学習への意欲付けを行うことができた。
- ・担当者とのやりとりを通して、質問や挨拶などを体験的に学び、コミュニケーション力の向上につながった。
- ・地元企業の役割や地域経済とのつながりを知り、地域に参画、貢献しようとする気持ちを高めることにつながった。

課題や今後に向けて

- ・事業所ブースでの質問を深めるために、事前に企業情報や業種を調べる活動を充実させる必要がある。
- ・より多くの事業所の話を聞けるように、スケジュール等を工夫していく必要がある。
- ・学びをまとめ、次のキャリア学習につながるようにしていく。



学校の強力な味方 働き方改革を推進する「職業講話」の企画運営

キーワード

働き方改革／地域に根差したキャリア教育／職業講話

取組概要

NPO法人「つきせぬ」は、学校教育の中で、「職業講話」を企画運営している。地元の企業だけでなく、警察、消防、医師、議員等と連携し、子どもたちが、地域の方にあこがれをもつことをきっかけに、新たな職業観を習得できるように、講話を進めている。

基礎情報

NPO法人「つきせぬ」は、生徒数1000名を超える蘇南中学校の元PTA会長2名が立ち上げた。設立理由は、彼らが学校運営協議会員として、学校の実状を踏まえ、教員の負担軽減と子どもたちが地域に誇りと愛着をもつことを願ったからである。

取組の詳細

1 地域で輝く『働く人』を知る「職業講話」

教員が地域の人材を探しつながるための手段や時間の創出に困難さを感じていることを知った、当時のPTA会長らは、その代わりとなる団体、NPO法人「つきせぬ」を設立し、①学校の要望に応え、地域人材を集め、②集まった講師に、事業の目的、講話の内容について方向性を示し、③講話の振り返りをまとめ、次に活かせるようにした。



2 市内外に広がる「職業講話」

蘇南中学校での「職業講話」について、記者発表を行うとともに、市の校長会や教頭会で周知を行った結果、他校でも実施された。また、市外からの問い合わせもあり、関心の高さが伺われた。



成果

- 大規模校である蘇南中学校でも、多数の講師を依頼できるようになり、負担なく学級単位で職業講話を行えるようになった。
- 生徒は、身近な地域の方から、その職業の生きがいや仕事に対する熱い思いを聞くことで、多様な生き方があることを学ぶとともに、地域に誇りを感じたり愛着を感じたりする機会となった。

課題や今後に向けて

- 学校では、職場体験学習の企画運営にも様々な準備が必要である。この事業の先に、職場体験学習への一助につながることを期待している。



「夢育・地育」の実践で拓く 地域特性を生かした島田元気プロジェクト

キーワード

小中一貫教育／プロジェクト型学習／地域・大学との連携／同校種間連携

取組概要

島田市では市の掲げる「夢育・地育」の推進に向け、令和4年度より静岡大学教職大学院と連携体制（大学院生派遣及び会議）を構築し、地域資源を生かしたPBL（Project Based Learning）型の学習プログラム「島田元気プロジェクト」の開発及び実践を進めている。令和4・5年度には2中学校において地元の民間事業所やNPO等と協働し地域活性化するための取り組みを行った。令和6年度からは同プロジェクトを小中一貫教育型のプログラムになるように開発を進め、令和7年度より3小学校において、小学校間の以前の実践の蓄積と地域の固有性を活かしたPBLを展開している。

取組の詳細

令和4・5年度は2中学校において「○○元気プロジェクト」を展開した。同プロジェクトは大学と共同開発したプリズムカリキュラム（別紙1）の枠組みに基づき、総合的な学習の時間において地元の民間事業所やNPO法人、市役所などから活性化に向けたミッションをもらい、生徒が考案したアイデアを、プレゼンテーションしてフィードバックを受けるもので、アイデアは実際に商品化されたりイベント化されたりした。（別紙2）

令和6年度は、キャリア教育としての視点を広げ、小・中学校が接続する小中一貫教育型のプログラムを1中学校区の3小学校を対象に進め、令和7年度から取組を実施している。本プログラムの特徴は次の3点である。

- ①各小学校の実践の蓄積と地域の特色を生かすこと（別紙3）
- ②身に付けるべき資質能力を共有化すること（別紙4）
- ③小小間連携と中学校との接続を体系化すること

①について、地域人材が豊富な大津小学校は「島田市の人」、市の中心地に位置する島田第四小学校は「島田市の物・文化」、地域柄に特徴のある島田第五小学校は「島田市のくらし」というように、各小学校の実践の蓄積を生かしている。

②について、学習を通して付けていきたい力や探究のスキルを小・中学校で共通化したうえで、中学校の実践に接続させ、試行錯誤を重ねて体系的に育成できるようにしている。

③については、各校の子供たちがオンライン上の交流機会を年2回設定し、自他の理解能力や計画実行能力を体系的に高められるようにしている。

以上のように、プログラム内に「地域との協働」「探究」「小中一貫教育」「同校種間連携」の要素を含めることで、社会参画意識を高めるとともに、社会的自立に向けた力を育むキャリア教育を創造・実施している。



基礎情報

島田市には小学校13校、中学校6校の公立小・中学校が設置されている。市の教育理念として、子供たちが目標を持ち夢を育む「夢育」と、小中連携や地域の教育力を生かす「地育」を両輪として、「夢育・地育推進委員会」を設置し、理念の実現に取り組んできた。

キャリア教育においては、「体験的な活動の積極的な実施」と「多様な人と関わる場の設定」を重視しており、同様に市の掲げる「小中一貫教育」と関係性を踏まえた体系化が今後の課題とされている。

成果

・令和5年度における生徒へのアンケート調査によれば、「調査活動やプレゼンなど元気プロジェクトの経験は、他の学習にも生きると思う」98.6%、「授業の中で計画的に学習を進めたり、最後まで粘り強く取り組んだりしている」92.5%、「自分は責任がある社会（地域）の一員だと思う」76.3%、と類例の調査に比して肯定率が高かった。

・市内6中学校区の内2中学校区において、地域との連携・協力体制の基、地域資源を生かしたPBL型の学習プログラムや小学校間の差異を生かした小中一貫・探究型キャリア教育プログラムを開発し、今後の全市における推進の基盤を確立した。

課題や今後に向けて

・本実践において追求してきた「小学校間の差異を活かした小中一貫・探究型キャリア教育」の実践を、他中学校区における実践に計画的に拡大させていく。

・小学校での学習内容を中学校の学習内容に効果的に反映させ、学習効果をさらに高めるプログラムとなるよう調整していく。

・「小中一貫・探究型キャリア教育」の指導に必要なスキルを教員が身に付けるための研修を教育委員会として推進する。

推薦教育委員会名：(静岡県教育委員会)



生徒一人一人が主役！企業体験「井中屋」20周年～中学生の力でつくる会社～

キーワード

企業体験／職場体験学習／福祉体験活動／保育園実習／連携・協働／総合的な学習の時間／探究的な学び／教科等横断的な学習／

取組概要

学校経営の中心に総合的な学習の時間を中心とした**企業体験「井中屋」(キャリア教育)**を位置付け、保護者や地域、地元企業・団体等と連携・協働しながら教育活動に取り組んでいる。地域に根ざした農作物の生産から収穫、販売、地元製菓店からの仕入れ販売、ポスター制作から広報活動、店舗レイアウトの工夫等、生徒一人一人が課題を持ち、自他の役割を自覚しながら探究的な学びや協働的な活動の充実を図っている。また、**職場体験学習や福祉体験活動、保育園実習等**を通して、生徒自身が自らのよさや可能性、生き方を見つめ直したり、多様な他者の考え方や立場を尊重したりしながら、将来の夢や希望、進路等を自ら主体的に判断、選択していく力の育成を図っている。

取組の詳細

◆企業体験「井中屋」

「20周年に向けて、地元食材を生かした新たな商品開発やマスコットキャラクター作りに挑戦し、井中屋をもっと広めたい」「新商品の開発や交渉、価格設定は、どのようにすればよいか」等、生徒が様々な思いや課題を追究しながら、保護者（「井中屋もりあげ隊」）や地域の人々（農民市場「わいわい市」、朝霧高原そばの会等）と連携・協働しながら根原大根や落花生、そばの栽培から販売、広報活動等を行っている。また、企業（静岡銀行等）と連携・協力し、定期的に授業で企業目線からのアドバイスをいただいたり、「金融リテラシー講座」を行ったりすることで、生徒の思いがよりいっそう広がり、様々な課題を解決しながら、9つの資質・能力の育成を目指している。



◆2年 職場体験学習

生徒が、実際に地元企業（菓子工房「上野製菓」、お茶工房「富士園」、芋工房「かくたに」）で販売活動を体験することで、働くことの意義や企業の視点を体感し、自身の将来や進路等について考えたり、自分たちの手でよりよい「井中屋」を創り上げていこうとする意欲や社会参画意識を高めたりしている。また、主体性やコミュニケーション力の向上にもつながったりしている。



◆1年 福祉体験活動

地元の朝霧高原デイサービスで、お年寄りとともに生徒が考えたクイズやゲーム、群読をしたり、機械浴や車椅子体験をしたりする中で、介護の現場を肌で感じたり、福祉の大切さを実感し自分たちにできることを実践していくとする気持ちを育んだりしている。



◆3年 保育園実習（家庭科を中心）

保小中連携の推進を図るため、教科等横断的な学習を生かしながら、近隣の井之頭保育園での実習を行っている。生徒が、園児に読み聞かせをしたり、水遊びを手伝ったりすることを通して、園児の心身の発達について学んだり、保育に関わろうとする気持ちを育んだりしている。



基礎情報

団体の特徴（学校）

富士山西麓に位置し、学校林や東海自然歩道、観光地に囲まれた自然豊かな小規模校（全校生徒数21人）である。学校経営の中心に企業体験「井中屋」を位置付けながら、学校・家庭・地域が一体となって教育活動に取り組んでいる。「井中屋」は、平成18年度の「起業体験プログラム事業」から始まり、本年度で20周年を迎える。また、保小中連携の推進を図り、合同授業研や合同マス釣り大会、合同運動会等を通して、9つの資質・能力の育成を図っている。なお、本年度より学校運営協議会を設置し、連携・協働体制の強化を図っている。

成果

- 育てたい資質・能力を明確にし、教科等横断的な学習を生かしながら、保護者や地域、地元企業・団体等と連携・協働することで、生徒の思いや興味・関心が高まり、課題を「自分事」として捉えながら解決を図っていくとする生徒主体の探究的な学びがより深まった。【R6学校評価：探究力、思考・判断力、創造力、表現力】生徒95%、保護者100%
- 職場体験や福祉体験、保育園実習等を通して、生徒が自己肯定感やコミュニケーション力等を高めながら働くことの意義や社会の仕組みを体感し、今後の進路や職業選択等、自身の将来について考えたり、他者と協働しながら社会に主体的に参画していくとする力を育んだりすることができた。【R6学校評価：主体的・対話的で深い学び】生徒90%、保護者100%
- 「井中屋」活動を通して、地域の魅力を再発見し、それを広く発信することで、今後も地域の人々と大切な文化を継承・発展させていくとする思いがより高まった。【R6学校評価：郷土愛】生徒100%、保護者100%

課題や今後に向けて

- 生徒の思いや課題追究の広がりに対する十分な授業時数確保の工夫（カリキュラム・マネジメントの工夫 等）
- 企業体験「井中屋」(キャリア教育)の新たな価値や意味、可能性の追求
- 地域の高齢化等に伴う課題に対する持続可能な取組に向けた環境づくり（外部との連携・協働 等）



「共につくる」キャリア教育

誰一人取り残さない授業づくり～対話的な学び・協働的な学びを通したWell Being～研究から見えてきた未来

キーワード

Well Being／共につくる／下田で学ぶ・下田から学ぶ

取組概要

下田市立下田中学校においてR4年度末に立ち上げたコミュニティ・スクールと下田中学校の「誰一人取り残さない授業づくり」調査研究とがスパイラル的に重なり合い、生徒たちに還元されていく過程を紹介する。

下田中学校は、研究当初から教育活動のキーワードとして「共につくる」という言葉をあげている。「誰一人取り残さない授業づくり」の調査研究を進め、教育活動を行っていく中で様々な「対話」や「協働」が生まれた。この「対話」と「協働」によって、生き方を学ぶキャリア教育とキーワードである「共につくる」が密接に絡み合っていることが明らかになった。このようなことからキャリア教育が研究の軸の一つとなり、特にコミュニティ・スクールを活用した総合的な学習の時間には、下田中学校に関わった全ての地域の方々が、生徒たちのよりよい学びの実現に向けて主体的に参画したこと、それぞれのWell Beingに繋がる機会となり、双方の満足度が高まった。

取組の詳細

人生や社会を豊かにするキャリア教育の推進 ～地域の方と共につくる学び～

総合的な学習の時間では、「下田で学ぶ」「下田から学ぶ」をキーワードに、下田市内外の「人」「もの」「こと」を資源として、自分やまちの未来について考える学習を3年計画で進めている。コミュニティ・スクールを活用した職業体験や職業講話だけでなく、地域学校協働推進委員と共に総合的な学習の時間の年間計画や実施計画をつくる等、年間を通して学校運営協議会委員や地域の方と共に授業つくりを行っている。生徒は、下田を知り、下田を愛することを意識した体験活動を柱に、探究的な学習に取り組んでいる。

令和6年度には、地域で働く方を講師として招き、キャリア形成について学んだり、生徒が自分自身の生き方にについて考えていることを、車座になって講師の方に相談したりする「キャリア座談会」を行った。地域学校協働本部は、どのような講師が下田中学校の生徒に適しているかを考え、広い人脈から講師を選定した。また、キャリア座談会当日には、ファシリテーターを務めた。他にも生徒が幅広い視点で自分の生き方について考えることができるよう、希望する職種の方とオンラインでつなぎ、市外に住む様々な方から話を伺う場も設定した。

生徒一人一人が、「どのような大人になりたいか」「どのような人生を歩んでいきたいか」というビジョンをもつことが、現在、そして未来的なWell Beingにつながると考え、地域の方々と共にキャリア教育を推進した。



キャリア座談会は、地域学校協働推進委員がファシリテーターを務める



基礎情報

静岡県伊豆半島の南端に位置し、山や海に囲まれた自然豊かな教育環境にある。R4年度に中学校4校が統合し、現在は中学校1校、小学校7校に1,000名程の児童生徒が在籍している。R4年度末に中学校で立ち上げたコミュニティ・スクールでは、総合的な学習の時間に特化した取組から始めるという指針のもと、キャリア教育を展開している。

成果

【キャリア座談会後の生徒アンケート結果】

- ・キャリア座談会を通じて、将来のイメージがもてた（95.7%）
- ・自分はいずれ責任ある社会の一員になることがイメージできた（79.5%）
- ・将来、下田や地域（国や社会）を変えられると思う（82.9%）
- ・下田や地域、社会のニュースや課題などについて、友達、もしくは家族と話をするようになった（48.7%）

【キャリア教育と授業づくり・学校づくり】

- ・キャリア教育を、「自分の生き方の探究」と捉えて授業を行ってきたことで、自分や社会の現在、そして未来のWell Beingを実現していく姿勢が育ってきている。
- ・コミュニティ・スクールは、学校・委員双方にとって相乗効果の高い組織構造が構築できたため、生徒に還元していくことを実感できた。

課題や今後に向けて

- ・下田中学校のキャリア教育の実績を市内7小学校にも還元できるように教育活動や研修会を展開し、系統性をもたせる。
- ・教育委員会主催の「未来の下田創造プロジェクト」「小学校の在り方検討会議」等の場でもキャリア教育、コミュニティ・スクールを活用した幼小中高の連携ができるのか等、検証を進めることで引き続き、下田市全体でキャリア教育を推進できるようにする。



スーパー地域密着型高等学校でのキャリア教育

キーワード

地元企業を知る／地元企業で体験する／地元企業に挑戦する／地元企業で活躍する

取組概要

牧之原市役所商工企業課およびキャリアコーディネーター（学校運営協議会員）と連携し、多くの地元企業と協働してキャリア教育を展開している。学年ごとに段階的なプログラムを実施し、生徒の勤労観や職業理解の深化を図っている。スーパー地域密着型高等学校としての活動のひとつである。

取組の詳細

- 1 1年生
「キャリア講座」地元企業の担当と生徒とのグループディスカッション。（30社）9月。
「ジョブシャドウイング」働く人の影のように同行し、業務を間近で観察。（33社）11月。
- 2 2年生
「企業研究会」企業ブースを設置し、企業担当者が希望した生徒に業務内容を説明。（33社）7月、3月。
「オープンカンパニー」生徒と保護者で企業見学（企業型オープンキャンパス）。（25社）8月。
「インターンシップ」実際の業務や職場環境を体験する。4日間程度の実施。（17社）3月。
- 3 3年生
「インターンシップ報告会」企業担当者に対してプレゼンテーション。（17社）4月。
「就職面接指導」保護者及び外部機関と協働で実施。8月、9月。
- 4 その他
キャリアコーディネーター（学校運営協議会員）による事前（マナー等）及び事後（振り返り）指導。
「公務員講座」公務員系専門学校より講師派遣 筆記試験及び面接。1年から3年 通年指導。
牧之原市担当者、キャリアコーディネーター、学校担当者で事前事後に協議し、実施内容を改善。



基礎情報

1学年3クラス（普通科2、商業科1）生徒数336名

牧之原市の施設を活用し、令和4年度よりサーフィンやボルダリング等の6つのサークル活動（毎週水曜日）を実施、78名生徒参加。

平成28年度よりスーパー地域密着型高等学校（通称SCH）として多くの地域活動に参加している。地域貢献活動、地域人材育成、地域魅力発信に取組み、令和6年度には45件、延べ1,010名の生徒が地域貢献活動等に参加している。

成果

・就職者の全てが地元企業に就職している。

令和6年度43名（管内32名、近隣11名）

令和5年度40名（管内19名、近隣11名）

・進路指導に満足している。（3年生のみ）

令和7年度生徒アンケート 93.5% 肯定回答

・地域活動に興味・関心があり、機会があれば参加

令和7年度生徒アンケート 73.3% 肯定回答

課題や今後に向けて

・教職員の負担を軽減する仕組み作り

・キャリア教育を通して企業や地域に対する考え方の変化や生徒自身の成長等を発表する機会

・採用定着のための取組



ともに学び 生きる力を育み 未来を拓く 豊川の人づくり

キーワード

職場体験活動／地域連携

取組概要

中学生を対象とした職場体験学習をキャリア教育の一環として、豊川市内全中学校で実施している。地域の事業所に協力をいただき、働くことの意義や仕事のやりがいを実感することで、卒業後の進路について、生徒が自らの意思で選択できることを目的に行っている。

取組の詳細

社会におけるルールやマナーを事前に学ぶ機会として、「マナー講座」を実施。普段の学校生活におけるあいさつや言葉遣いを見直し、社会で通用する対応を事前に学習した。また、さまざまな職種の方に仕事のやりがいなどを聞く「社会人に学ぶ会」を実施した。



市内のさまざまな事業所に協力を要請し、職場体験学習を実施。生徒の希望する職種を選択し、働くことの意義や仕事のやりがいについて、体験できる機会として豊川市内全中学校で実施している。

基礎情報

団体の特徴（豊川市教育委員会）

- 全児童生徒数（R7.5.1現在）
 - ・小学生9,792人・中学生5,162人・計14,954人
- 学校数（R7.5.1現在）
 - ・小学校26校・中学校10校

成果

- ・さまざまな種類の事業所に受け入れてもらい、多くの生徒は達成感を味わうことができ、働くことへの興味や関心をさらに高めることができた。
- ・事前学習会で講師を招き、あいさつ、姿勢、表情などのマナーについての指導をいただいた。その成果もあって、見た目や立ち振る舞いが与える印象について学ぶことができた。

課題や今後に向けて

- ・職場体験に関して、職種に偏りがあり、生徒の希望にそって分けることに苦労した。
- ・生徒にとって有意義な取り組みであり、多くの時間を確保したいが、学校行事や授業数などを鑑みるとこれ以上の確保が難しい。



体験から学び「つなぐ」活動

キーワード

外部講師／地域連携／異学年交流

取組概要

キャリア教育の視点を取り入れた体験活動

- ・地域で水墨画教室を営む方を外部講師として招き、水墨画を体験し、「好き」を継続することの大切さを学ぶ
- ・自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力の素地を養う
- ・体験後に下学年へ自らの体験を伝える「つなぐ」活動をすることで、系統的なキャリア教育を推進する

取組の詳細

水墨画教室の講師とその教室の受講生合計12名を招いた。はじめに全体指導で水墨画の描き方の概要を学んだあと、各グループに2名程度ついていただき、具体的な技術を丁寧に教えていただいた。

講師の12名全員から、「水墨画を始めたきっかけ」「始めたことで得られたもの（大切な時間や人間関係など）」「『好き』を続けることの大切さ」などについて講話ををしていただいた。

体験後、描いた絵を見せながら6年生が学んだ内容を5年生に伝える「つなぐ」場を設定した。



基礎情報

団体の特徴（学校）

全校児童191名の小規模校。周りを山に囲まれた閑静な住宅地の中に立地する。令和5～7年に愛日地方教育事務協議会から「キャリアスクールプロジェクト」の委託を受けて、地域人材から学ぶ機会を得た。

成果

・好きなことを見つけることの大切さや、自己の生き方について、考えるよい機会となった。

児童のふりかえりを一部抜粋

講師の方の話から、「『好き』を継続することの大切さ」が分かりました。

将来や今からでも継続をすることが大切で、継続がいつか力になることが分かりました。

「自分がやるときこういう風にやるのか」が想像できて、より興味をもちました。

課題や今後に向けて

・体験活動のため、体験内容の「技法を学ぶ」が中心になってしまった。地域人材を活用するという意味で大変有意義である活動となつたが、キャリア教育としての体験活動のめあてや意義を意識した活動となるよう、どのように児童への事前指導を行っていくかが今後の課題である。



未来への懸け橋～御津の町や自分の生き方をみつめて～（地域や企業、家庭との連携）

キーワード

地域や企業／職場体験／家庭との連携

取組概要

- ・キャリアコミュニティプロジェクト未来 講演会①②
- ・社会人（本校卒業生）の話を聞く会
- ・道に関わる人の話を聞く会
- ・職場体験学習

基礎情報

生徒数 321名

海と山そして川と豊かな自然に囲まれた中に学校があり、令和7年には、すぐ近くに国道23号名豊道路蒲郡バイパスが開通した。他にも幹線道路があり港湾部と繋がり、交通等の要所になっている。

キャリア教育については、卒業した先輩や地域の企業等にも協力を得ながら、講演会を行ったり、職場体験に向けてマナー講座を行ったりするなど、将来を見据えた取り組みを進めている。

取組の詳細

キャリアコミュニティプロジェクト未来 講演会について

「キャリアコミュニティプロジェクト未来」講演会①では、「あこがれを現実に～中学生の今知つておいてほしいこと～」と題し、フリーアナウンサーで、御津中卒業生でもある小原佳代子氏に講演していただいた。講演の中で、「学生のうちに苦労しておくとよい」、「夢に向かって努力するのは、いつからでも遅くない」などのお話は、小原さんのすてきな声で耳をすっと通り抜けて直接生徒の心に入ってきたようだった。



「キャリアコミュニティプロジェクト未来」講演会②では、「○○みたいに狭い、しかし○○みたいに広い学校という世界で生きる君たちへ」と題し、豊川市出身の元サッカー選手であり、現在は吉本興業所属の近藤岳登氏に講演していただいた。講演会では、生徒との掛け合いから、「お！それもいいね！」「その気持ち、すげえわかる」など共感をしていただきながら「自分らしさを見つけることの大切さ」を教えてくださいました。近藤さんのしゃべくりワールドに生徒はどんどん引き込まれていった。



成果

- ・卒業生や地域にゆかりのある方々に講師として来ていただいたおかげで、生徒たちがより親近感をもって、話を聞くことができた。また、今後の自分の生き方を考えるうえで、とてもよいロールモデルになっていただけた。
- ・職場体験学習を行う前に、いろいろな立場から、「働くこと」について話を伺えたおかげで、より多くのことを職場体験学習から学ぶことができた。

課題や今後に向けて

- ・活動が2年生に偏ったものになってしまった。職場体験学習に向けた活動が多くなってしまったので、仕方がない部分もあるが、もう少し、1・3年生での活動とも連携できるとよかったです。



地域とともに取り組む「ふるさとキャリア教育」～ふるさとに愛着を持ち、地域に貢献する生徒の育成～

キーワード

ふるさと教育／キャリア教育／地域連携

取組概要

尾鷲市の基幹産業である漁業・農業・林業・観光を体験・学習し、ふるさとを題材とした課題や可能性を模索することで、ふるさとを支え、ふるさとの発展に貢献できる人材を育成する。

取組の詳細

【1年生】

- ・林業(尾鷲ヒノキと生物多様性のある森林再生)
- ・食育(タイさばき体験)

【2年生】

- ・農業(尾鷲の有機農法と獣害対策)
- ・食育(カツオさばき体験)

【3年生】

- ・漁業(持続可能な漁業の在り方)
- ・食育(ブリさばき体験)

【全校学習】

- ・尾鷲魅力体感ツアー
 - R5：オハイ散策(九鬼町)
 - R6：大敷体験・櫛こぎ体験(梶賀町)
 - R7：シーカヤック体験(三木里町)
- ・国際交流(年2回)
 - 台湾興達小学校と英語での交流



基礎情報

輪内中学校の特徴

本校は全校生徒19名の小規模校である。そのため、保・小・中連携や地域との連携を大切にした教育活動を進めている。特に「ふるさとキャリア教育」では、尾鷲市役所各担当課や地域事業所、地域の方々に協力していただくことで、充実した体験活動や学習活動が実施できている。

成果

・尾鷲の魅力や課題を学ぶことで、尾鷲に愛着を持つ生徒が増えている。

・たくさんの地域の方々に関わっていただくことで、多様な考え方や思いに触れるとともに、尾鷲のために頑張っている人に出会う機会となっている。

・学んだことをまとめ、成果発表することで、情報発信力や発表する力が身に付いている。

・尾鷲市子ども議会や市長との懇談会の場で、生徒から改善案を提案することで、地域に貢献しようとする気持ちが育っている。

課題や今後に向けて

・生徒数の減少(令和9年度は入学予定者なし)により、輪内中学校の教育活動全体の持続性が大きな課題となっている。

・輪内中学校の「ふるさとキャリア教育」をはじめとする充実した教育活動を情報発信するとともに、さらに体験内容をブラッシュアップしていきたい。



教育活動全般で行う、地域の特性を活かしたキャリア学習

～自律・協生・創発する生徒の育成～

キーワード

地域連携／探究学習／職場体験学習／プレゼンカ／自己有用感

取組概要

❖ ゲストではなくキャストとして行動する、「自律・協生・創発」する生徒の育成

1. 市中心部の立地を生かした体験・探究学習（四日市学）の取組
2. 個別最適＆協働的な学びを生み出す事前・事後学習の取組
3. 自分の思いや考えを熱を込めて伝える、「プレゼンカ」育成の取組

取組の詳細

入学

ゲストではなくキャストとして

卒業



- ① 校区を探索し、職場体験の受け入れ先を発掘。生徒自身で依頼。
- ② 事業所・保護者を招き、職場体験での学びについての報告会を実施。

- ① 経済、環境、文化等、6つのテーマに分かれ、四日市市について学習。
- ② 同様に、修学旅行で東京の状況を学び、①と比較し、考察を発表。

- ① これまでの学びを生かし、四日市市への要望、自分たちができることについて考え、まとめる。
- ② 市の関係者（R6は市議員）に対して提言。

基礎情報

団体の特徴（学校）

生徒数 287人 通常学級 9クラス 特支学級 5クラス。
市の中心部に位置し、市の文化・産業とともに発展した地域を校区とする伝統のある学校である。市の施設（市役所、博物館、図書館等）、旧四日市港、コンビニート、商店街、東海道に連なる寺社や文化財等、教育資源に恵まれている。

成果

R6.4 – R7.4 比較 数値は肯定的回答 (%)

- 1.自分にはよいところがあると思う。 [72→90]
- 2.自分と違う意見について考えるのは楽しい。 [72→82]
- 3.地域や社会をよくするために何かしてみたい。 [60→70]
- 4.人の役に立つ人間になりたい。 [あてはまる : 60→69]

自己肯定感の高まりにより、「自分たちも社会を形成する一員である」という意識が芽生えた。

将来を見据えるうえで、広い視野から考えられる生徒が増えた。

課題や今後に向けて

1. 「ハレの日（特活・総合）」→「ケの日（日常）」への拡大
日常の活動においても、自己決定できる場面を増やし、眞の意味で教育活動全般にキャリア教育を位置づける。

2. 地域に開かれた教育課程の構築

生徒の将来、町の将来を考え、目標を共有し、地域の企業や団体等とWin-Winな関係を図る教育課程を構築する。



多文化共生社会の実現へむけたキャリア教育の実践

キーワード

地域連携／職業体験活動／外国につながる生徒／自己肯定感

取組概要

本校は外国につながる生徒たちの割合が高く、生徒の中には母語・日本語・英語の3か国語使え、ワールドワイドなパイプ役として即戦力になる人材が豊富にいる。多文化共生社会の実現にむけて、日本人生徒や外国につながる生徒、すべての生徒一人ひとりの能力を活かし、育てるキャリア教育の実践を進めている。

取組の詳細

1 職業体験活動

- ①鈴鹿商工会議所との連携
 - ・2年生 20名程度が、地域の企業（販売業、製造業、サービス業等）において、3日間インターンシップを実施。
 - ②外国につながるみなさんのみえの仕事体験プログラム
 - ・夏と秋の2回、公益財団法人三重県産業支援センター主催で職業体験（社会福祉業、宿泊業、飲食業、製造業）を実施。
 - ・日本で働くことへの理解が深まり、プログラム後も体験企業で、アルバイトとして働く生徒もいる。



2 地域と連携した活動

- ①鈴鹿サーキットで行われるF1グランプリでの通訳
 - ・鉄道会社の依頼を受け、外国人観光客に対応した通訳を実施。
 - ・生徒にとっては、地域で活躍し、自分が社会の役に立っていることを実感できる場となっている。
- ②わいわい 春祭り
 - ・生徒5名程度が、鈴鹿市国際交流協会主催の祭りの実行委員として参加。
 - ・地域の方と共に国際交流イベントの企画・運営に携わっている。



3 県と連携した就職・進学セミナー

- ①県の「外国人生徒キャリアサポート事業」
 - ・英語コミュニケーション科 1年生全員を対象にセミナーを実施。
 - ・卒業生から、「高校生活、大学生活、就職について」経験談を話してもらい、自己の将来の進路選択に向けて考える機会としている。



基礎情報

全日制課程（令和7年5月）

応用デザイン科 1学年2クラス 計 235名

英語コミュニケーション科 1学年 2クラス 222名

外国につながる生徒が多く、英語コミュニケーション科では7割程度の生徒が外国につながりを持つ。つながりのある国は16ヶ国で、国籍や日本での在住期間もさまざまである。

成果

【生徒アンケートより（通訳ボランティア）】（一部抜粋）

- ・このボランティアのおかげで、初対面の人たちと話す経験をしました。経験を積み重ねて、将来グローバル系企業で活躍したいと思うようになりました。
- ・私は活動中に多くの外国人の人と話せたことで、自分の英語力が伸びていることに気づきました。

▼外国につながる生徒にとっては、自分の持つ力が社会の役に立っているという実感を持たせることができ、自己肯定感を高め、市民性を育むことにつながっている。

▼日本人生徒にとっては、教育活動のなかで多様な文化や価値観を共有することで、多文化共生について理解を深めることができている。

課題や今後に向けて

- ・生徒一人ひとりの日本での在住期間が異なり、義務教育段階でどのようなキャリア教育を受けてきたかに違いがある。教員が、個々の文化的・社会的経験の違いを理解し、支援する必要がある。

・地域と連携した活動は、生徒の社会的自立を促すだけでなく、地域住民に対して、多様性の変容をもたらすことにもつながる。



つなごう！草津の農産物「ベジクサ」の魅力発信プロジェクト ～産・官・学・民の協働による系統的なESDの実践～

キーワード

課題発見／課題解決／体験学習／地域との協働／ESD／SDGs

取組概要

持続可能な社会の実現に向けて、草津市の特産物であるベジクサ（愛彩菜・メロン・アスパラガス・大根等）に焦点をあて、「栽培」「職業」「物流」「マーケティング」等について産・官・民の協力による体験学習を行った。地域課題の解決に向けて生徒が主体的に考え、行動することを通して、地域の将来を担う人材の育成を図った。

取組の詳細

「日本の食料自給率の低さ」という社会的な課題に着目し、「自分たちにできる解決策」として、各学年において、以下の学習活動に取り組んだ。

○1年生

「地産地消」をキーワードに調べ学習を進めていく中で、草津市ではベジクサを栽培していることを知り、生産者を講師に招いて講演会を実施した。そこから、ベジクサの認知度向上を図ろうと、ポスターやポップを作成して、地域の施設に展示する等、情報発信を積極的に行なった。

○2年生・3年生

地域の方や草津市農林水産課からの助言を得て、校地内に「松原ファーム」を開墾、整備し、ベジクサ（春大根）の栽培に取り組んだ。収穫物は市役所や学校で生徒自らが販売した。購入者に「味」や「認知経路」についてアンケートを実施し、その結果を基に、栽培方法や情報発信の改善を図った。

生徒は農業の一端に触れることで、農家の方が日々直面している苦労や工夫、やりがいを理解する機会となった。畑づくりから作物栽培、販売・振り返りまでを地域と協働して行うことで、地元に対する理解・愛着・誇りを育むとともに、自身のキャリア形成を考える一助となった。また、発達段階に応じて課題解決の方策を考えることで、学校全体で系統的に学びを進めることができた。



ベジクサ生産者による講演会の様子



専門家に畠づくりを学ぶ



販売の様子

基礎情報

全校生徒数：508人

R4年度から、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働して学習する「スクールESDくさつプロジェクト」を実施している。

成果

「望ましい未来の実現のために、具体的に何をどうするべきかを考えている」「学んだことを日常生活に結び付け、進んで生かそうとしている」という質問に対し、9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。また、振り返り等で「自分の周囲にある問題と普段の学習とを結びつけて、学習に取り組めるようになった」等の記述が見られた。普段の授業では、他者の考えに触れ、自分の考えを広げる姿が見られるようになってきた。また、異学年との交流も増え、学校全体で取り組めるようになってきている。

課題や今後に向けて

R7年度は、これまでの取組をより充実させるため、校内研究のテーマを「ESDを軸とした教科横断的な学習の推進による生徒の主体性の醸成」とした。引き続き、地域課題の解決に生徒が主体的に関わり、地域社会の一員としての意識と行動力、発信力を高めていくことで、「自ら課題を見つけ、解決に向けて挑戦する能力や態度」の育成を図っている。

推薦教育委員会名：(滋賀県教育委員会)



探究活動を通したキャリア教育～探究STEAM特別講座で“想い”を力タチに～

キーワード

探究活動／アントレプレナーシップ教育／地域連携／社会実装／起業

取組概要

本校独自の探究教科「究理」で全生徒が取り組む課題研究に、アントレプレナーシップ育成の視点を取り入れるとともに、希望者参加型の「探究STEAM特別講座」で多彩な講座を開設。地元自治体や企業と連携し、社会の課題解決や研究成果の社会実装を目指した探究活動により、他者と協働し新たな価値を創造する力を育むなど、生徒の主体的な探究活動を通したキャリア教育に取り組んでいる。その中で、現役高校生が会社を起業して活動に取り組むケースも生まれている。

取組の詳細

起業家を招いてのキャリア講演会や、新聞部による職業人の取材活動など、視野を広げキャリア意識を醸成する土壤作りに加えて、アントレプレナーシップ育成の観点で、生徒の“想い”を実社会で実現する探究活動を支援する場として、「探究STEAM特別講座」を開設し、生徒の主体的な探究活動の中から、キャリア実現への意欲的な取組が生まれている。

○ケース1：化学反応や分子構造を楽しく学びたいという思いから、生徒が対戦型カードゲームを発案。「究理」の課題研究や、有志生徒が「探究STEAM特別講座」で集まり、商品化に向けて研究。試作品によるゲーム大会の開催等を経て、生徒5名が合同会社Chemi-Shiruを設立し、化学教材“ChemiStrategy”として全国販売を始めた。

○ケース2：売店のない本校に、軽食を購入できる購買を設置したい。そんな思いの生徒が「探究STEAM特別講座」で集まり、市場調査や市内の複数の企業との折衝・選定等を生徒自身で進め、念願の校内売店「トランセ」を実現。生徒が主体的に運営している。



基礎情報

創立100年を超える普通科進学校。全校生徒数は約600人。平成24年度からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、現在、第3期2年目(文理融合基礎枠)。平成31年度から国際バカロレア・ワールドスクール認定校。全校体制で探究的な学びを展開しつつ、県の「しがアントレプレナーシップハイスクール事業」研究指定校としてキャリア教育を推進している。

成果

○生徒の主体的な探究活動にアントレプレナーシップ育成の視点を取り入れたことにより、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力、キャリアプランニング能力等の向上につながった。

○令和6年度 生徒アンケートの肯定的回答 ()内は全県
 ・立場の違う人と活動することで異なる考えを理解できた 96%(91%)
 ・自分ができることやしたいことを見つけることができた 89%(81%)
 ・課題を発見・分析する力を高めることができた 85%(81%)
 ・自分のキャリアや将来についてより具体的に考えられた 92%(84%)

課題や今後に向けて

○キャリア形成に資する探究活動の好事例を下学年に引き継ぐタテのつながりや、他グループや他校と連携・協働するヨコのつながりを創出し、キャリア形成の基盤を高度化するしくみ作り。

○国際化に加え、人口減少・少子化が進む地域社会において、未来を牽引する人材の育成に対する地域からの期待に応えうるキャリア教育のさらなる推進。



園中ラボ（1年）～課題の解決に向け、主体的・創造的・協働的に探究できる生徒の育成～

キーワード

課題解決型学習 探究的な学習 非認知能力育成 地域との連携・協働

取組概要

- ・市内の6つの事業所からお題（答えのない課題）を提示していただき、その課題解決に向け、グループで協働的に納得解を追求する取組。
- ・中間発表を受け、提示したお題の課題解決に至っているのか事業所が精査し、更に本発表へ向けて検証し、より探究的に学習を深める。

基礎情報

- ・生徒数388名の中規模校である。
- ・3年間を見通し総合的な学習の時間を系統的に編成し、キャリア教育の充実を図っている。
- ・コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、熟議等を通して地域とともにある学校づくりを目指している。
- ・社会で必要な資質・能力の基礎を培う力の育成をしている。

取組の詳細

- ・市内の6事業所（法律事務所、観光協会、道の駅、レストラン、C A T V、寺院）代表から、課題となっていることを提案いただく。
- ・課題について、約5～6名のグループを編成し、課題解決の方途を探る。具体的な学習の柱は以下の通りである。
①業種・事業所の理解、
②課題の理解・明確化、
③課題解決のための提案
④検証と振り返り
- ・課題解決の学習では、情報収集として、書籍、インターネット、事業所訪問、インタビュー、アンケート等を工夫して行い、データ化する。
- ・収集した情報（資料）はグループで共有し、解決の糸口をタブレット端末でまとめたり、プレゼンテーションシートに記録したりして考察する。
- ・10月の中間発表では、自分達の「納得解」を事業所を招いてプレゼンをする。その提案を受けて、事業所には提案内容の問題点、現実性・実用性の点について指摘していただき、再度、内容を検証しながら課題に向き合う。
- ・2月に最終の本発表を行い、事業所の評価を受け、年間を通しての学習を振り返る。



成果

- 地域の事業所が抱える諸課題について、自分事として捉えより実用的な解決策を探ることができ、深い学びとなった。
- 提案した工夫やアイデアが実際に採用され、やり甲斐を感じていた。また、学習を通して地元への関心が高まった。
- 学習のまとめとして定期的にプレゼンを行い、プレゼン能力向上や、発表等で表現力の高まりが見られた。
- 生徒会が主催する、地域貢献ボランティア活動に参加する生徒が増え、地域への関わりを意識する生徒が増えた。

課題や今後に向けて

- 1年の学習では課題を提示いただいたが、今後は自分で課題を設定し、解決する力を育成することが課題である。
- 2年生の「自己の存在意義を見いだす」、3年生の「社会でどう生きるか」をテーマとするキャリア学習に繋げる。
- 高等学校の探究学習に十分対応できる力の育成を図る。

学びを地域の力に～専門教育とボランティアがつなぐ、実践と共生のキャリア教育～

キーワード インターンシップ実習（職業体験活動）／企業連携/地域連携

取組概要

以下の（1）～（3）を柱に特色あるキャリア教育を実施している

- （1）1年次インターンシップ実習からのキャリア教育「総合的な探究の時間」（北キャンパス）
- （2）専門教育と実践的な実習・交流体験（南キャンパス）
- （3）ボランティア部の活動

取組の詳細

（1）1年次インターンシップ実習からのキャリア教育「総合的な探究の時間」（北キャンパス）

ア 1年次インターンシップ実習

- 1年次の10月に全員が4日間のインターンシップ実習（職業体験活動）に参加（協賛企業 約60社）
- 事前・事後の取組や4日間の体験活動を通して、職業観や勤労観の醸成を図る。
- 事前の取組として、ライフプランニング（人生すごろくの実施等）、マナー教育、企業関係者による講義、進路講演会・分野別説明会、金融教育、分野別説明会・進路希望調査、ロールプレイ（電話でのアポイントの取り方など）、プロフェッショナルインタビュー（企業の方に対してやりがい等についてインタビュー）、名刺制作、企業調べ、マナー教育、金融教育、企業調べ等を実施
- 事前・事後の取組やフィードバックにおいては、教科と連携した取組も行っている。
→職業適性検査の実施、職業調査およびその発表
<情報科：10単位時間程度>
→インターンシップ実習で取り組んだこと、学んだこと等を整理・発表
<国語科：10単位時間程度>



イ キャリア教育「総合的な探究の時間」（2・3年）

1年次で体験したインターンシップ実習の成果と課題を踏まえて課題設定を行い、テーマ毎にグループに分かれて探究活動を行っている。

（例）インターンシップ実習での課題：挨拶や返事などに課題 ⇒ 探究活動のテーマ：マナー教育

（2）専門教育と実践的な実習・交流体験（南キャンパス）

ア 専門学科での学習

- 【2学科共通】専門科目の学習を通じて、教育、福祉、介護分野のスペシャリストに必要な知識や態度を身に付ける。
- 【介護福祉科】介護福祉士国家試験合格に向けた学習会を実施し、実力を養成。



イ 校内外での実践的な実習と多様な交流体験

①校外実習

【人間科学科】小学校・保育所・幼稚園での交流体験、国立ハンセン病療養所訪問等。

【介護福祉科】3年間で計57日の高齢者施設で「介護実習」(5期に分けて) 実施。

②校内実習

*校内にある専門的な設備や備品を活用して、介護や支援の様々な場面を想定した実習を実施。
(アイマスク体験、車椅子体験、インスタントシニア体験、車いす介助・体位交換及び更衣介助の実習、入浴介助、手浴実習、血圧測定、リネン交換の実習、普通救命講習等)

*様々な分野の業界や地域と連携し、現場に即した技術や心構えなど実践力の向上。

(介護技術講習、認知症サポーター養成講座、読み聞かせ、SKYシニア大学福祉体験学習等)

ウ 併設する支援学校との交流

○併設する京都府立八幡支援学校小・中・高等部と継続的に授業・学校行事で交流を実施。授業外では校種の垣根を越えて日常的に交流を実施（主に昼休み交流）。

（3）ボランティア部の活動

- みんなで創る福祉のつどい（主管：八幡市社会福祉協議会）
- 食糧支援【八幡市・京田辺市】（主催：食プロやわた・ぬくもりの絆）
- こどもプロジェクト（主催：セカンドハーベスト京都）
- 高齢者施設の夏祭り（主催：（福）洛南福祉会）
- ふれあい交流事業（主催：八幡市教育委員会）
- 全国高校生伝統文化フェスティバル「おもてなし隊」（主催：文化庁・京都府・京都府高等学校文化連盟）
- 京都版ミニ・ミュンヘン（主催：京都府）
- 「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への出場

他多数活動

基礎情報

《本校の特徴》

平成19年に創立された京都府八幡市にある府立の高等学校で、北キャンパス・南キャンパスの2つの学舎からなる。令和8年度で創立20周年を迎える。北キャンパスには普通科（総合選択制）が、南キャンパスには2つの専門学科（人間科学科・介護福祉科）が設置されている。また、同敷地内に京都府立八幡支援学校が併設されている。

両学舎の学びのスタイルは異なるが、インターンシップや体験・交流・実習等の取組を通じて、系統的にキャリア教育を推進している。

《生徒数》（令和7年5月1日現在）

- 北キャンパス：280名（男子138名 女子142名）
- 南キャンパス： 84名（男子 21名 女子 63名）

成果

- 体験活動や体験学習、様々な実習、交流等を通して、生徒一人一人のソーシャルスキルや専門的スキル（南キャンパス）を向上させることができ、自分事として将来のキャリアについて考えることができる生徒が増えた。
- 就職内定率100%（南北両キャンパス）（R6年度）
- 【介護福祉科】介護福祉士国家試験合格率92.9%（R6年度）
- 八幡市教育委員会より「八幡市ふれあい交流事業」へのボランティア活動への参加に対する感謝状を受領（令和7年3月12日）（南キャンパスボランティア部）
- 全国高校生手話パフォーマンス甲子園手話パフォーマンス奨励賞受賞（令和7年9月14日）

課題や今後に向けて

○生徒の特性を踏まえた体験・実習先の割り当てが必要であり、受け入れ先との連携・協力及びキャリア形成に向けた継続的な支援が必要である。

○チーム学校として、全教職員が各自の役割を円滑に系統的に行なうことが大切である。

推薦教育委員会名：(京都府教育委員会)



体系的・組織的な職業教育と積極的なインターンシップ

キーワード

インターンシップ/体系的・組織的な進路指導/地域との連携協働

取組概要

職業学科である「ビジネス総合科」では、生徒一人一人の職業的自立に向け、体系的・組織的な職業教育や積極的なインターンシップを通して必要となる基盤や能力の育成を図り、長年にわたり多くの生徒が企業就労を実現している。また、就労実績にとどまらず、地域と協働した創造的な取組や卒業生支援にも力を注いでおり、独自性の高いキャリア教育を展開している。

学校

取組の詳細

◇体系的・組織的な職業教育の実施

専門教科である工業・流通サービスや、学校設定教科である情報処理・ビジネス家庭の授業を通して、将来の職業生活や社会生活に必要な資質・能力をバランスよく育成している。こうした体系的・組織的な職業教育を教育課程全体で行うことにより、安定した企業就労実績と就労定着率（約9割）を実現している。

◇積極的な職場体験学習の実施

令和6年度はビジネス総合科の生徒60名で約140回と、積極的に地域企業等における体験実習を実施している。体験実習に当たっては、地域・家庭との密な連携を重視し、事前学習や懇談、実習先との面談などを通じて明確な目標・内容を共通確認して実施できるよう計画的に取り組んでいる。実習後には成果や課題を具体的に振り返り、その内容を日々の学習と関連づけることで、校内での学習と実社会での体験を結びつけ、生徒の自発的な学びを促しており、その繰り返しの計画・実施・改善が企業就労への意欲と安定した就労実績につながる土台を築いている。

◇創造性・課題解決力を育成する地域協働型の学び

近隣の特別養護老人ホームの記念品として、木工製の梅花型コースターと窯業製のフリーカップをセットにして納品した。さらに、梱包箱は近隣の障害者訓練校に委託するなど、地域の3施設が連携して商品開発を行った。こうした協働により、生徒は創造性や課題解決力を高めている。

◇将来の地域を担う人材育成

流通・サービスの授業では「校外流通学習」を行い、地域の実際の店舗や倉庫で職業体験を積むとともに、地域の公民館、障害者施設、老人介護施設、小・中学校で清掃学習を展開している。特に小・中学校での清掃学習では、生徒が講師となって児童生徒に指導を行い、多様な集団における協働的な学びを深めるとともに特別支援教育の理解を広げている。

◇卒業生等への支援

在校生だけでなく、卒業生等への就労や生活に関する相談にも随時応じている。年1回以上の就職先への訪問を行い、フォローアップを行うとともに、離職時には関係機関と連携しながら支援体制を整備し、訓練制度の利用などの助言を行うなど、次の就労等につなげている。



基礎情報

- ・小学部8名、中学部4名、高等部56名
- ・平成29年度に高等部に職業学科「ビジネス総合科」を設置。教育課程においては、専門教科で工業、流通・サービス、学校設定教科で情報処理、ビジネス家庭を扱いつつ、積極的な企業との交流や進路体験実習を行い、毎年多くの生徒が企業就労をしている。また、京都府のキャリア教育推進事業（ふれあい・心のステーション）の推進など、京都府の特別支援学校におけるキャリア教育をけん引している。

成果

- ・職業学科としての体系的な教育や進路指導に加え、地域と連携した商品開発や職業体験などの独自の取組により、生徒が「社会に役立つ実感」を得ている。
- ・長年にわたり安定した企業就労実績を挙げており、直近6年間の就労率は80～100%と高水準を維持している。

年	企業就労者数
R 1	16/20名 (80.0%)
R 2	16/17名 (94.1%)
R 3	20/21名 (95.2%)
R 4	18/20名 (90.0%)
R 5	19/19名 (100%)
R 6	17/20名 (85.0%)

課題や今後に向けて

- ・教員が入れ替わっても持続可能なシステムづくり
- ・学校設定教科のねらいの再確認、他の教科等との違いの明確化
- ・就労後の定着率のさらなる向上

推薦教育委員会名：(京都府教育委員会)



自治体と法人の連携協定に基づく高校生へのキャリア支援

キーワード

自己選択の重要性（Choose Your Life！）／騙されない為の教科書／お仕事図鑑／教員向け交流会

取組概要

令和5年度に連携協定を締結した一般社団法人HASSYADAI socialと協働し、府立高校生に「自分が持つ可能性」「自己選択の大切さ」を考えさせる機会や、職業人との対話の機会を創出することにより、府立高校生のキャリア・就労支援を充実させている。

基礎情報

団体の特徴（教育委員会）

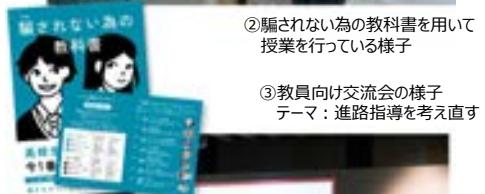
- 府立高校164校（在籍生徒数約10万人）を所管
- 令和4年度より、就職選考開始日からの複数応募を解禁したこと等を踏まえ、高校生の主体的な進路選択の実現に向け、所管する学校へキャリア教育の重要性を発信

取組の詳細

① 「Choose Your Life!～それでもなお、人生は選べる～」をスローガンに掲げる一般社団法人HASSYADAI socialが行う「自分が持つ可能性」「自己選択の大切さ」を生徒に届ける講演を府立高校で実施。学校毎に内容を調整し、効果測定を重ねている。



② 府立高校生全員へ『騙されない為の教科書』を配付し、消費者被害防止を推進。



③ 「お仕事図鑑」と題した「働く人のキャリア・価値観を知る」体験活動の場で、生徒に「進路の選び方」を発見する機会を創出。



④ 令和6年度、教員向け交流会を開催。教員同士が進路指導に係る考え方や経験を共有できる場を設定。

成果

- 同法人による講演活動を令和6年度府立高校5校、令和7年度は8校で実施。
- 府立高校生約10万人に、『騙されない為の教科書』を配付（紙媒体・電子データ）【令和6・7年度】
- 教員向け交流会に、学校関係者約50名、企業等関係者約20名が参加【令和6年度】

課題や今後に向けて

- 同法人が支援する高校で実施した独自調査において、「自身の人生の選択について考えたことがなかった」という回答が30.2%と全国平均と比較し顕著に高い傾向が明らかになった。
- 今後、同法人が支援する各校において体験活動を充実させ、「自分に合った進路の選び方」を学ばせる機会を増加させることで、卒業後の進路を自己決定した生徒の割合95%以上をめざす。
- 本取組みを自治体と法人の連携協定に基づくキャリア支援のモデルとなるよう、効果検証を続けていく。



ふるさと学習×キャリア教育の実施

キーワード

地域連携

取組概要

本校では、教育活動全般がキャリア教育の場と捉えており、特に、総合的な学習の時間で実施する探究型ふるさと学習をその主たるものと位置づけている。体系的・系統的な「キャリア教育」のカリキュラムを進める中で、将来の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育むことを目指している。

取組の詳細

キャリア教育の重点目標として「**つけたい4つの力**（つなげる力・みつめる力・やりきる力・みとおす力）」を設定し、その育成に取り組んでいる。本校では、毎年その中で重点とする力を設定し、4月にそれを踏まえた総合的な学習の時間の年間指導計画を立てている。

また、地域資源を教材化し、学年別学習テーマと教材リストをもとに、現地に足を運び学習を進めている。

令和6年度には、五條東部学園の行事として「東部学園コミュニケーションフェスティバル」を開催し、「むかしあそび」「絵の本ひろば」「俳句の館」など、地域の方も出店し、交流の場とした。フェスティバルでは、5・6年生が中心となり中学生と協力し企画から運営に携わり、こども園の園児や地域住民など幅広い年齢層が活動を共にした。さらに、令和7年度は5・6年生がふるさと学習の発表、3・4年生が出店の手伝い、1・2年生はお店を回り他学年や地域の方とのふれあいなど、活動の内容を広げている。

1年生からの継続的な「ふるさと学習」を中心としたキャリア教育の実施により、子どもたちは自然にふるさとの人・モノ・事とつながっている。多様な活動が、「基礎的・汎用的能力」や郷土愛を育む。また、多様な交流の中で自分や友人のよさに気づき、自分の生活や周りの環境に関心をもたせている。キャリア教育の実践により、コミュニケーションフェスティバルでは、子どもたちが、自己の役割を理解し、来た人に声をかけるなど他者に話しかける姿が多く見られた。



基礎情報

全校児童225名

1小1中からなる五條東部学園小中一貫校。

特色あるカリキュラムとして、「ふるさと学習×キャリア教育」を作成しており、「キャリア・パスポート」を活かし、校区の特色をちりばめた学園独自のポートフォリオを作成し、子どものふるさとに対する愛情を育てつつ、社会的自立を目指している。

成果

「つけたい4つの力」を設定し、意識しながら「ふるさと学習」を行うことでキャリア教育を効果的に進めることができた。

東部学園コミュニケーションフェスティバルでは、総数517名の地域の方・民生委員・保護者・こども園の園児・小学生・中学生が参加した。多世代が一体となって取り組むことで、「人」とのつながりを感じられる取組になった。

児童からは、「コミュニケーションフェスティバルは楽しい。」「ブースにたくさん的人が来てくれてうれしい。」という声が聞かれた。参加した保護者からは、「子どもや中学生が地域の方と楽しそうにふれあっている姿が印象的だった。」などの感想があり、多様な立場の人たちが交流する機会となった。

児童が、企画から運営に携わることは、自律性や協調性といったキャリア教育の基礎的・汎用的能力を育む機会となった。

全国学力・学習状況調査児童質問項目「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」に対して、「そう思う」の回答が、令和7年度は47.6%（全国33.8%）と全国平均を上回った。これは、児童が地域とかかわることの意義を実感し、社会に働きかけたいという意欲が高まっているからではないかと考える。

課題や今後に向けて

学校・家庭・地域が連携し、つながる場として、「東部学園コミュニケーションフェスティバル」を設定した。この活動を継続させ、教育的価値を高めるため、小学校での「ふるさと学習×キャリア教育」の成果発表の場と位置づける。また、児童が年度当初から「東部学園コミュニケーションフェスティバル」を意識して学習を進め、主体的に企画・運営に携わることで、より質の高い学びを実現したい。



「地域と連携したキャリア教育の推進 — 幼保小協働による探究フェアと次世代育成」

キーワード

キャリア形成／地域連携／幼保小／探究的な学び／アントレプレナーシップ教育

学校

取組概要

社会に開かれた教育課程の実現に向けた本校主催の「幼保小教育フェア」は、地域の幼保小教育施設や企業・行政機関と地域連携し、約5,000人規模の来場者を迎える地域協働型のキャリア教育イベントである。児童の主体的な発表や協働的な体験学習、地域課題を扱う探究活動、チャリティ運営を通じて、こどもたちは自己の役割を意識し、他者との関わりの中で社会参加の意欲や自己有用感を育んでいる。本取組は、幼保小の発達段階を接続しながら、幼児期から小学校期にかけてのキャリア形成を一貫して支える体系的な実践として位置づけられるものである。

取組の詳細

本教育フェアは和歌山ビッグ愛を会場に、児童による発表（ダンス・吹奏楽・合唱等）、作品展示（絵画・書道・造形）、体験型学習（英語、プログラミング、昔遊び等）を多彩に展開し、学年や園種を超えた学びの接続と交流を図っている。出展には、幼稚園・保育園・認定こども園、教育系団体、地域企業、行政・協会・大学等を含む50を超える機関・団体が連携し、各メディアも10社以上が報道するなど、地域ぐるみの学びの場を創出している。

①フェア開催に向けた準備は、社会科や総合的な学習の時間及び特別活動を中心に、教科等横断的に年間を通じて計画的に展開している。②テーマ設定、出展者への企画提案、ポスター・案内状・看板の制作、司会台本の作成、会場レイアウトや役割分担の調整などを児童が自ら行い、教員は伴走者として支援している。特に児童会が中核となり、実行委員会形式での話し合いやプロジェクト運営を行い、意思決定や他者との合意形成を重ねる中で、課題発見力・協働力・表現力が育まれている。当日は、児童が司会・広報・受付・会場案内・チャリティ活動などを担い、多様な立場の来場者とのコミュニケーションを通じて実社会とつながる経験を積む。さらに、卒業生や保護者、地域のボランティアと協働することで、異世代・異立場の人々と共に学ぶ力、地域に貢献する姿勢を培っている。③フェア後は、リフレクションシートを活用した振り返りや成果発表、地域関係者への感謝状作成などを通して、自己理解と変容を深め、学びを社会参画や将来設計へつなげる力の育成を図っている。プロジェクト全体を通じて、探究的な学びを基盤とした実践的かつ体系的なキャリア教育が行われ、児童は自主性、リーダーシップ、他者との協働による課題解決力を実践的に獲得することができた。



基礎情報

学校種別：私立小学校 全校児童数：約400名

本校は、キャリア教育の中核として、総合的な時間を中心に関心から課題を立て、児童が自己の関心から課題を立て、役割を持ち、他者と協働しながら価値を創出する学びを重視している。本教育フェアは、これらの実践の集大成として開催されており、今年度、第3回を計画している。

成果

- 児童は自らの役割を自覚し、表現力や協働性を高めながら、役割を果たすとする姿勢が育まれた。また、合意形成の場面で対人調整を重ね、責任感や創意工夫する力も涵養された。さらに、多様な役割を経験する中で、自らの在り方や生き方を見つめ直し、社会との関わりの中で自己の可能性を拡張しようとする意識変容が見られた。
- 来場者数は5,000人を超えて、地域内外から大きな関心を集めている。
- ※チャリティ募金50,000円超→全額寄付(行政機関)
- 協力園・団体・企業は50以上に拡大し、多様な連携を通じてこどもたちの学びが社会とつながる機会が増加。※取材10社以上

課題や今後に向けて

- 持続可能な運営ノウハウの体系化、児童アシリテーター育成の仕組み化・多様な家庭背景の児童も等しく参加できる仕組みの構築。
- 次年度以降、行政・大学と連携した「地域探究フェス」としての拡張を構想。
- ICTや生成AIを活用した広報・記録・省察支援ツールの整備・キャリア教育全体計画との接続を強化し、年間を通じた探究・創造・振り返りのスパイラルを構築。



今を見つめ、未来を拓く生徒の育成

キーワード

探究的な学び／人とのつながり／地域活性化／地域協働

取組概要

地域の今を見つめ課題を発見し、その解決策を考える探究的な学びを通じて、生徒達にコミュニケーション力やプレゼン力を育み、自己肯定感を高め、地域に誇りを持ち、自分自身の未来を拓く生徒の育成に取り組んでいる。

取組の詳細

様々な人と関わり、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとと共に成長する生徒を育成する
～学校の扉を開いて～

- (1)祭りの笛太鼓によるお囃子の継承
 -地域の秋祭りへの参加（H27～）
 -ボランティア活動（H29～）
 -地域の産業祭りへの参加（H27～）

(2)ふるさとの魅力をPRする取組

- ①令和3年度
 「しみずをPRする山車づくりと動画作成」
 -他の地域の人々にふるさとの魅力を伝える
- ②令和4年度
 「SMP清水地区を魅力的にするプロジェクト」
 -清水地区を魅力的にするプロジェクトを立ち上げ、外部にプレゼンテーションを行う
- ③令和5年度
 「清水・まち・未来づくりフォーラム」
 -まちづくりについて自分達で聞き取り調査をし、まちの人々と意見を交流する
- ④令和6年度
 「しみずさんぽ～温泉ガストロノミーウォーキング～」
 -清水をどのようなまちにしていきたいかを考え、そのようなまちおこしするために、何をすれば良いかを考え、実行する

(3)文化講座Piriri(ぴりり)の取組

- 地域の方の技術をみんなで楽しく学ぶ文化講座の開設



基礎情報

全校生徒数 28名（令和7年度）

総合的な学習の時間を軸に、地元の農林業・文化・伝統行事（篠笛、太鼓）を積極的に学ぶとともに、地域活性化について考え、それらを外部に発信し、中学生として地域活性化に取り組む活動を展開している。その活動の中で、郷土のすばらしさを再発見し、郷土を愛し、守り、盛り上げようとする意欲や態度を育んでいる。

成果

○地域や外部の方々と交流しながら課題に向き合う取組は、当事者意識を持って考える力を養っている。

○自分たちの取組が地域を活気づけ、実際に地域を変えていくことができると実感できることは、自己肯定感や自己有用感を高めることにつながっている。

【振り返りアンケート結果（R6）一部抜粋】

「私は今の自分をみつめ、なりたい自分になる努力をしている。」81.1%
 「私は、この地域を誇りに思う。」100%

課題や今後に向けて

▲生徒の考えを上手に汲み取り、自分達で主体的に活動していくよう、より一層の支援が必要。
 (指導者のファシリテーターとしての能力)

【振り返りアンケート結果（R6）一部抜粋】

「私は振り返りを通して課題を発見し、解決に向けて自分で調整できる。」68.2%
 「私は、まわりの人に正確に伝えられるような話し方、きき方ができる。」68.1%



地域を知り、地域と関わることで、こどもたちの総合的な人間力向上を目指す

キーワード

地域資源の活用／地域産業との協働／地域行事への参加

取組概要

学校設定科目「観光一般」・「地域共同」の授業や地域未来づくりプロジェクトチームの活動で、地域資源の活用や地元産業との協働を進めている。授業や活動を通して生徒の達成感、自己有用感を高めることはもちろん、生徒たちは、地域の活性化や学校のPRにも尽力している。

取組の詳細

1 学校設定科目「観光一般」「地域共同」の授業内容

- (1) 地元企業と協働でまぐろカレーを考案した。
その後、行政と連携し、地元の生まぐろフェスにおけるまぐろカレーコンテストを企画・立案し、当日の運営を成功させた。
- (2) 地元企業と協働で紀州ヒノキ材のコースターを作成し、地域で委託販売を行っている。
- (3) レザーカラフトの作成販売を行った。行程では、罠の設置、鹿の捕獲、解体から革製品になるまでを体験した。
- (4) 校内に畑を作り、農作物を栽培する予定である。



2 地域未来づくりプロジェクトチームの活動

- (1) 南紀熊野ジオパーク主催の海洋ゴミ調査や原生林の観察など山資源の調査を行った。
- (2) 各地域のこども食堂に数多く参加し、食事の提供やこどもたちとの交流を行った。
- (3) 地域の祭りやクリスマス会へ参加し、こどもたちや年配の方と交流した。



基礎情報

校訓：創造・愛郷・未来

全校生徒：230人

総合学科：2年次から4系列（教養・建設技術・ビジネス・情報）に分かれ、専門性の高い授業を展開し、地域で活躍する人材の育成に尽力している。

成果

様々な実体験を通じて

- 1 社会で生きていく力が養われた。
- 2 地域社会の担い手としての自覚と責任が培われた。
- 3 地域の現状や課題を認識することができ、課題解決の場面で自ら考え、行動する姿勢が育った。

課題や今後に向けて

今後も生徒の主体性や創造力を尊重し、生徒自身が行動する環境づくりに力を入れていく。新たな新翔オリジナル商品の作成やコンテストなどの企画・運営を手がけ、生徒の主体的活動や地域の魅力発信の強化に注力していきたい。



「今」と「未来」をつなぐPTAが主体となる学校広報誌～学校のキャリア教育を発信～

キーワード

保護者の願い、子どもの思い、対話と発見

取組概要

本校では、児童生徒が自尊感情を高め、生涯にわたって心豊かな人生を送っていくために「暮らす 働く 楽しむ」をキーワードに、キャリア教育全体計画を作成し、小学部から高等部までの系統的な指導を進めている。本校PTAは、学校と一緒に、子どもの成長や発達を支えるとともに、学校広報誌「育成会だより」をとおして、子どもたちの学ぶ姿や開かれた学校の姿を発信している。日々の学習活動や学校行事等について、丁寧な取材や記事づくりを念頭におき、広報活動を展開し、本校のキャリア教育を後押ししている。

取組の詳細

- 本校学校広報誌は、PTA広報部、役員会が中心となり、各家庭に「学校での子どもの様子をよく知つてもらうこと」、「子どものえがおを届けること」、「学部を越えた学校の情報を発信し、安心を伝えること」を大切に記事を作成、構成までを広報部がすべて担当して年3回冊子を発行している。
- 取りあげるテーマは、日々の学習活動や学校行事、地域・企業と協働した教育活動等の取組から、各家庭や児童生徒に届けたいテーマを検討し、設定している。
- 特に取材提供の中には、児童生徒からの記事提供があり数日から一週間かけて丁寧に取材している。直接児童生徒にインタビューをし、子どもの思いや考え、表現を可能な限り文字にして発信することを心がけている。また、障害の種別や程度にかかわりなく、子どもの姿を発信することに力を注いでいる。
- 記事づくりの過程では、保護者目線から「どんな力がつくの？」等の視点で学校と協力して確認を進め、完成させていている。学校広報誌は、学校運営協議会や企業連携会議の参考資料としても活用している。



基礎情報

学校種別：特別支援学校（知的障害、肢体不自由）
児童生徒数：317名

やさしく明るくたくましく、より豊かに「生きる力」を育むことを教育方針とし、令和5年に創立50周年を迎えた。高等部教育の中心に作業学習を位置づけ、地域貢献をキーワードに地場産業の継承を大切にしながらキャリア教育の取組を積極的に展開している。

成果

- 広報活動の取組は10年間継続しており、現在、PTA活動の大きな柱となっている。「育成会だより」は保護者向けの冊子であるが、保護者のみならず、児童生徒にも関心が高く、発行を楽しみにしている。
- 取材を受けた児童生徒がうれしそうに広報誌を手にし自分の言葉や活躍が記事になる喜びを得る様子がみられている。
- この広報活動を通じて、保護者としての立場からは、願いや子どもの思いを伝える役目があり、子ども達としては、取材に関わることで自己有用感を高めることができている。

課題や今後に向けて

- PTAが主体となって本校のキャリア教育を校内外に発信する広報誌の取組は、学校と家庭をつなぐとともに、子ども達の社会参加を後押しする役割を担っている。今後も学校・PTAとして、100周年に向けてこの取組が続いてほしいと願いをもっている。今後も、広報誌に「思い」をのせて、子ども達が中心となる関わりを深く持ちながら、各家庭、教職員に発信していきたい。



小学校や地域と連携したふるさとキャリア教育～ふるさと教育とキャリア教育の学びを往還する「探究あおや」の実践をとおして～

キーワード

ふるさとキャリア教育／探究的な学び／地域資源／小中連携／地域との連携

取組概要

教育課程特例校として「探究あおや」（青谷町の豊かな地域資源を学ぶ「ふるさと教育」と、そこにかかわるさまざまな方々との学びを通して自己の生き方を見つめる「キャリア教育」を融合させた新教科）を新設し、本校における社会に開かれた教育課程の中核を担う学習として位置付け、本県が教育施策の基軸としている「ふるさとキャリア教育」を推進している。地域素材を生かした探究的な学びの過程の中で、地元の方を中心にゲストティーチャーを迎え、ふるさとについて学ぶとともに、生き方や働くことの意義、やりがい等について、ロールモデルとして話を聞くことで、生徒個々のキャリアデザインに役立てる取組を行い、生徒につけたい力（①ふるさとを思う力 ②表現する力 ③未来を切り拓く力）の育成を図っている。

取組の詳細

【地域素材を生かした探究的な学びによるふるさと教育】

各学年独自のテーマを設定し、遺跡の発掘や和紙の紙すき、サーフィン体験を行うとともに、地域の達人へのインタビュー等も交えながら、探究的な学びを進めていった。



1年「大地」青谷
上寺地遺跡発掘体験

2年「和紙」青谷
因州和紙漉き体験

3年「海」青谷海岸
サーフィン体験

【出会いや経験を生かすキャリア教育】

探究的な学びの過程で聞いたゲストティーチャーの多様な生き方や働くことについての思いをロールモデルとし、生徒が課題意識をもちやすい取組を行うことで、個々のキャリアデザインに役立てた。

【みらあおプロジェクト（未来の青谷創造プロジェクト）】

校区の小学校である青谷小6年生、青谷中3年生、地域住民が未来の青谷町について考え、行動する取組について話し合った。令和5年度は町の魅力のPRについての話し合いをきっかけに、ふるさとキャリア教育CMコンテスト（県事業）に参加、令和6年度は青谷の海の魅力のPRを図るべく海岸の清掃活動を行った。ふるさと青谷の魅力向上に貢献することで、地域社会に積極的に関わる力の醸成を図っている。



【CHA3（チャチャチャ）プログラム*】

1年生が地域の大人や大学生等と小グループをつくり、働き方や生き方などのテーマについて自由に話し合い、自分たちの地域で活躍する大人の多様な価値観を知る中で、社会への興味・関心を高めていくトークプログラムを行った。生徒にとっては自分のキャリア観や自身と向き合うこととなり、自身の将来について考えるきっかけとなる時間となった。

* 地域の方やちょっと身近な大人（大学生等）と出会う機会（Chance）をつくり、大人や大学生等と本音で語り合い、多様な価値観と出会うことで、自分を変え（Change）、少し先の目標を持つとともに、様々なことに挑戦（Challenge）する態度を養う。

基礎情報

人口約18万人の中核都市、鳥取市の西部に位置する青谷町は、緑豊かな山地、美しい滝や渓流、山陰海岸ジオパークに含まれる砂浜から望む青海原等、豊かで特徴的な自然環境を有し、因州和紙や青谷上寺地遺跡をはじめとした様々な産業や歴史、文化を有する地域である。

本校は令和6年度5学級（通常3・特支2）、全校生徒69名の小規模校である。令和5年度から教育課程特例校の指定を受け、新設の教科「探究あおや」を中心に、地域と連携したふるさとキャリア教育に取り組んでいる。

成果

令和6年度生徒アンケート 設問	7月	12月
将来の夢や希望を持っている	60%	68%
今住んでいる地域の行事に参加している	79%	81%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	65%	69%
※下段は令和5年度2年生と令和6年度3年生の同一集団の経年比較	48% (2年時7月)	64% (3年時1月)

多くの生徒が「探究あおや」の授業を楽しいと感じて課題の解決に向け主体的に取り組むようになり、ふるさとキャリア教育CMコンテストでの受賞や地域での活動の成功等で多くの人から学習成果を認められた。生徒アンケートからは、実践前後でキャリアデザインの力や地域社会に関わる意欲が醸成されたことがうかがえる。多くの人の出会いの中で、自分自身の生き方を考えるなどキャリア観に関わる時間を設定したり、自分たちで地域をよくする方法を考えて実行したりした成果と考える。

課題や今後に向けて

- 探究的な学びの必要性や有用性を生徒が実感できる課題設定や体験活動等を工夫する。
- 小学校、中学校と地域が育成する青谷町の子どもの姿を話し合い、共通して使える指標（つけたい力や目指す姿など）を設定する。
- 義務教育9年間を意識してカリキュラムを見直し、「キャリア・パスポート」等を活用して、カリキュラム、つけたい力、目指す姿等の小中学校間での共通理解を図る。
- 探究テーマの見直し（地域貢献の視点で再設定し、より深い学びへ）と、それに向けた職員間での議論や地域との連携を進め、教科等横断的かつ地域が一体となって生徒たちの成長を支える仕掛けを行う。

推薦教育委員会名：(鳥取県教育委員会)



CS活用で系統的に取り組むキャリア教育

キーワード

地域人材との連携／観光地の活性化／地域行事への参画

取組概要

- ・学校運営協議会を活用しながら地元企業と連携。非認知能力の周知と地域活性化の一助を目的に学校キャラクター「おんたろう」を販売。
- ・地元の高校生との交流を設定し、児童のキャリア形成に結び付けた。

取組の詳細

- ・令和6年度に美作第一小学校で実施した拡大熟議（6年生児童、保護者、地域、学校運営協議会委員が参加）に参加したグループから、学校キャラクター「おんたろう」活用のアイデアが出され、グッズ販売が実現した。協議を重ね、湯郷観光協会とタイアップし、協会が主催する「湯郷マルシェ」にて、「おんたろう」キーホルダーを販売することとなった。
- ・観光協会とのつながりが強まり、協会主催の夏祭りの会場づくりに、小学生が地元の園児と一緒に七夕飾りに参加した。

- ・小学生が地元の県立林野高校生と交流。競技の技術指導や陸上競技会への支援要請、文化部の演奏指導会などを設定し、地元高校への憧れをもつきっかけとなった。



基礎情報

児童数235人。湯郷温泉街に立地し、周辺は石畳の道が広がる風情ある雰囲気の中に立地する。「ふるさとに誇りを持ち心豊かでたくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に据え、学校運営協議会を活用しながら地域とのつながりを強め、児童のキャリア形成の充実を図る。

成果

児童は市内観光地の活性化などの課題を自分たちで設定し、地域の方々とのつながりを強め、自分たちの質問や意見を積極的に伝えることができるようになった。また、活動中は、教職員や児童から「こんなこともしてみたい」というアイデアが出たり、新たなことに挑戦したりする主体的に活動する姿が多く見られた。

課題や今後に向けて

地域の様々な方の意見を取り入れて試行錯誤しながら「おんたろう」グッズの商品化をすすめている。児童がさまざまな世代との交流を通して、自分らしい生き方を追求・実現できるイベントを計画しており、地元とのよりよい連携の仕方を探っている。



総合的な学習の時間・学校行事とキャリア教育の紐づけ

キーワード

総合的な学習の時間と学校行事／「働く」「起業」という視点／PBLの手法を取り入れた職場体験

取組概要

今までしてきた教育活動とキャリア教育の紐付けを明確化・体系化したグランドデザインを基に、PBLの手法を取り入れた職場体験等、キャリア発達に関する能力（非認知能力）の育成を意識した取組を展開している。

取組の詳細

①キャリア教育で育む力の明確化

既に取組を進めていた非認知能力（里中9つのつけたい力）と同様に、キャリア発達に関する能力を、行動指標に落とし込むことで生徒のメタ認知を促した。

②総合的な学習の時間の在り方の見直し

3年間を見通し、育んでいきたい力を明確にしながら全体計画を作成した。3年間を貫くテーマとして「自分の道を拓く」を設定し、3年間で計画的にキャリア教育を進められるようにした。

③職場体験（第2学年）とキャリア教育の明確な紐付け

「働く」ことを自分事として捉えることができるよう「起業」という視点を取り入れ、企業の役員を招いてベンチャーミーティングを実施した。また、生徒が事前に「働く」「起業」の視点で仮説を立て、その検証の場として職場体験を捉えるようにした。



基礎情報

生徒数323人。県の南西部に位置し、豊かな自然に囲まれ、交通アクセスも良好な場所に立地している。中学校の周辺にある企業や工場は、職場体験をはじめとする教育活動に協力的である。「心豊かに自ら学ぶ生徒の育成」を学校教育目標に据え、認知能力と非認知能力両方を意識して育成し、目標の実現に迫っている。

成果

・キャリア発達に関わる諸能力のアンケートで、ほぼ全ての能力で大幅な伸びが見られた。特に課題対応能力やキャリアプランニング能力について回答の伸び率、数値ともに高まった。

・職場体験を自分事と捉え、周りの大人との対話を通して、将来のために現在すべきことや職業に関する知識を獲得できたという実感が得られた結果であると考える。

課題や今後に向けて

・伸び率は高いが、他の能力と比較し数値が低かったのが計画実行能力である。自らの目標実現のための行動力・実行力、プランニング能力を養っていくことが今後の課題である。



地域と共に歩み、多様な教育ニーズに合わせたキャリア教育

キーワード

キャリアデザイン科／企業体験／多様な教育ニーズへの対応

取組概要

目標や夢の実現に向けて自律心向上の精神にあふれた人格の育成をはかることをキャリア教育の重点目標として、地元企業等と連携し、商品開発・販売体験を通じた企業体験学習を行っている。また、令和5年度から「行きたくなる学校づくり」を経営目標に掲げ、全校的な発達支持的生徒指導等を通して、生徒の多様な教育ニーズに応える体制を整えている。

取組の詳細

○系統的なキャリア教育【(1)】

1年次では「自分と社会を知る」、2年次では「社会とつながる」、3年次では「社会と協働する」をキーワードとして、系統的なキャリア教育を実践している。1年次では「産業社会と人間」において、実社会での自己の在り方や生き方に気付き、2、3年次では「総合的な探究の時間」において、自己実現に向けて積極的に行動する態度を養っている。



○地域と共に歩む探究活動【(4)】

「総合的な探究の時間」では、地域を学びの場として捉え、生徒が発見した地域の課題をテーマに、大学、地元企業、商工会等と連携した探究活動を行い、その成果を地域への提言として発表している。地域課題の解決に向けた探究活動に取り組むことで、地域理解を深めるだけでなく、地域貢献への意欲を醸成している。



○不登校など、多様な教育ニーズへの対応【(5)】

生徒への挨拶・声かけ・励まし・賞賛・対話など、生徒指導提要で示されている「発達支持的生徒指導」を全校的に充実させたり、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけを大切にするスタンスで指導にあたるなどして、生徒のキャリア形成・発達を支援している。また、常勤の特別支援教育コーディネーターを配置した「学校生活サポートルーム」を校内に設置し、カウンセリング等により、生徒が発している些細な訴えを的確に受け止め、共感的で受容的な環境づくりを整えている。多様な生徒を積極的に受け入れ、それぞれの教育ニーズに合わせたこれらの取組により、新入生全体の3割程度が中学校時に不登校を経験しているが、このうち8割程度が登校できるようになっており、近年の入学者数の増加にもつながっている。

基礎情報

岡山県立岡山御津高等学校は、平成17年に総合学科校として開校し、20年目を迎える。この間、いくつもの改善と改革を重ねながら、現在では「生徒が行きたいと思える学校づくり」を経営ビジョンとして掲げており、地域と共に歩む学習を展開している。全校で306名が在籍しており、社会的・職業的に自立し、社会の発展に貢献する人材の育成を目指した教育活動を行っている。令和7年度から、不登校傾向の生徒が全日制高校を卒業することを支援する仕組み「フレックス制」を導入し、通信制で一部の科目の単位修得を可能にするなど、他校等と連携し生徒を支援する体制を整えている。

成果

- ・地元企業等と連携した探究活動により、商品化・イベント出店などを実施
- ・インターンシップまたは企業訪問参加率の増加
(R4 : 67.0%、R5 : 93.0%、R6 : 100%)
- ・年度末実施のアンケートにおいて、「学校が楽しい」(R5 : 36.4%、R6 : 46.2%)、「みんなで何かをするのは楽しい」(R5 : 47.4%、R6 : 52.2%)など、生徒の学校生活に対する肯定的回答の割合の増加
- ・入学者数の増加
(R4 : 59名、R5 : 99名、R6 : 119名、R7 : 120名)

課題や今後に向けて

- ・地域や地元企業と連携した取組の継続
- ・保護者や地域等に向けてキャリア教育の成果の更なる発信
- ・特別な配慮が必要な生徒への指導体制の一層の充実



「実生活・実社会の課題」を見つけ、社会へ還元する「My探究」

キーワード

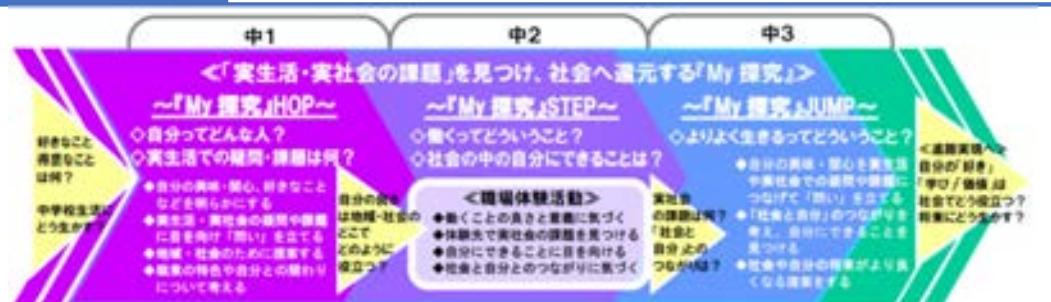
My探究

取組概要

生徒が自己の将来や生き方を考えることに結びつくよう、自分の興味・関心に基づいた「問い合わせ」を立てることから始め、学年が進むにしたがって「地域・社会」に提案することを目指した「My探究」へと進化させていく。

学校

取組の詳細



「興味・関心」を深めることで終わらず、探究によって明らかになったことを「地域・社会」に役立つよう提案することを目指す「My探究」

- 小中の7年間を通して、「自分の興味・関心」に基づいて「問い合わせ」を立て、それを解決する
- 対話や協議をする時間を意図的に設定し、生徒の批判的思考力を刺激することで
思考力・判断力・表現力の育成を図る

【自己理解・自己管理能力】→1年時は、自分の好きなこと・得意なことを見つめることから始まり、自分の良さは地域・社会どのように役立つか探究を進める。

【課題対応能力の育成】→2年時は、職場体験活動を通して実社会の課題を見つけ、事業所や地域のために自分ができることは何かについて探究を進める。

【キャリアプランニング能力の育成】→3年時は、実社会の課題をもとに、自分とのつながりを考え、社会や自分の将来がよりよくなる提案をするための探究を進める。

基礎情報

団体の特徴（学校）

全校生徒は71名。生徒自身が「生徒が創る学校」に向けて、自ら考え、積極的に新しいことに取り組んでいる。また、小学校と連携しながら、身につけさせたい資質・能力を9年間のキャリア教育を通して育成している。

成果

・探究学習に係る知識・技能が定着した。

自分の興味・関心に基づいたテーマについて「問い合わせ」を立て、それを解決するための検証を適切な方法で実施した。87.1%

・自分の意志で課題の解決に取り組んだり、友達と協力しながら探究活動を進めたりする主体性・協働性が向上した。

友達とお互いの思いや考えを共有しながら協力して改善点を伝え合い、アドバイスをしながら課題の解決に取り組んだ。87.0%

・教育活動全体を通して、キャリア教育の充実に向けて「資質・能力」に着目していくという意識が定着した。

課題や今後に向けて

・「他者」「地域・社会」への提案・提言につながる探究活動に十分になっていない。

「他者」「地域・社会」に向けた、具体的で実現可能な提案・提言をした。61.1%

・キャリア教育の充実の視点で活動のブラッシュアップを図る。

・今後は、「My探究」をアウトプットする相手を明確にして探究活動に取り組めるようにする。



産業教育コーディネーターを活用した、地域課題解決に向けた探究的キャリア教育

キーワード

地域連携／探究学習／産業教育コーディネーター／

取組概要

産業教育コーディネーターの配置を活用し、地域企業・団体との連携による課題解決型学習を実践。商店街やNPOとの協働、他校との交流など、地域課題に向き合う実践的な探究活動を通じて、生徒のキャリア形成と地域人材育成を両立する。

取組の詳細

- 地域課題に対する探究学習の一環として、産業教育コーディネーターを活用。
- 尾道市内の商店街連携、NPO団体との協働、地元企業への提案などを通じ、実社会との接点を持ちながら課題解決型のキャリア教育を展開。
- 地域や産業界との連携だけでなく、授業内容の事前・事後支援についても産業教育コーディネーターが担当。

取組事例

- ▶ 服のチカラプロジェクト
⇒ 地元商店街と連携したPR及び回収活動
- ▶ 空き家再生プロジェクト
⇒ NPO法人の財務諸表分析と改善案提案
- ▶ 観光ビジネス
⇒ 尾道での修学旅行支援（事前学習・ガイド）



基礎情報

- 生徒数：約550名
- 地域：尾道市（人口減少・空き家・観光地）
- 商業科の専門性を活かし、1年～3年まで系統的な探究学習を実践
- 産業教育コーディネーター配置校（令和5年度～）

成果

- 地元企業・NPO・自治体等との連携：年間20件以上
- 「服のチカラプロジェクト」では、地域住民参加による衣類回収及びPR活動を実現（中國新聞に掲載）
- 「空き家再生プロジェクト」では、生徒による事業分析及び改善提案を実施。
- 修学旅行支援（東京都の高校と連携）における観光ガイドを通して、地域理解とプレゼン力が向上。
- 令和7年度は、3年「課題研究」で設定している10講座すべてで、地域と連携。

課題や今後に向けて

地域や産業界との連携、そして継続へ…

- 学校教育目標（～地域社会に貢献できる人材を育成する。）のもと、継続的な連携を行うため、以下の内容を整理する。
 - ① 単元や年間を見通した持続可能な教育活動となっているか。
 - ② 個々の生徒の状況に応じた教育活動となっているか。
 - ③ 学校と地域や産業界との協働体制を構築し、双方にとって意味のある教育活動となっているか。



ふるさとに貢献する成果創出と地域創生活動

キーワード

コミュニティ・スクール、地域連携、協働実践、産業界との連携、起業体験活動、人づくりと地域づくり

取組概要

本取組は、学びの内容と社会や仕事のつながりを意識するとともに、ふるさとのために自分がしたいことを見つけることで、夢や目標につなげることをめざしている。

そこで、周防大島の豊かな自然や起業家などの地域資源を活用した職場体験、商品開発やチャレンジ出店、地域を巻き込んだイベントの開催、町づくりの提案などの取組を通して、キャリア形成を図ることとした。

また本取組は、コミュニティ・スクールの機能を活用した地域連携型の教育の一環として、キャリア教育による人づくりと地域づくりもめざすものである。

取組の詳細

具体的な取組について、体験的な学びからふるさとに貢献しようとする子どもの変容を追って述べる。

【地域産業等の理解】

- 農園見学（無農薬農園、菌を活用した農園、新規柑橘作物栽培農園）
- 施設見学（ホンアワサンゴ拠点施設、さきさ水族館、民俗資料館、道の駅）
- 出前授業（地元起業家の講話と起業体験指導者）（文部科学省アントレプレナーシップ推進大使派遣事業）（ナマコの住み家造設企業の話）



【実の場での体験】

- 自然体験（海の生物調べ、SUPやカヌー、地域巡査）
- 職場体験（高齢者施設、防災センター、ひじき加工場、さつまいも農園、みかん農園、大島商船）
- おためし授業の実施（地域で、高齢者サロンでのふれあい）、こんにちは訪問（学校で、一緒に給食やふれあい）



【子どもや地域住民の思いや願いの共有（熟議）】

- テーマ「周防大島の良さを生かした町づくり」（子ども、保護者、地域住民、教職員、高校生）
- テーマ「海洋資源を生かした町づくり」（子ども、保護者、地域住民、教職員、産業界）
- テーマ「地域防災に必要なもの」（子ども、地域住民、教職員、医療や介護関係者、民生児童委員、町福祉課職員）

【成果創出活動】

- 大島の素材を活用したチャレンジ出店（起業体験）の年3回実施
- 海洋教育（環境保全－植樹活動や魚礁づくり、アサリの養殖実験）（観光振興－人魚モニュメントや顔はめバネリ、流木アートの製作と設置、トンネルアート、手作り絵本の出版）
- ボランティア活動（海ごみゼロ作戦による海の整美、落ち葉集めによる山の整美）
- 地域福祉への貢献（開発商品をガチャ機で販売、県共同募金会へ募金）
- 学校畠や学校林の造成（学校畠－さつまいもや玉ねぎの栽培→バザー販売や無料配布）（学校林－環境保全や観光資源となる樹木の植樹→町づくり提案）



【地域創生活動】

- 東和フェスタの開催（発表－海を生かした町づくり提案、フランダンス、太鼓、手話付き校歌）（バザー－海や山の資源を生かした開発商品の販売）
- どんど焼きの復活（地域文化の継承）
- 町主催及び地域行事の準備からの参加（敬老会、秋祭り、各種フェスタなど）
- 町づくり提案（町議員による出前授業）（海洋教育の副読本教材を編集）
- 産業界との連携（JFEステンレス－マリンストーンによる藻場再生活動）（日本釣振興会－アマモの藻場再生と魚の放流活動）（よしもと興業カンパニー－広報番組制作）
- ※その他－漁協、高校、ホテル、各種企業など

周防大島の課題である人口減少、少子高齢化、産業の衰退等の解決に向けて、体験的な学びを通して自分たちができることを考えることで、自分にふさわしい生き方を実現しようとする活動を展開していった。

基礎情報

団体の特徴（学校）

本校は、人口約1万3千人の瀬戸内海に浮かぶ島内に位置し、児童数は63人と年々減少している。島内には大きな企業はなく、個人事業主が目立つ地域である。

本校では、校区内の課題である人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの弱体化、産業の衰退などを解決するため、コミュニティ・スクールを核とした地域連携型の教育を推進し、地域の担い手となる子どもの成長と地域活性化をめざす学校づくりをめざしている。

その核となる活動の一つが、「ひと・もの・こと」などの地域資源を活用した教育活動である。具体的には、アントレプレナーシップ教育や海洋教育の推進、地域との協働活動の取組などがある。

本校では、これまでこれからも、古くから引き継がれた風土を生かし、校区内の人や自然や歴史・文化などの維持・発展を地域の恒久な幸せととらえ、ふるさとを幸せにする子どもの育成を地域ぐるみで行っていく。

成果

本校区の資源を活用した地域連携型のキャリア教育における主な成果を以下に述べる。

【児童】

- 主体性や協働力、実行力、コミュニケーション力が高まった。
- 探究心や活用力の深まりから学力が向上した。（対象学年・2年生以上の正答率は全国平均より3ポイント上「令和7年度全国学力・学習状況調査や全国版学力調査より」）
- 学びが社会や仕事で活用されることを感じた。
- 自己の生き方、地域貢献に必要な力や自分ができることがより具体化した。（「地域や社会をよくするために何かしたいと思う 100%」「令和7年度全国学力・学習状況調査 児童質問調査より」）

【地域】

- 学校に協力したいという支援者や団体が増えた。
- 学校や地域の願いや思いが共有でき、協働実践につながっている。（児童・保護者、地域対象 100%「学校評価アンケートより」）
- 地域活性化や地域課題解決への活動が地域内で広がりを見せている。

【学校】

- 地域の資源を活用した教育活動を多く組むようになった。
- コミュニティ・スクールの取組が、子どもの成長や地域の課題解決の起爆剤になっていることを感じている。
- 以上のような成果の他、全体として、ふるさと山口、ふるさと大島への思いを強くし、貢献したいという子どもや地域住民、教職員が増えたと確信する。また、人づくりや地域づくりに向けて、地域社会の団結力が強くなっていると感じる。

課題や今後に向けて

成果創出と地域創生の観点から、今後の取組について以下に述べる。

【課題】

- 子どもや地域住民、教職員の「ふるさとを幸せにする心意気」の醸成を図る学校づくり
- 地域資源と人づくり・地域づくりをつなぐ学校・地域連携カリキュラムの見直し
- 熟議からアクションを重視したPDCAサイクルによるコミュニティ・スクール機能の強化

【今後に向けて】

- 小中の体系的・系統的なキャリア教育の推進
- 学力の向上と基礎的・汎用的能力の育成
- 地域移行される部活動との連携・協働
- 企業や団体などの産業界とのさらなる連携

その他、本校区の特色から見て、小学校段階から、地域の資源と自己の生き方を結び付け、職業的自立について主体的に考える機会を多く設定し、起業家精神や起業家資質・能力を育成することは大切なことであると認識する。

推薦教育委員会名：(山口県教育委員会)



地域を「考動」し未来を拓く～ふるさとを愛し、創り出すキャリア教育～

キーワード

地域連携／探究学習／地域活性化

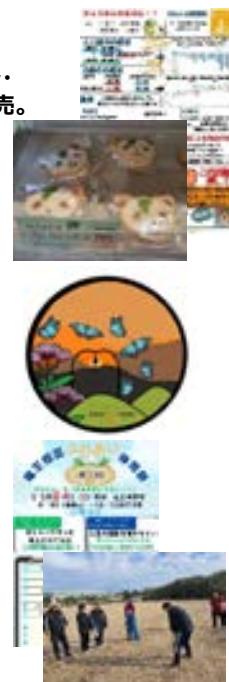
取組概要

「ふるさとを愛する気持ちの醸成と未来の創造」を全校テーマに、地域連携型の探究学習をキャリア教育の中核に据え、取組を推進している。

- ・目標：「地域課題解決を通じ、自己の生き方を考える資質・能力を育成。」
- ・学年別テーマ
1年：「ふるさとを知る」 2年：「活性化する方法を発見する」 3年：「活性化を実践・発信する」
- ・学習プロセス：地域課題の発見から情報収集・分析（フィールドワーク、職場体験等）を経て、解決策の企画・提案・実践までを系統的に実施。
- ・地域との協働：地域の専門家、企業、行政職員がゲストティーチャーとして協力。
- ・めざす姿：地域に貢献する「考動」を促し、社会参画意識とキャリア形成意識を高める。

取組の詳細

- ・りゅうみんパンの企画・販売
 - 動機：地域人口減少・高齢化対策、若者の市外流出抑制。
 - 活動：竜王中学校区のマスコットキャラクター「りゅうみん」を活用。地域パン店「パン・デ・モルデ」と連携し、オリジナル「りゅうみんパン（185円）」を共同開発・販売。販売促進用ポスター・ポップも生徒が作成。
 - 効果：「りゅうみん」の知名度向上による地域活性化を目指す。
- ・デザインマンホールによるまちおこし「マンホール大作戦」
 - 動機：人口減少（20年後5万人以下予測）、理科大生・中高生の定住促進、SDGs 11「住み続けられるまちづくり」への貢献。
 - 活動：竜王中学校区の魅力を伝えるデザインマンホールの作成プロジェクト。夕日、幸せの鐘、アサギマダラ、竜王山など地域の象徴的な要素を盛り込んだデザイン案を考案。市下水道課との協議、全校アンケートを経て、改良したイラストデザインを決定。
 - 効果：視覚的な興味喚起、SNS拡散による集客、地域全体を明るくする「路上のアート」として経済効果も期待。
- ・地域ふれあい体育祭の企画・運営
 - 動機：「みんなが健康でいられる地域を作る」「地域みんなで仲良くなる」ことを目指し、運動不足解消、地域住民の交流促進を図る。
 - 活動：体育大会の企画として、ボッチャ、カローリングなど、高齢者も気軽に楽しめる多様な競技を提案。全員が怪我なく楽しめるよう配慮し、地域全体が笑顔あふれる機会とすることを心掛ける。
 - 効果：地域住民の心身両面の健康増進。競技を通じた地域住民間のコミュニケーション促進、地域の絆を深める。運動の楽しさを知り、運動習慣の定着を図ることで、健康で活力ある地域づくりに貢献。



基礎情報

- ・全校生徒数：185名（令和7年度）
- ・地域の特徴：
 - 地域連携性が高く、学校教育に理解と協力がある。
 - 夕日百選の焼野海岸、竜王山など自然豊か。
 - 人口減少・高齢化が課題
- ・学校の特徴：
 - 学校教育目標「誇りと志をもち、自ら学び考動し、たくましく生き抜く児童生徒の育成」
 - コミュニティ・スクール、地域教育ネットを活用し、地域連携教育を推進。
 - 地域ゆかりの講師招聘や探究学習を通じ、地域に貢献するキャリア教育を展開。

成果

- ・探究的な学びの手順・方法を体験し、習得。
- ・地域への愛着と社会の一員としての意識が向上。
- ・探究的な思考力と主体的に学ぶ意欲の醸成。
- ・企画提案の実践を通じ、成果と課題を実感し、次なる探究への意欲の向上。
- ・生徒の「地域を愛する気持ちは強く地域貢献活動をする」意識の強化。

課題や今後に向けて

- ・地域定住意識の低さ：地域貢献意欲は高いが、将来の地域定住への意識が低い。「地域を愛し、将来定住する」という地域の願いとのギャップ。
- ・家庭学習習慣・内容定着の不足：家庭学習習慣の定着が不十分で、学習内容の定着が課題。
- ・探究活動のさらなる深化：企画実践で得られた成果と課題を踏まえ、PDCAサイクルをより効果的に活用し、探究スキルを一層高める必要。



地域を誇りに、志を胸に、未来を創る力を育む～学校と地域が一体となったキャリア教育の推進～

キーワード

地域課題の解決／地域連携／異校種交流／異校種連携／地域人材の育成

取組概要

地域と連携した探究学習：地域課題をテーマにした実践的な学び
地域貢献活動：学習成果を活かした地域社会への創造的貢献
“志教育”的推進：小・中・高が連携した社会と積極的に関わる子どもの育成
IT人材育成：自治体と連携したデジタルスキルの習得支援
インターンシップ：地元企業での職場体験によるキャリア形成

基礎情報

幕末の志士を多数輩出した私塾・松下村塾がある歴史と文化のまち・萩市に位置する、商業科・工業科を併せ持つ専門高校です。全校生徒数は313名で、地域産業を支える人材育成を目指しています。地元企業や自治体との協働による教育活動を展開し、地域と連携した実践的な学びを通じて、生徒のキャリア形成を支援しています。

取組の詳細

【地域と連携した探究学習】

商業科・工業科それぞれの強みを生かして地域課題の解決に向けた実践的な取組を行っています。

○令和6年度「JR山陰本線の利活用促進プロジェクト」

赤字路線であるJR山陰本線を高校生が盛り上げることで利用者増加につなげたいという思いで取り組んだ。

商業科

現状分析・情報発信
イベント企画・運営



工業科

ミニチュア鉄道の製作



○令和7年度「見島伝統継承」

見島の文化を反映した商品開発や発信を通じて、島の活気を取り戻すことができると考え、自治体、企業、島民を巻き込んだ取組を始めた。

商業科

現状分析・情報発信
商品開発・販売活動



工業科

イベント企画・運営



【地域貢献活動】地域イベントボランティア・技術ボランティア

【志教育】小・中学校への出前授業、教科「技術」授業支援、探究活動の推進

【IT人材育成】萩グローバルIT人材育成協議会による授業支援

【インターンシップ】2年生全員参加による地域産業理解と実践的キャリア教育

成果

○地域課題への主体的な関わり

地域課題に取り組む探究活動を通じて、地域貢献への意識が高まった。

○異校種連携の深化

小中学校への出前授業や技術支援を通じて、地域の教育力向上に貢献し、キャリア教育の広がりを実現した。

○ITスキル・ビジネススキルの向上

萩市の萩グローバルIT人材育成協議会との連携により、デジタルスキルや商品開発・情報発信などの実践的な力が育成された。

○進路意識の向上

インターンシップを通じて、将来像を具体的に描く生徒が増加。地域企業との交流により、地元で働く意義を理解する機会となった。

課題や今後に向けて

○活動の継続性と発展性

内容の変化により成果の蓄積が難しく、進路に応じた柔軟な設計も課題である。記録の体系化と継続可能なテーマ設定で対応を図る。

○人的・時間的リソースの不足

支援体制の不十分さに対し、地域コーディネーターや外部人材の活用で体制強化を検討する。

○成果の可視化と共有

成長や地域貢献の指標不足に対し、ループリックやアンケートを活用して成果の見える化と情報発信を進める。



徳島の未来を担う人材の育成

キーワード

地方創生／探究学習／地域連携／

取組概要

徳島創生プロジェクトを実施して、自ら徳島県の課題や魅力を発見し、校内外の多様な他者と関わり、徳島の未来を担う人財の育成を目指す。

取組の詳細

- 地域経済分析システム「RESAS」を活用した「徳島創生プロジェクト」を実施。
- 徳島県の地域振興に寄与している企業や個人に講演を依頼し、徳島県の課題や魅力についての理解を深める。
- 夏季休業期間を活用し、設定した課題解決に関わる企業・自治体を訪問。また、Web会議システムを活用し、全班がインタビューを実施。
- 関西学院高等学校主催の「中高生探究の集い」に参加し、課題研究に取り組む他校の生徒との交流を通じて視野を広げる。
- 実践について発表会を実施。
 - ・中間発表会（9月）
 - ・学校公開日の発表（10月）
 - ・最終発表会（2月）
- 外部のコンテストに参加。地方創生★政策アイデアコンテストでは、徳島県予選を勝ち抜き、3チームが四国地区選考に出品。



基礎情報

団体の特徴（学校）

2020年4月に、県内初の中等教育学校となる徳島県立城ノ内中等教育学校として開校。6年間を2年間ずつ、基礎期・充実期・発展期の3期に分け、英語及び理数教育に重点を置いた教育課程を開設している。生徒数817名（前期課程420名、後期課程397名）。

成果

- 「RESAS」の実際の活用を通して、データを論拠とした提案を行うことの重要性を学ぶことができた。
- 専門家より、スタートアップ企業支援の観点から様々なアドバイスを受け、生徒にとって学校だけでは得がたい学びの機会となった。
- 各発表ごとにWebアンケートを用いて評価し、その結果を可視化することで、より効果的な比較や振り返り、学習の充実を図ることができた。（別紙資料）

課題や今後に向けて

- 下級生への継承や校内への共有を進め、活動の持続性を高める。
- 研究成果を、生徒の進路選択やキャリア形成に結びつける仕掛け作りを検討する。



住み続けたいにし阿波づくりを

キーワード

関係人口／活動人口／地域連携／地域愛

取組概要

本校は令和2年度からICTビジネス研究部が中心となり、JR貞光駅で徳島線を走る観光列車「藍よしがわトロッコ」のおもてなし活動を行っている。毎年「にし阿波のPRをしよう」と意見が出るが、生徒自身はにし阿波の強みに魅力を感じていなかった。しかし活動を続けるなかで、辺境の地・にし阿波地域の活性化には、交流人口や関係人口を増やすことが重要であることに生徒自身が気づき、生徒目線で地域の魅力を伝えることにより、にし阿波の伝統や産業、未来を守ることに繋がることを実感してきた。さらには、生徒たちが活動人口となり、地域のなかで、より活躍することをめざす。本活動を通じて、高校生と地域が一体となり、地域について考え、行動することで、「住み続けたいにし阿波」に繋がると考えている。

取組の詳細

○地域で活躍する方々との交流:

- ・美馬青年会議所、三好市観光協会、合同会社結びの代表者から、地域の魅力や課題について直接話を聞き、意見交換を実施。



生徒のレポート

○情報発信の実践:

- ・美馬青年会議所主催の「地域LOVE発信セミナー」に参加し、動画の撮影・編集技術を習得。貞光のうだつの町並みの動画を作成し、SNSで発信。



生徒のレポート

○世界農業遺産に関する学びと体験:

- ・「にし阿波の傾斜地農耕システム」について、つるぎ町産業経済課や磯貝農園と交流して学習。
- ・傾斜地での土あげ体験を実施。傾斜40度の世界での農業と伝統を守る姿勢を学ぶ。



生徒のレポート

○実践的なPR活動:

- ・JR貞光駅での「藍よしがわトロッコ」おもてなし活動 地域ビジネス科2年生が「にし阿波の傾斜地農耕システム」についてPRするためのチラシを作成。磯貝農園や観光案内人とともにPR活動を実施。ともに地域の価値を高める活動を行う。
- ・「藍よしがわトロッコ」に乗車して沿線ガイドを実施 地域ビジネス科3年生がJR四国相談役から、地域活性化における観光列車の役割を学び、「期待を超える感動」を提供すべく、沿線ガイドに挑戦した。3チームに分かれ、ガイドもおもてなしの内容も一から考えた。

基礎情報

団体の特徴（学校）

徳島県立つるぎ高等学校は、徳島県西部に位置し、吉野川と劍山に囲まれた自然豊かな地域にある。全校生徒408名で、工業科と商業科を併せ持つ専門高校である。本校のスクールミッションは、「地域に根ざした工業教育・商業教育の連携のもと、「充実したICT教育環境」を生かして、確かな学力と専門的な知識・技術を習得し、地域社会の発展に貢献する「スペシャリスト」として必要となる力を育成することである。

なお、本校の通学域であるつるぎ町、美馬市、三好市、東みよし町を「にし阿波」と言い、人口減少・少子高齢化などの問題を抱えている。

成果

・生徒の主体性の向上:

生徒たちが自ら地域のことを考え、地域の人々と協力して活動する「関係人口」、「活動人口」へと変容した。

・地域への愛着の醸成:

にし阿波の伝統や文化を次世代に伝えることの重要性を感じた生徒が多くいた。

・高い評価の獲得:

この取組が「エシカル甲子園2024」で特別賞（日本エシカル推進協議会会長賞）を受賞した。

・実践的なスキルの獲得:

課題解決に向けた話し合いや、PRのためのチラシ作成、SNS発信、観光列車「藍よしがわトロッコ」での沿線ガイドなど、様々な実践を通して商業で学んだ知識を活かすことができた。

・顧客からのポジティブな反響:

「藍よしがわトロッコ」の沿線ガイドに挑戦し、乗客から「これからも続けてほしい」という声が多く寄せられた。

・生徒の活動の満足度:

活動全般を通しての満足度はほぼ100%で（土あげ体験のみ92%）、「にし阿波の良さが見つかった」、「にし阿波の良さをもっと自分の言葉で伝えたい」という質問も「はい」が100%であり、今後につながる結果となった。

課題や今後に向けて

・続けていくこと

「エシカル甲子園2024」で、審査員の方より「続けていくことが重要である」とアドバイスがあった。この活動を単年で終わらすのではなく、今後も無理なく「続けていく」ということが、課題である。

・商品開発

「作りたいもの」ではなく、地域の「思い」を反映した商品開発を、生産者や関係者との議論を重ねて進めている。目標は、にし阿波を代表するお土産として、「藍よしがわトロッコ」おもてなし活動としてJR貞光駅で販売することである。

地域の信頼が高まり連携の誘いが増えるなか、学びの機会を通じて共に「対等なパートナー」として成長できる方々との連携を買いている。これにより、活動の質を保ち、生徒たちの主体的な関わりを促していると考える。これからも生徒自身が、そして未来の世代が「住み続けたい」と心から思えるにし阿波を、地域と共に創造していきたい。



大学や他の機関と連携した保護者のキャリアデザイン力育成事業

キーワード

他の機関との連携／充実した上級学校等訪問研修／広報活動

取組概要

I 本県の産官学が連携した「大学・地域共創プラットフォーム香川」等と連携した事業

- ①保護者のためのキャリアデザイン研修
- ②機関誌での県内大学・短大の広報活動
- ③県内企業現地研修会

II 京阪神方面への大学・専門学校訪問研修

III 各種PTA大会に併せて大学・企業等への訪問研修

基礎情報

香川県内の公立高校30校、私立高校8校、特別支援学校8校の計46校、約2万人の保護者が加盟したPTA連合会である。

単位PTA相互の連絡、単位PTA及び学校教育の振興・支援事業、PTA活動の質的向上のための研究大会・講演会・研修会の開催、青少年の健全育成に資する情報の収集と提供、教育に関する調査・研究などを行っている。

保護者対象の研修会の中でも、特にキャリア教育に力を入れている。

取組の詳細

○他の機関との連携

本県の産官学が連携した「大学・地域共創プラットフォーム香川」と連携した事業を展開している。「保護者のためのキャリアデザイン研修」と題して、キャリアガイダンス講演会を実施し、保護者の意識啓発に努めている。また、若者の地元定着を促進するため、企業信用調査会社職員の講演会や、県内すべての大学・短大の合同進学説明会・個別相談会などを実施しており、多くの保護者の参加を得ている。

さらには、県中小企業団体中央会や、県が運営する「ワークサポートかがわ（就職・移住支援センター）」とも連携し、生徒、学生及び保護者に対し県内企業現地研修会や個別相談会などのイベントへの積極的な参加を促すことで、若者の県内就職の推進に寄与している。



○充実した上級学校等訪問研修

県内高等学校・特別支援学校のPTA会員を対象とした「県外大学・専門学校訪問研修」を行っている。京阪神方面の大学・専門学校4～5校を訪問しており、この研修は、コロナ禍を除き毎年実施し、令和7年は、30回目の実施となる。目的意識を持った研修とするため、参加者には事前に大学に関する資料を配布し、事後に研修内容に関するアンケートに答えてもらっている。加えて令和5年度からは高P連全国大会や中四国大会参加者に対して、大学訪問研修を併せて行程に入れている。



○広報活動

キャリアデザイン研修会や大学訪問研修教育に関する事業の研修成果について、本連合会の機関誌である「高P連だより」に記事を掲載し、県内すべての保護者にご覧いただいている。また、同機関誌に、毎号2校ずつ県内大学・短大の学校案内やキャリアガイダンス記事を掲載している。

成果

- キャリアデザイン研修については、毎回100～200名ほどの保護者が参加し、参加者の満足度は高く、キャリアデザイン力の育成に大いに役立っている。
- 県の施策である、若者の地元定着や、県内企業の活性化に寄与している。
- 上級学校訪問研修については、県内ほとんどの高校から複数名のPTA会員が参加し、保護者同士の情報交換や親睦など毎回充実したものとなっている。
- 各種研修の成果を「高P連だより」や各高校の広報誌を通してすべての保護者に情報提供することで、親子で情報を共有するなど生徒の進路選択に一役買っている。

課題や今後に向けて

- 取組概要Iについて、大学等との連携は密になっているが、予算面等、様々な機関とのさらなる連携が必要。
- 上級学校訪問については訪問先がマンネリ化しないよう、毎年テーマを決めて実施する予定。
- 今後、いくつかの事業を、県PTA連絡協議会（小中学校の保護者が加盟）と連携して実施する予定。

推薦教育委員会名：(香川県教育委員会)



ふるさと連携、そして、ふるさと協働

キーワード

地域連携／地域貢献／職場体験学習

取組概要

地域と共にある学校づくりを進めることをねらいとし、地域人材の掘り起こと活用により、学校支援体制を構築し、教育活動の質の向上を図っている。卒業生や公民館、地域の事業所等と連携を図り、母校や地元への愛着や誇り、進路への希望を持たせるとともに、ふるさとのために働く人の思いに触れさせたり、ふるさとのために働くやりがいを体感させたりする活動を通して、生徒一人一人の健全なキャリア形成につながる教育を推進している。

取組の詳細

- 令和元年度から「先輩塾」を継続的に実施し、多方面で活躍している土居中学校の卒業生に、中学校時代の経験や現在の職業等について語ってもらうことにより、母校への愛着や誇り、進路への夢や希望を持たせている。
- 令和4年度に2、3年生が関川公民館主催の「関川ソーシャルビジネスプラン」に参加し、地域貢献に向けて、中学生自らがふるさとの課題について考え、若者や高齢者がより住みよい豊かな地域にするためのビジネスモデルのプレゼンテーションを行った。令和5年度以降も、総合的な学習の時間等において地域課題に目を向けた学習に取り組んでいる。
- 第1学年では、「働く人に学ぶ講座」を継続的に実施し、地域の様々な事業所の方々から、仕事のやりがいやふるさとの活性化についての話を聞くなど、働くということや生き方、進路選択について考える機会を設定している。
- 第2学年では、地元企業に協力を要請し、5日間の「職場体験学習（えひめジョブチャレンジU-15事業）」に取り組むほか、林業組合や建設業の事業所の方々に協力いただき、地元に根差す産業への理解を深める活動を行うなど、地域と連携した取組を実施している。



基礎情報

全校生徒数：337名

教育目標：土居中魂～共生・共学・共働 そして自立～

学校の教育目標の中に「共生・共学・協働 そして自立」を設定するとともに、グランドデザインにも「土居中魂」の「伝播」として地域との連携、協働を位置付け、キャリア教育を学校教育の重要な柱として取り組んでいる。

成果

- 活動を通して、生徒はそれぞれの立場から、未来への展望を見だし、母校への愛着や誇り、進路への夢や希望を持つことができてている。
- 地域人材の掘り起こと活用により、地域とともにある学校づくりを進めることができている。
- 学校と地域との信頼関係や連携を強化することで、生徒一人一人の、主体的に未来を切り拓き、社会に貢献できる職業人として自立するための力の育成につながっている。
- ホームページ等で積極的に情報発信することで、地域や保護者の理解や協力を得ることができている。

課題や今後に向けて

- 「先輩塾」を今後も継続的に実施するために、各方面で活躍しているOBの人材バンク等を整備し、生徒との交流が図れるよう工夫していきたい。
- 充実した活動の実施のために、地元事業所の協力を拡大していきたい。
- 地元の自然や農産物等を生かした起業について考えさせたい。



地域と連携したキャリア教育の取組

キーワード

地域連携、多世代交流、実践的・体験的活動

取組概要

- 保育施設や小学校、高齢者施設等に多世代交流を実施。
- 関連機関と連携し、合同企業説明会やインターンシップを実施。
- 生徒が地域のイベントや模擬店舗を出店。
- 地元の企業等の調査研究や商品開発に取り組み、文化祭で発表。
- 講師を招き、地域課題解決や会社経営、マナーに関する講演会を開催。

取組の詳細

- 9月20日、1年生121名が市内の保育所、小学校、高齢者施設の15カ所でレクリエーションを実施した。
- 9月25日、2年生186名が体育館にて、南予地方局と連携し、企業説明会を実施した。
- 11月3日、文化祭にて、商業科107名が模擬店舗を出店し、開発したパンやマーマレード等の商品販売や、地域産業や愛媛の優れた企業等の研究発表を行った。
- 2月13日、商業科1年37名がホームルーム教室に講師を招き、地域課題解決に関する講義を受講した。
- 5月21日、商業科3年35名が、愛媛銀行など19事業所にてインターンシップを実施した。
- 7月4日、商業科3年35名が、ジョブカフェ愛workの協力の下、ビジネスマナー教室を受講した。



基礎情報

創立125年を迎えた普通科4クラス、商業科1クラスの文武両道を目指す総合高校であり、地域や企業と連携した実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に行動する生徒の育成を目指している。地域からは、将来の地域社会を担う有為な人材輩出を期待されている。

成果

- 高齢者施設や保育所等での多世代交流を通して、コミュニケーション力が高まるなど、社会性が向上した。
- 企業説明会やインターンシップを通して、職業や自己の理解を深めることができた。また、就業意識や職業選択能力が高まった。
- 地域や企業と連携した実践的活動により、社会的自立や目標の明確化が図られ、生徒が主体的に進路実現に取り組もうとする姿勢が醸成されている。

課題や今後に向けて

- 来年度からの学校統合に向けて、インターンシップの在り方や協力企業の確保が課題となる。
- 働き方改革が進められる中、より一層効率的な取組や効果的な運営の研究が望まれる。
- 3年間を見据えた系統だった計画に基づき、発達段階に合わせたキャリア教育を引き続き充実させていきたい。



ふるさとの魅力を子どもたちが発信する主体的な学習

キーワード

ふるさとキャリア教育

取組概要

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとの課題を発見・解決するなどの役に立つ生き方ができる児童生徒、また、名前で呼び合える人間関係を構築できるような、コミュニティの一員としての自覚を持った児童生徒を育成する「ふるさとキャリア推進事業」に取り組んでいる。

基礎情報

団体の特徴（教育委員会）

美しい自然を活かした体験や特産品が人気の町である。教育振興基本計画の柱を「子どもの成長に地域総がかりで積極的に関わり、ふるさと貢献意識を育てること」としている。基本目標の一つには「たくましく未来を生きる子どもたちの育成」の取組として、キャリア教育の視点を持った学習や体験を発達段階に即して実施する等、ふるさとキャリア教育に力を入れている。

取組の詳細

○カツオマイスター育成プログラム

中学3年生の希望者を対象に、タタキづくりの技術習得を目的とした、ふるさとの特産品である「カツオの藁焼きたたき」育成プログラムを実施している。

地元の漁師等の協力により、カツオの捌き方から藁焼きまでの技術を2、3か月で取得、藁焼きたたきを調理し披露している。

地域活動の場で、自ら考え、主体的に判断する行動ができる人材が育成されているとともに、年間5名以上のマイスターが、受講後も様々な場面でカツオ文化を発信することで、文化の継承にもつながっている。



○サーフィン教室

小中学生を対象に、地域のサーファーの協力によりサーフィン教室を開催している。サーフィンを体験することでふるさとの美しい海の魅力を実感し、サーフィン活動後にゴミ拾いを行うことで、海の保全活動の重要性や、そのために自分にできることを考える探究的な学習につながっている。

○若山楮和紙づくり

小学生を対象に、北部地区の伝統資源である「若山楮」和紙の歴史を学習したり栽培者の思いや願いを聞いたりした後、楮の世話や観察、蒸し剥ぎ、さらに卒業証書づくりを行う体験学習を行っている。「若山楮」和紙について理解するとともに魅力を見出し、学習したことをまとめて発表することで伝統文化の継承につながっている。

成果

○令和7年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の肯定的な回答は小学生79.6%、中学生94.2%と高く、その中でも強肯定的回答は小中学生ともに全国を大幅に上回っている。

○地域の自然や伝統文化、自然を生かした産業を体験することで、ふるさとの伝統産業を誇りに思う心を育むとともに、ふるさとを愛する気持ちを培うことができている。加えてふるさとの魅力を子どもたちが主体的に発信することで、自分の人生を自分で切り拓き（自己実現）、一人一人がよりよく生きる（自己実現）、地域社会をより良く変容させられる人材（地域人材）の育成につながっている。

課題や今後に向けて

○全国学力・学習状況調査の児童生徒質問「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な回答が減少傾向にあるため、取組を通して、児童生徒が様々な役割を果たしながら、なりたい自分についてより考えていくような内容へと発展させていく。

○取組継続のためには、学校・地域が引き続き連携するとともに、予算を確保していく必要がある。

推薦教育委員会名：(高知県教育委員会)



探究と連携で地域課題を解決する、次世代育成プロジェクト

キーワード

地域課題解決／学科横断／探究的な学び／産学官連携／地域貢献活動

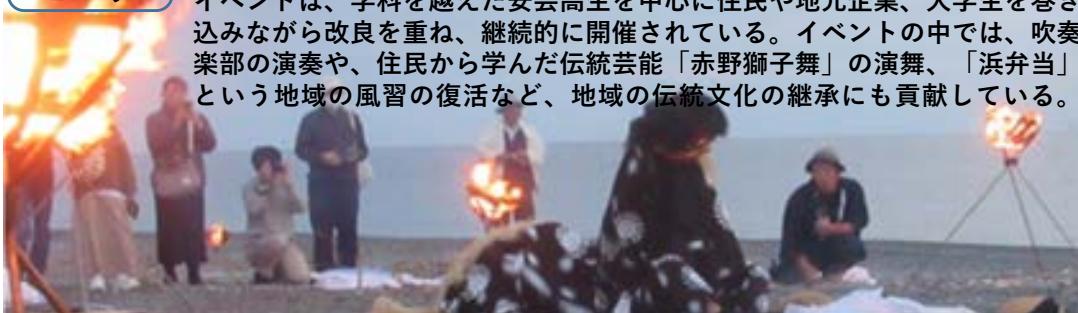
取組概要

人口減少と高齢化、高規格道路整備による人の流れの変化が引き起こす地域課題に「総合的な探究の時間」で向き合い、安芸市をフィールドとした探究活動に組織的・系統的に取り組んでいる。特に2年生は、1年次に立てた仮説を検証すべく、具体的なアクションにつなげている。ビジネス科を中心とする部活動「地域創生部」が商業のノウハウを他学科に提供したり、機械土木科が製作指導をしたりするなど、3学科が横断的に連携して好循環を生む仕組みが構築され、生徒の自発的な活動を促している。また、自治体や地元企業、商店街、大学との継続的な連携のもとで、生徒はチャレンジ精神と向上心を養い、将来、地域を牽引するリーダーとなる人材育成を強力に推進している。

取組の詳細

かがり ビーチ

地域課題解決の一環として、生徒が実行委員会を立ち上げ、安芸の浜の魅力を伝えるため、「かがり火」を焚くイベントを企画・運営している。このイベントは、学科を越えた安芸高生を中心に住民や地元企業、大学生を巻き込みながら改良を重ね、継続的に開催されている。イベントの中では、吹奏楽部の演奏や、住民から学んだ伝統芸能「赤野獅子舞」の演舞、「浜弁当」という地域の風習の復活など、地域の伝統文化の継承にも貢献している。



校内でボランティアを募り、開催に向け有志で浜を清掃。

普通科の生徒が工業科の教員から指導を受け、トーチを作製。

【生徒の声にみる学びの深さ】「イベントは自分たちだけでは完成しない。溶接を教えてくれた他科の先生方、木材を提供してくれた方々のおかげ」と、生徒たちは協働の重要性を語っている。さらに、「相手を信頼し、任せることが互いの成長につながる」と、他者との連携から得た学びを強調。うまくいかなかかった悔しさも経験しつつ、リーダーとして必要な資質・能力を着実に身につけている。

基礎情報

令和5年度に高知県立安芸中・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校を統合した新たな併設型中高一貫教育校。高校に普通科、機械土木科、ビジネス科の3学科を設置。6年間の一貫教育と3学科の連携を活かし、約290名の高校生が安芸市をフィールドに探究的な学びや地域貢献活動に取り組む。産学官と連携することで、生徒の地元への理解や誇りを育み、地域を担うリーダーとなる人材を育成するキャリア教育を展開している。

成果

【主体性】

- 「失敗してもよいという安心・安全な雰囲気がある」7.3P↑ (94.0%)
- 「自分という存在を大切に思える」8.9P↑ (84.5%)

【社会性】

- 「将来、国や地域の担い手として積極的に政策決定に関わりたい」9.4P↑ (45.9%)
 - 「この地域を将来暮らす場所としておすすめできる」9.0P↑ (56.4%)
- ⇒挑戦できる学習環境が自己肯定感を育み、地域課題に積極的に関わろうとする意識を芽生えさせ、地元への愛着や社会性の向上につながっている。

課題や今後に向けて

- 中学校との接続を一層強化し、中高6年間の学びを見通した育成すべき資質・能力を明確化する。
- 全教職員がPDCAサイクルを共有し、目標や取組の継続的な見直しを行う組織体制を構築する。
- DXハイスクールの取組を活かし、地域から地球規模の課題まで視野を広げる探究的な学びと、学科横断的なSTEAM教育を推進する。



「郷土を愛し 自分で考え 自ら行動する子ども」を育む小中一貫ふるさとカリキュラム

キーワード

小・中一貫教育／小中9年間を貫く「ふるさとカリキュラム」／地域とともにある学校づくり

取組概要

- 小中9年間を貫く学習計画「ふるさとカリキュラム」と地域・学校・家庭が協働した学習環境づくりを基盤に、小学校・中学校・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、協働して豊かな学びの場を創造している。
- 小中9年間の発達段階に応じ、前期（小1～小4）中期（小5～中1）後期（中2～中3）の3区分の節目を設け教育計画を工夫している。
- 地域との関わりによる体験を通して自らの役割や価値を見いだすことで、前期「地域を知る」、中期「地域に関わる」、後期「地域に貢献する」というめざす子どもの姿を育む特徴的な取組を行っている。
- 学園運営協議会に3つの支援部会を組織し、各部会が役割を果たすことで取組の効率化を図っている。

取組の詳細

○小中9年間を貫く「ふるさとカリキュラム」…縦のつながり

生活科・総合的な学習の時間を「地域」「キャリア」「人権」のテーマ別に体系化し系統づけた「ふるさとカリキュラム」に基づき、地域のひと・自然環境・歴史性の豊かさを活かした体験活動・貢献活動を効果的に取り入れることで、系統的なキャリア教育を実現することができている。

○小・中合同学園運営協議会…横のつながり

小中学校合同で学園運営協議会を組織し、「小中サポーター支援部」「くろつちの学び支援部」「地域貢献支援部」に別れ、地域資源を活用した教育活動を行っている。

○地域を生かした体験活動・貢献活動（協働のまちづくり協議会との連携体制を整備）

・前期【1～4年生】（規範意識・感動する心を育む）

小学2・3年生が地域の商店や史跡、産業に触れ、地域の魅力や地域の歴史について学ぶ。

・中期【5～7年生】（地域愛・集団としての自覚・責任を育む）

校区盛り上げ隊として地域行事や学校行事に参加することで、地域との関わりを深める。

・後期【8・9年生】（社会の一員としての自立・公徳心を育む）

地域事業所で職場体験学習を実施し、地域の方や小学生を招き、報告会を実施することで地域貢献につなげる。

・立石校区ウォークラリー（青少年育成部との連携）

小学生・中学生・地域の方々が縦割りグループをつくり、校区の史跡や名所を巡り、郷土愛を深める。



基礎情報

団体の特徴（学校）

立石小学校

（学級数：11学級 児童数：149名）

立石中学校

（学級数：5学級 生徒数：60名）

令和6年度より小・中一貫教育校（みどりの森くろつち学園）として開校。

成果

○知識及び技能、思考力・判断力・表現力等の確かな学力の定着

○「自己肯定感」、「郷土愛」等の非認知能力の向上

課題や今後に向けて

○持続可能な地域行事への主体的な参画体制づくりを進める。

○「ふるさとカリキュラム」を生徒を含めた学園運営協議会で熟議を行い、郷土愛や主体性育成に資するよう評価・改善していく。

推薦教育委員会名：(福岡県教育委員会)



地域や社会とのつながりの中で、生徒が自らのキャリアを描くことのできる教育実践

キーワード

地域連携／協働活動／自己決定／起業体験活動

取組概要

①地元企業や自治体、大学等から講師を招いた「近未来ガイダンス」、②地域の職業人と生徒が直接校内で面談を行う「My Mentor」、③地域の課題に対して生徒が主体的にアクションを起こすプロジェクト型学習を実施する「田川探究」、④生徒の“やってみたい”を教員が支援する部活動「チャレンジクラブ」等のキャリア教育を通して、生徒が“自分らしく生きるとは何か”を地域とともに考え、実践していくプロセス。

取組の詳細

①「近未来ガイダンス」

自らの職業と環境を結び付けて活躍している方や地域振興に尽力している方、長年にわたり特定分野を極めてきた方等を講師として招き、“職業の先にある在り方・生き方”を探る。



②「My Mentor」

多様な職業人を「Mentor」とし、写真付きプロフィールを校内に掲示。生徒は希望する方と面談し、直接教示を受ける。

③「田川探究」

市役所職員や企業の方、地域団体職員や大学生等との連携を図りながら地域に根差したプロジェクトを展開。（例：商店街活性化「ごとうじ祭」の企画・運営、駅のバリアフリー化の提言と体験会実施、校舎活用による「子どもの遊び場イベント」の開催等）

④「チャレンジクラブ」

元不登校だった本校生徒が、地域の小中学校での不登校支援活動を展開。また、地域イベントへの参画を通じて文化や人とのつながりの実感やボランティア活動での“人の役に立つ”体験を蓄積。

基礎情報

本校は旧産炭地である福岡県筑豊地区（田川市）に唯一ある多部制からなる定時制単位制の普通科高校で、生徒数は令和7年5月1日現在で326人です。地区内外から不登校経験のある生徒をはじめ人間関係構築に課題を抱える生徒や車椅子が必要な生徒等、多様な生徒が在籍しており、安心・安全な学びの環境を醸成し、地域と連携したキャリア教育を通して一人一人の進路実現を図ることをスクール・ミッションとして掲げています。

成果

①「近未来ガイダンス」職業選択にとどまらず“どんな人生を歩みたいか”を考える生徒が増え、将来への希望を見出す契機となっています。

②「My Mentor」社会には様々な生き方や働き方があることを実感し、自分の興味や関心を深める良い機会となっています。

③「田川探究」人前に立つのが苦手だった生徒が、地域等との連携を通して発信力や行動力を育み、大学での学びや将来像について具現化していく姿が見られます。（最終発表会での来場者満足度：5段階中5の割合82.4%、生徒の成長実感：5段階中4・5の割合52.3%）

④「チャレンジクラブ」地元への愛着や地域貢献の意識、地域参画への主体性が養われています。

課題や今後に向けて

「田川探究」（生徒の成長実感：5段階中1・2・3の割合47.7%）
→個別最適化された探究活動の設定と生徒一人一人の成長段階に応じたステップごとの目標設定を行う。

→生徒のキャリア発達に係るアンケート結果や生徒の感情知性・非認知能力を可視化し、個別の生徒支援につなぐ。

「チャレンジクラブ」

→生徒が小中学校を中心に様々な場に出向き、本校の魅力や特徴などを伝える「西高スクール大使」を始動している。



家庭・地域・企業等と連携したキャリア教育の充実を目指して

キーワード

「出番」「役割」「承認」/佐賀市条例「佐賀市未来を託す子どもを育むための大人の役割に関する条例」

取組概要

○本校では、生徒のキャリア発達を促すため各種教育活動において、大人による「出番」の設定→生徒が「役割」を主体的に選択→（大人による指導・支援）→他者及び自身の「承認」のスパイラルを実施している。上記キャリア発達のスパイラルは、教育の今日的取組（「well-being」、「アントレプレナーシップ」等）のためにも欠かせない。全ての教育活動は、生徒の自主的・主体的に取り組みたいという「思い」「実感」が何より大切であり、将来の社会的自立への原動力となる。

1. 佐賀市条例「佐賀市未来を託す子どもを育むための大人の役割に関する条例」と連動して「出番」の充実と「役割」の自己決定の推進
2. 職場体験学習の実施
3. 「役割」を果たす特別活動を軸とした「実行委員会」方式による教育活動の実施

取組の詳細

1 佐賀市条例と連動して「出番」の充実と「役割」の自己決定の推進

佐賀市では平成20年4月1日で「佐賀市未来を託す子どもを育むための大人の役割に関する条例」（いわゆる「まなざし運動条例」）が施行され、「家庭」「地域」「企業等」「学校等」を子どもを育む4つの場に位置づけ、それぞれ大人の役割（家庭の役割：子ども一人前の大人に育てる、地域の役割：子どもに地域の一員としての自觉を促す、企業等の役割：子どもの勤労観・職業観を育む、学校等の役割：子どもに生き力を身に付けさせるとともに学ぶ喜びを育む）を定めている。この市民運動と上記スパイラルを連動させて本校ではキャリア教育に取り組んでいる。

(1) [家庭]

・大学授業体験プロジェクト…市内8中学校のPTAが連携して大学の授業を受ける取組。本校保護者が、我が子が貢献度で大学生の学びに触れる機会が少ないことを憂い、他校PTAが先行実施していた同企画に本校生徒を参加させたいと思ったことが始まり。令和6年度の高等教育機関への進学率を考えると、WEB上だけでなく実体験しての高等教育機関の学びを知ることは、キャリア発達上重要な体験となる。

・保護者から校区内の職場体験先紹介により、諸問題で一時中断していた職場体験を再開できた。以降、校区内を中心に職場体験先の更新に協力を得ている。

(2) [地域]

・学校運営協議会、まちづくり協議会、自治会、公民館…地域団体に職場体験先の紹介を依頼し、受け入れ企業が増えた。その9割以上が、校区内企業である。以降、職場体験先の更新に協力を得ている。また、地域行事で、中学生の演奏やアナウンス、中学生が美術教室の講師役を務めるなど「出番」を設定してもらっている。

(3) [企業等]

・グローバル人材教育（コンビニエンス業界）…佐賀県教委グローバル人材育成のため講師派遣事業を活用。将来何にないかの力を考えるきっかけを提案してもらい、「社会に出る前に、自分の特徴、強みを活かすことを考える。その後、今後補うべき弱点も見つかる。」「挨拶、お辞儀、笑顔について、実際に店舗で行っている研修体験」を実施。

・金融消費者「ライフサイクルゲームⅢ」（生命保険会社）…人生におけるお金の大ささや将来に備えることの重要性を学び、家庭や社会生活における消費や経済、金融、貯蓄、労働などの活用や働きについて基礎知識を身に付けるために、ゲーム形式のワークに取り組むアントレプレナーシップの学習でもある。

(4) [学校等]

・米国大学生が開発したプログラムの体験…将来に繋がるような内発的な興味を探すサポートプログラムを大学生が開発しており、①講演（海外大学での学び紹介、中学生からの海外進学に必要な準備、将来の選択肢を広げるきっかけ）、②探究ワークショップ（自己分析ワーク→キャリアへのつながり発見→探究テーマを考える→最初の一歩を実行）を実施。

・佐賀市ごどもミーティング参画…佐賀市は、こどもの権利を守りこどもが幸せに暮らす社会をめざした計画を策定している。同計画で重視しているのは、「こどもにとって最善は何か」を、こどもの立場でいつに考えて市全体で支えていくこと、そのため中学生へアンケートを実施したりこどもミーティングを開催したりしている。本校からも代表者がミーティングに参加し、校内で話し合った意見をミーティングの中で発表し、計画策定に寄与する形でアントレプレナーシップを学んでいる。なお、ミーティングの結果は、参加者の代表者で校長さんへ報告をしている。

2 職場体験学習の実施

・課題題で一時中断していた職場体験学習を、上記保護者から地域の協力を得て再開した。まさに運動の定着に伴い、職場体験先を安定して確保できるようになっている。

・職場体験学習は、「職場の体験学習を目指すのではなく、キャリア発達を促すための「子どもの勤労観・職業観を育む（まなざし運動の企業等の担当役割）」ことを目的として実施している。生徒の希望に沿った体験先が見つからないといった迷走しないように、目的に常に明確化した取組を心がけている。

・生徒の学びにおいて、單元の最初に「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の問い合わせをして、立てた問い合わせの解決と学びの振り返りを行うことを重視している。

3 「役割」を果たす特別活動を軸とした「実行委員会」方式による教育活動の実施

本校では、「生徒自身の『なりたい自分になる』という『思い』『実感』を育む」ために「幅広い体験活動」を、教員主導ではなく生徒の「実行委員会」方式で実施している。大人は、子ども（生徒）が活動に主体的に取り組む環境を整え、活動を通して得た知識・経験の発揮を上記スパイラルで取り組み、キャリア発達を促している。

・いじめゼロ宣言改定の取組…平成19年3月に佐賀市18中学校の生徒会役員が集まり、「いじめゼロ宣言」を策定した。これを受け、平成26年度に本校でも「いじめゼロ宣言改定の取組」を策定して実施している。令和6年度に佐賀市生徒会役員リーダー研修会に参加した生徒会長・副会長が説明された内容に触発され、以下の2観点で3ヶ月かけて全校で協議し作業を行った。

・先輩たちから受け継ぐこと…ひとりひとりの「いのち」を大切にし、自分の夢に向かって精一杯「生きる」。

・私たちが新たに決意すること…気持ちをひとつに、思いをひとつに「回結」しよう。

3月の生徒会集会で集約した意見を全校に語り、承認を受け、新年度から新入生オリエンテーションや生徒会集会で運用を開始している。

※ 1～3の取組では、イギリス発祥のことわざ「You can lead a horse to water but you can't make it drink.」（馬を水辺に連れて行けても、水を飲まずることはできない）のとおり、キャリア教育を通して生徒が主体的に取り組みたいといいう「思い」「実感」を得ることを大切にしている。



基礎情報

生徒数187人 干拓地ではない本校校区は、古くからの文化遺産やエヒメヤメ等の絶滅危惧種を有する。従前から豊かな自然環境や社会環境を生み、自分の地域に誇りを持つ人材育成を行っており、地域住民の教育に対する关心は高く、伝統を守りつつより良いものを求める熱意に満ちている。

平成16年度から「元気あふれる学校」づくりを学校教育目標に掲げ22年目を迎える。平成19年度から校区内2小学校と雄飛学園教育（校区型小中連携教育）に取り組み19年目を迎える。令和5年度に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとして地域と共に学校づくり3年目を迎える。

平成11年度以降教育課程にキャリア教育を位置づけ研究を深めてきた。特に平成17年度に「進路指導（キャリア教育）計画」を策定し、その計画を継承・発展させて今に至っている。

成果

左記1～3の取組の結果、日々の活動を自主的に取り組みたいといいう「思い」「実感」が生徒に育まれ、「今日も良い一日だった。明日も頑張ろう。（well-being）」といった日々の生活で自分のキャリア発達を「実感」するようになった。以下に生徒の変容を具体的に示す。

・令和7年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で、肯定的回答をした生徒数の割合74.2%（全国（公立）比+6.7P。本校R6年度比+7.0P、R5年度比+3.0P、R4年度比+5.9P）。

・上記質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的回答82.2%（全国比+6.9P。本校R6年度比+11.9P、R5年度比+15.5P）。

・上記質問紙「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」2時間以上と回答45.1%（全国比+14.3P。本校R6年度比+21.7P、R5年度比+26.9P、R4年度比+8.4P）。

・きめ細かなキャリア教育を行い、その中で開発的な取組を積極的に行つたことで、生徒のキャリア発達を促進できている。

・本校の学校内外の教育活動により、生徒がキャリア教育の意義を自覚し、自身のキャリア発達に役立てている。

課題や今後に向けて

・生徒数の減少により、校内での多様な交流や切磋琢磨の場が少くなり、知的好奇心を喚起する機会が減少している。

・地理的条件により、仮想空間では補えない実感としての他者のキャリア発達に触れにくい。

以上のことから、地域外の人材や多様な職業人とながる仕組みをより一層取り入れ、校内だけでは得られない学びを補っていきたい。また、生徒のキャリア発達を適切に指導できる教職員の資質・能力の向上に取り組んでいきたい。

推薦教育委員会名：(佐賀県教育委員会)



1 2年間を通して児童生徒のキャリア発達を促す教育活動の実践及び進路指導の充実

キーワード

小中高1 2年間／希望進路100%実現／教職員の他学部研修／福祉事業所や関係機関等との連携／新規企業開拓

取組概要

2013年からキャリア教育を学校教育目標の中心に据え、教育課程等の改善と職員育成の仕組みづくりを継続的に行ってきました。小中高1 2年間の学びのつながりを意識した学校運営を行い、児童生徒の個性や能力を伸ばし、自ら地域社会に参加・貢献する人間を育てている。そのため教職員の他学部研修や全職員での新規企業開拓等を行い、教育内容及び指導・支援の充実を図っている。

基礎情報

佐賀県南西部にある知的障害・肢体不自由教育併置校。本年度の児童生徒数は202名である。「キャリア教育」を学校教育目標の中心に据え、小中高1 2年間をかけてキャリア発達を促す教育活動を実践している。高等部では1年次からコース制をとり、将来の進路に応じたきめ細かな指導・支援を実施し、希望進路を100%実現している。

取組の詳細

●キャリア教育推進のための教育課程の改善や職員研修、地域連携

・1 2年間を見通した指導・支援内容の充実と改善

指導・支援の基本「うれしの特支スタンダード」を全職員で実践しながら、1 2年間で必要な能力を育むための教育課程の研究と改善を行っている。

・うれ特就労フォーラム（生徒、保護者、事業所等）

就業・施設体験の報告会や喫茶サービス・ビルクリーニング等の実演を実施、学校や生徒の取組を発信して障害者雇用への理解啓発を図る。また、企業側による実践発表を行い、職員や保護者が企業の状況や実情を知り、進路支援に生かしている。



・教職員の他学部研修（小中高全職員対象）

教職員が、他学部において実際に児童生徒への指導・支援を体験することにより、所属学部の指導・支援の内容や手立てについて理解を深める。研修をとおして得られた知見や気付きを所属学部の指導・支援の内容や手立ての充実につなげる。

・新規企業開拓研修（小中高全職員）

児童生徒数の増加や進路希望の多様化を踏まえ、ニーズに応じた職業教育や進路指導を行うため、数多くの就業・施設体験先を確保する。



・企業現場における実習（学校設定教科 県就労支援協働推進事業）

地元企業の協力のもと、高等部生徒が農業・介護・宿泊業等の企業現場で年間を通して働く経験をしている。

成果

●学部の垣根を超えて、全職員で児童生徒の1 2年間のキャリア発達を意識した授業や単元計画の見直し、改善を行うようになった。

●福祉事業所合同ガイダンス：保護者・福祉関係担当者等 約100名参加

・生徒、保護者にとって、色々な進路を考えるきっかけとなり、卒業後の選択肢が広がる。

・事業所と学校との連携が進み、互いに有益な組織運営が可能となってきている。

●うれ特就労フォーラム：生徒・保護者・事業所等 約100名参加

●新規企業開拓研修

・新転任教職員等企業体験研修（県）と併せて実施、昨年度は約30企業を訪問。

・就業体験先として受け入れを開始したのちに、雇用へ繋がったケースもある。

●県就労支援協働推進事業（今年で13年継続実施）による地域資源・人材活用

・外部講師（ジョブティーチャー）年間30回来校、現場実習、連絡会議の開催など

課題や今後に向けて

特別支援学校に転入学する児童生徒の中に不登校の子どもも増えており、卒業後の地域での生活を考えると、早期から小中学校や自治体、福祉・医療等関係機関との繋がりがこれまで以上に重要となる。

また、福祉や就労の仕組みや制度は時代とともに大きく変化している。改定に合わせて、学校としても迅速に対応していく必要がある。



地域のサポーターと連携した、自立と社会参加にむけた取組

キーワード

社会的自立/地域連携/体験的学習/地域企業との協働・連携/職業教育

取組概要

児童生徒の進路選択や自己実現のために、将来の社会生活を見据え、地域とつながること、児童生徒の挑戦を応援してくれる企業との協働・連携による学習活動や職業教育を取り組んでいる。

- ①「知る」「見る」「選ぶ」、そして「決める」を支える。
- ②地域企業との連携・協働による職業教育。
- ③地域とのつながりを感じる体験的学習。

基礎情報

全校児童生徒数 116名、知的障害課程・肢体不自由課程併置。昭和54年開校。自然豊かで広大な敷地を有する。校訓を「明るく・素直に・元気よく・たくましく」とし、児童生徒がのびのびと学校生活を送っている。学校教育目標「将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。」のもと、小・中・高の12年間を通して、それぞれの年齢にふさわしい学校生活や校内外における様々な経験を積み重ね、自らの役割を果たしていくことができるようとする。

取組の詳細

①「知る」「見る」「選ぶ」、そして「決める」 ～生徒・保護者・教師参加の進路ガイダンス～

・生徒・保護者・教師が企業や事業所の取組について直接聞く機会を作ることで、児童生徒の現在や将来の生活を考え、個に応じた進路支援の充実を図る。また、実際に地域の事業所の様子を見学する場を設け、児童生徒の進路支援に生かしている。



②地域企業との連携・協働による職業教育 ～企業現場実習や企業と連携した校内実習、卒業生の話を聞く会～

・地域の企業と連携し、定期的に企業現場（10企業）にて実習を行い、働くために必要な実践的な力の育成に努めている。また、校内職業実習においても、企業の仕事の一部を担い、協働的な職業教育を取り組んでいる。センター企業として36社の地域企業から様々な面で協力を得ている。

・「卒業生の話を聞く会」では、卒業後の働く生活等について、卒業生自身から話を聞き、進路決定の一助としている。



③地域とのつながりを感じる体験的学習 ～職場社会見学の実施やアビリティックへの参加・挑戦～

・職場社会見学では、連携している地域企業等を見学し、将来の進路先の参考としたり、今後の就業・施設体験先の決定につなげている。
・日頃から学校で学んでいる「清掃」や「喫茶サービス」部門において、更なる技術の向上を目指し、アビリティック大会へ参加・挑戦をしている。



成果

・生徒自身が将来の具体的な生活イメージをもつことで、「やってみよう」という意欲が生まれ、自分で考え行動しようとする風土が育ってきている。

・在学中の多様な経験が進路選択や自己決定を支え、卒業後の円滑な移行が可能になった。

・保護者も説明会や見学会に参加し、実際の就労に関する理解を深めることで、生徒とともに将来像を具体的に描くことができるようになった。その結果、移行におけるミスマッチや早期離職の減少につながっている。

課題や今後に向けて

・今後も、生徒の一人ひとりの希望に応じた多様な進路を実現するため、さらなる企業参画の増加を図っていく。

・生徒自身が、地域とのつながりを大切にするために、地域の人々との交流や活動をとおして、自ら行動する姿勢を育み、社会の一員として自信をもち、生活できるように支援していく。

・同窓会活動を組織的に指揮し、卒業生との継続的なつながりを強化することにより、卒業生の就労状況や定着状況を把握し、進路指導の改善や就労支援体制の充実につなげる。



波佐見焼から始まる持続可能なふるさと教育と地域共創

キーワード

ふるさと教育／地域共創／総合的な学習の時間（探究的な学び）

取組概要

町の基幹産業である窯業。地域の「波佐見焼振興会」と「波佐見町教育委員会との連携・協力のもと、「総合的な学習の時間」における探究的な活動に『やきもの文化体験』事業を位置付け、生徒が地域課題や自己の生き方に目を向けながら、よりよい社会、未来の地域社会の担い手となることを目指している。学校・地域・行政が一体となった取組である。



基礎情報

全校生徒382名。1町1校の中学校である。学校教育目標「豊かな人生を切り拓き、よりよい未来の創り手となる生徒の育成」を目指し教育活動を展開している。波佐見町は長崎県と佐賀県の県境に位置し、窯業（波佐見焼）と農業が主な産業である。400年以上の歴史を持つ波佐見焼に関する学習は、平成12年から実施しており、適切な検証改善を行なながら、継続して取り組んでいる。現在は「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置づけ、組織的・系統的な取組となっている。

取組の詳細

1年生では「地域の魅力の発見と発信」という視点からやきものづくりの工程を体験する。最終的には町内にある国史跡「畠ノ原登り窯」で焼成作業を体験し、波佐見町の窯業の歴史が現在につながっていることを体感し、ふるさとの良さを発見する。

2年生では「地域の産業の理解と発信」という視点で、現在の波佐見町の魅力や課題について調べ、理解する。窯業に限らず、主に波佐見町で仕事をされている方々とのトークセッションを通して、仕事やサステナブルな取組についての意見交換等を行い、生徒自身の職業観を見つめる。

3年生では「地域への貢献と発信」という視点から、町の課題解決（人口減少や産業の活性化など）について探究したことをもとに、改善策や新たな取組を考察し、町長や町役場職員への提言を行う。実現可能な提言については、提案から3か月後に実現させた。

写真上段：畠の原登り窯への窯詰め作業
写真下段：提案が実現したスイーツショップ



成果

波佐見焼の焼成活動は20年以上の歴史があり、当時中学生として学んでいた生徒が、現在は、焼成活動の講師として活動を支えている。長年の取組が着実に継承されている。1町1校という利点を生かし、町教育委員会と地域の波佐見焼振興会が学校の教育課程の実施に積極的に参画することで、活動の幅が広がるだけでなく持続可能な取組にもなっている。生徒が町に提言した取組の実現に向けた支援も迅速で、生徒たちは、自身の提案が実際に形になった際に自己有用感を感じていた。また、今年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が82%となり、未来のふるさと波佐見町の発展に向けた着実な一步となっている。

課題や今後に向けて

3年間を見通した「総合的な学習の時間」を、より探究的な学びとし、体験活動や協働作業を充実させる必要がある。また、職員の入れ替わりがあっても、基本的な学習の流れを、町教育委員会や波佐見焼振興会と協働しながら進めていく体制を維持・発展させていく。さらに、生徒たちの提案や提言を在学中に実現するために、行政はもちろん、その他の町の関係団体や、関係機関との更なる連携の構築に努める。



地域と世界のフィールドで、探究活動を重点に置いたキャリア教育の取組

キーワード

地域 / 世界 / 生活 / 福祉 / 自己効力感

取組概要

- ①地域とつながる「普通科探究活動」
- ②“Think globally, act locally” “Think locally, act globally”を実践する「グローカル探究」
- ③衣・食・住・保育を地域と協働して学ぶ「生活創造コース」
- ④福祉の現場で実践的に身につける「福祉マインド」
- ⑤専門家とつながる全員参加の「ロカロクエスト」

取組の詳細

- ①「普通科探究活動」
 - ・1年生 4月、南島原市役所からの出前講座で地域の課題を知る。
 - ・1・2年生では課題の解決を目指して地域と協働し探究する。
- ②「グローカル探究」
 - ・島原半島ジオパーク協議会と協働し、香港や韓国の学生との交流やオーストラリアの姉妹校訪問を通じて世界的視野をもって探究する。
- ③「生活創造コース」
 - ・保育実習や読み聞かせボランティア、プロ講師を招いての被服や食物実習で地域とつながりながら実践的な学びを行う。
- ④「福祉マインド」
 - ・3年間で 5・2日間の介護実習を実施し、福祉の視点で人々のニーズに対応する人材を育成する。
- ⑤「ロカロクエスト」
 - ・南島原市では体験できない大学や研究施設、事業所等を訪問し、先行研究の調査や専門家へのインタビューを通して、探究活動の内容を深め、継続的な交流を行う。
 - ・「観光甲子園」や「高校生アントレプレナーシップゼミ」等のコンテストに積極的に参加する。



オーストラリア姉妹校訪問



介護実習

基礎情報

- 令和7年度で創立123周年を迎える、長崎県最南端に位置する普通科・福祉科の2学科、生徒数209名の県立高校。
- 普通科はさらに普通コース・グローカルコース・生活創造コースの3コースに分かれれる。
- キャリア教育として探究学習に重点を置き、実社会・地域との交流を推進している。

成果

- 自ら課題と感じる地域課題に取組み探究することで、自己の興味関心に気づき、進路志望が明確になった。その結果、総合型・推薦型選抜を利用した国公立進学者がR4年度1名からR5年度10名、R6年度10名、R7年度12名と増えている。
- それぞれの分野の地域の方々と協働していくことで、地域に対する愛着と責任感が深まった。
- 専門家や海外の学生と交流することで、視野が広がり自己効力感が育まれた。ロカロクエスト後のアンケートでは、「学びがあった」の回答平均は4.67（5段階評価）だった。
- 各コンテスト等に参加し入賞することで、自己効力感が増した。

課題や今後に向けて

【課題】

- 人口減少が進み、教員・生徒数が減少する中で現在の取組の質の維持に工夫が必要。
- 立地の悪さから、交通の利便性に欠け校外活動が難しい。
- 【今後に向けて】
 - ロカロクエストや探究活動で面識ができた専門家の方々と、ICT等も利用して引き続き交流を続けていく。



希望への挑戦～「金探」まだ知らない自分を探す旅～

キーワード

探究型インターンシップ / 産官学連携 / 小中学校との連携 / 陶心

取組概要

- ①「金探」は、金曜日午後の探究の時間の略で、学ぶ場所を学校に限定せず自ら課題を見つけ、自己理解を深める探究活動である。
- ②ハウステンボスとの産学連携により、働く意味を体験的に理解させ、未来を自ら切り開く力を育成している。
- ③地場産業である陶芸教育の精神（陶心）を学校経営の柱に据え、地域と連携し、地域の教育資源を生かした地域連携を行っている。

取組の詳細

①金探

- ・日常の疑問を体験を通して最適解を探り、そこから生じる新たな問い合わせながら、生きる力を育む活動。
- ・毎週総合的な探究の時間で振り返り、レポートを作成し、「キャリア・パスポート」に反映。
- ・例：耕作放棄地の活用、児童対象美術教室、重要文化的景観登録に向けたエンブレム作成、土産品開発



小学生への美術教室

②産学連携

- ・長期有償型インターンシップで社会性、コミュニケーション能力を育み、報告会で自己肯定感を高める。
- ・ワークショップで、協働的問題解決能力を、特別授業では、企画力、コミュニケーション能力、ホスピタリティ、起業家精神などを育む。



ハウステンボスでの
ワークショップ

③地域連携

- ・地元企業と連携した陶芸教育を展開することで郷土愛を深め、地域の未来を担う人材を育成している。
- ・波佐見町とコンソーシアムを組織し、若手を中心とした企画委員会が高校生とともに地域課題に取り組む。
- ・体験型企業説明会、探究発表会などに中学生を招待し中高連携によるキャリア教育を推進。

基礎情報

- 全校生徒数220名。普通科、商業科、美術・工芸科(県内県立高校唯一)の3科を設置。
- H22から、ハウステンボスで長期有償型インターンシップ実施。
- 地元波佐見町からの人的、金銭的支援が厚く、地域に根差し地域から応援される学校。

成果

- ハウステンボス連携事業のアンケートでは、参加前の期待度は50%だったが、参加後の満足度は100%に達した。
- 長期有償型インターンシップへの参加企業は1社から、5社に拡大。
- 生徒の社会性、郷土愛、コミュニケーション能力の向上に成長がみられる。
- 企業評価では、「礼儀」「仕事の遂行」などで90%以上の高評価を得た。
- 金探の導入より職員も金曜の午後を有効活用し、年休取得、研修参加など働き方改革に寄与。
- キャリア教育の充実により、卒業生が就職後も相談に訪れる環境が整っている。

課題や今後に向けて

- 金探の新規開拓
- 生徒が主役になりきれるような教員側のコーチングテクニックの育成
- 各科の壁を越え、協働的な探究活動の研究
- 商業科のカリキュラムを見直し、「経理寄りの学び」から「実学的学び」へ変更
- 探究活動を活かした就職・進学先の開拓



学校と地域をつなぐ「ふるさとファームステイ」

キーワード

地域学校協働活動、体験活動、キャリア教育

取組概要

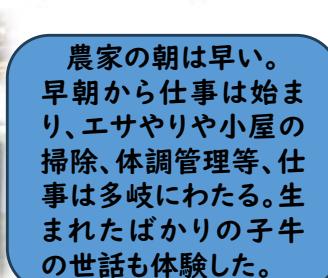
旭志の地で32年間続いている「ふるさとファームステイ」。旭志の自然の中で発展してきた「農業・畜産」に対する理解を深め、地域の基幹産業として捉え直しをするとともに、実際に家畜や農作物と接し、生産の楽しみや苦労を体験的に学ぶ。JA菊池、旭志青年部の協力で、肥育・繁殖・酪農・普通作の農家の方々に2日間受け入れていただいている。

取組の詳細

中学1年生の総合的な学習の時間の一環として「ふるさとファームステイ」を実施。コロナ以前は「ステイ」の名前通り、2日間泊まり込みで体験を行っていた。コロナ後からは日帰りで2日間の体験をしている。



農家の仕事を体験すると共に、受け入れていただいた農家の方々から仕事のやりがいや大変さ、働くとはどういうことか、についても学んでいる。



農家の朝は早い。早朝から仕事は始まり、エサやりや小屋の掃除、体調管理等、仕事は多岐にわたる。生まれたばかりの子牛の世話を体験した。



農業器具を使った作業や肥料やエサの仕入れにも同行させてもらう。知らなかった仕事の一面向に驚くことばかり。

基礎情報

- ・全校生徒数・・・112名
- ・地域・学校の特徴・・・過疎地域に認定され、人口減少が進む地域である。一小一中であり、児童生徒数も少ない。以前より学校と地域の繋がりが深く、地域の方々と共に体験活動を行っている。
- ・キャリア教育への取組・・・教師と生徒がともにキャリア教育の目標「旭志中のチカラ」を作成し、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の推進を行っている。

成果

- ・32年間続く、学校と地域が繋がる継続的な取組である。子どもたちがふるさとを知り、誇りに思う活動となっている。
- ・体験を通して、牛や作物を育していくことの喜びや難しさ、命の大切さ、経営する苦労について体験的に学んでいる。また、農家の方々と知り合い、地域をさらに身近なものとして感じ、自分と地域について考えるきっかけとなっている。貴重なキャリア教育の一つである。

課題や今後に向けて

- ・受け入れ農家さんも毎年楽しみにしてくださっている。今後も継続して実施できるよう、学校と地域がつながるために連携を図っていきたい。
- ・「ふるさとファームステイ」はJA青年部のご協力をいただき実施しているが、近年の後継者不足から、受け入れ農家数が昨年度17から本年度14に減ってきてている。この現実についても生徒たちと考え、地域について自分事としていきたい。



「土君子」すなわち徳・智・体を備えた、世界を舞台に活躍する人材の育成

キーワード

インターンシップ／卒業生との連携／グローバル教育

取組概要

1 インターンシップ【希望者対象】

- ・農業経営セミナー
- ・未来世代への育成支援プログラム「ジュニアインターン」

2 大学訪問研修【希望者対象】

- ・東京大学（本郷キャンパス）訪問研修

3 グローバル教育【希望者対象】

- ・グローバルスタディーズ（GSP）

基礎情報

団体の特徴（学校）

- ・明治33年に開校し、今年度で125年目を迎える。
- ・1学年10クラスの普通科のみで、全校生徒は約1,200人。
- ・**2年まで文理を分けず**、幅広く新たな知見を獲得する学びを行う。
- ・授業第一主義を掲げて、**65分授業**を通して、より発展的で深まりのある学びを行う。
- ・キャリア教育については、卒業生との連携やグローバル教育に力を入れている。

取組の詳細

1 インターンシップ

- ・農業経営セミナー：先進的農家で農業を体験し、経営者の経営理念や人づくり等に触れる。令和7年度は、8月上旬に南阿蘇村のコーヒーフームで実施。



- ・未来世代への育成支援プログラム「ジュニアインターン」：東京海上日動火災保険熊本支店が主催するインターンである。フィールドワークを通して、身近な社会にあるリスクを発見し、その解決策を探求。

2 大学訪問研修

- ・東京大学訪問研修：本校卒業生による本郷キャンパス散策ツアー、研究科の教授等による講義、研究室の見学、夜の時間を利用し、本校を卒業した現役東大生及び本校・東京大学を卒業した社会人との懇談会等を夏季休業中に2泊3日の日程で実施。



3 グローバル教育

- ・グローバルスタディーズ（GSP）：8月に海外大学生を本校に迎え、あるテーマに沿って英語でディスカッションやプレゼンテーションを行う。海外大学生が、高校生5～6人のグループのリーダーを務める。グローバルの意味や今後社会で活躍するための思考法を学ぶ。



成果

- ・取組を通して、生徒たちは自分の適性や具体的な進路について考えることができ、進路実現の一助となっている。
- ・取組を通して、生徒たちは様々な大人と議論する機会を得ることができ、自らの想像力と創造力を豊かにし、物事の本質を探究し続ける資質・能力を養うことができる。
- ・取組を通して、様々な考え方につれて触れることができ、多様性を尊重する社会において、世界を舞台に活躍する人材に必要な素地を養うことができる。

課題や今後に向けて

- ・旅費や宿泊費が高騰する中で、これまで通りの日程で実施できるかどうかは検討課題である。
- ・取組に関する生徒たちの事後アンケート等をもとに、必要な場合は内容を改善することで、さらに取組内容を充実させ、グラデュエーション・ポリシーの実現に寄与する取組とする。



袋小職業体験～おしごと発見塾～

キーワード

職業体験活動

取組概要

PTAが主体的に計画や運営に関わり、学校と協力して実施する「おしごと発見塾」(職業体験学習)を令和5年度より行っている。

本取組を通して、子どもたちは地元水俣を支える様々な職業の体験することで、郷土の産業発展に係る人々の想いや、仕事に対しての熱意などを感じ取り、これからの自分の夢や希望につなげることができている取組である。

基礎情報

8学級 児童数134名

本校区は、熊本県及び水俣市の最南端にあたり、鹿児島県との県境に位置している。PTA会員は、一人一役として各委員会に所属し、PTA活動への積極的参加と活性化を図っている。また、地域住民や近隣の保育園や中学校等と連携し、15年間を見通して子供の育ちを見守り支えている。

取組の詳細

地域における各職種における講師の選定や依頼、体験内容等については、PTAが主体となって関わり、年々その幅が広くなっている。(R5:16事業所、R6:17事業所、R7年度は、更に他業種の開拓も検討)

また、PTAが、地域のネットワークを活用することで、様々な職業の方を招いての実施が可能となっている。

体験する職業については、PTAから全児童に事前アンケートを実施し、希望する職業を把握した上で決定している。なお、児童は、前半・後半の2つの職業体験ができるようにしており、1つは、本人が希望する職業を、もう一つは、別の業種を体験できるように意図的に調整をしている。

開会行事では、各事業所の紹介と合わせて、各職業に対する思いを直接聞く場面を設定しており、地元への職業などの理解の深まりや個々の職業観が広がっている。

また、各事業所は、体験する活動内容を児童に合わせて考慮されており、児童が楽しんで意欲的に活動する姿が見られている。



成果

○児童が実際に体験することで、働くことの意義や楽しさ、厳しさ等の理解へつながり、働くことへの意欲や肯定的な態度が多く見られた。

○各職業を体験することで、自分の個性や適性を把握し、将来の生き方や進路について考えるきっかけとなった。

○全ての学年が参加できることで、年々その体験する業種が増えるため、発達段階に応じた職業観の広がりに期待できるものとなっている。

課題や今後に向けて

○児童数が減少傾向にある中で、PTAの数も減っている状況にある。そのような中に、事業所との交渉や事前の打ち合わせ等、実施までに時間や労力をかけて準備していかなければならない。今後、持続可能な取組していくために、更に、職業種や内容等の改善を重ねていく必要がある。



地域産業を未来につなげよう ~米水津の魅力を伝えたい~

キーワード

職場体験活動／地域連携／地域活性化

取組概要

大分県教育委員会指定 令和5～7年度大分っ子「未来創造プロジェクト」
令和5年度 柑橘類(温州みかん,レモン等)栽培・剪定・摘果・収穫体験
地元農園(小川香料)・みかん農家との交流
令和6年度 水産資源(ひじき,ぶり,干物)収穫・調理体験・新メニュー立案
第43回全国豊かな海づくり大会 真鯛稚魚放流、干物焼き教室

取組の詳細

1 目的 地域の風土や自然・産業を教材とし、探究的・協働的な学習を通して、ふるさと米水津に貢献しようとする態度の育成

2 取組

(1)令和5年度

- ①米水津地域の実情把握
- ②地域の実情に基づく課題設定
- ③学習サポーター(みかん農家)による指導助言
- ④学校みかん園での除草・摘果・収穫体験
- ⑤レモン農園での収穫体験



(2)令和6年度

- ①ひじき収穫及びひじき調理教室
- ②ぶり捌き教室、ぶり養殖場見学
- ③干物作り教室、干物工場見学
- ④干物を用いた新商品開発
- ⑤干物加工業者からの指導助言
- ⑥第43回全国豊かな海づくり大会での真鯛稚魚放流、干物試食



基礎情報

- 生徒数 1年10名、2年6名、3年9名 計25名
- 北中と南中の統合により、平成12年 4月開校
- 地域資源を教材としたキャリア教育の推進
- リアス海岸を利用した柑橘類栽培や水産業が発展
- 過疎化・少子高齢化・人口減少が地域の課題

成果

(1)事後アンケートより

- ①米水津のみかんを後世に繋げたい
- ②もっと多くの人に米水津のことを知ってもらいたい

(2)学校評価アンケートより(生徒肯定的回答の割合)

- | | | |
|-------------------|----------------|------------|
| ①自分は地域に貢献できている | 令和6年1学期末 88.9% | 3学期末 75.0% |
| | 令和7年1学期末 88.9% | |
| ②自分は将来の夢や目標を持っている | 令和6年1学期末 11.0% | 3学期末 37.5% |
| | 令和7年1学期末 44.4% | |

課題や今後に向けて

令和5年度

みかんの販売促進に向けて、無人販売所、道の駅等での展示販売、インターネットでの紹介などを提案

令和6年度

干物に合う調味料セットや米水津の魅力セットを提案



「野津町の魅力再発見で未来を創る」～地域活性化のために持続可能な取組を考え、発信しよう～

キーワード

地域・社会や産業界との連携／地域資源を生かした商品開発やPR活動／振り返りの工夫

取組概要

大分県教育委員会指定 令和5～7年度大分っ子「未来創造プロジェクト」

- 「地域の特産物などの知名度の低さ」や「地域の宝を守り、伝承する方々の減少や高齢化」といった地域の課題解決に向けて、地域・社会や産業界と連携したPR活動や商品開発等の学習を通して、野津町の魅力を再発見し、地域の活性化に向けた持続可能な取組を実施してきた。

取組の詳細

1 取組

(1) 地域・社会や産業界との連携による、商品開発を通じた地域の新たな価値の創造とそのPR

①「吉四六さん村グリーンツーリズム」との連携による、野津町特産物の「ほんまもん農産物」を使ったオリジナル弁当の共同開発と販売



②同じく特産物の「有機緑茶」とさつま芋を使った、オリジナルスイーツ「のっちゃんのおやつ」の共同開発と販売



③牛乳・パンの販売店との連携による、共同開発と販売

④お茶農家との連携による、「有機緑茶」のPR

⑤有機農業推進室との連携による「ほんまもん農産物」PR

(2) 「キャリア・ノート」等を活用した効果的な学習の振り返り

①「協働力」「表現力」「郷土愛」など、学校教育目標を踏まえて設定した資質・能力について振り返らせることで、教育課程全体を通じた学校教育目標の達成とキャリア教育の実践をつなげながら取り組んできた。

②大分県版「キャリア・パスポート」である「キャリア・ノート」を活用して、学びを記録し振り返らせてことで、地域と連携・協働した学習経験を通して自己理解を深めさせ、地域・社会での役割形成を促してきた。



基礎情報

臼杵市野津町は、豊かな自然に囲まれた農村地域である。臼杵市立野津中学校は、全校生徒135名で、今年度創立78年を迎える、地域に根差した歴史ある学校である。

・令和5年度から令和7年度までの3年間、大分県のキャリア教育推進事業である「大分っ子『未来創造プロジェクト』」の実践校として、地域・社会や産業界と連携し、地域の良さを生かした「PR活動、モノづくり、商品開発」といった探求的・協働的な学習の実践に取り組んできた。

成果

(1) R6全国学力学習状況調査より

「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」生徒の割合
県 78.6% 全国 76.1% 本校 83.3%

(2) 2025年度1学期 学校評価アンケート

「野津町が好きだ」と肯定的に評価する全校生徒の割合 90%

(3) 教職員の実感

①学校と連携先が繋がり、地域の課題解決に向けて、連携・協働の輪が広がり、地域活性化の基盤ができつつある。

②生徒は、地域の一員として、地域の課題を自分事として考え、行動する意識が根付いてきている。

課題や今後に向けて

○「大分っ子『未来創造プロジェクト』」が終了する来年度以降も、引き続き地域と学校が連携・協働し、地域活性化のための取組を継続していくことができるよう、環境の整備や体制づくり

○「キャリア・ノート」の、さらなる活用に向けた工夫の推進と、小・中学校、そして高校へと、学びの記録の効果的な引継ぎ



別府西「夢」プロジェクト～学校・保護者・地域で生徒の夢を育む取組～

キーワード

夢／動機づけ／地域人材／学校運営協議会／PTA

取組概要

別府西中学校は、学校の教育目標を「別府を愛し、夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成」とし、「夢」をテーマにしたキャリア教育を行っています。特に、学校・保護者（PTA）・地域と協働し、地域人材を活用した別府西「夢」プロジェクトを系統的に実施しています。

取組の詳細

別府西「夢」プロジェクトは、学校・保護者・地域が協働したキャリア教育の一つです。別府西を考える拡大コア会議（学校運営協議会を中心に広く人材を募集した会）で熟議を行い、別府西「夢」プロジェクトの具体的な取組を決定し実施しました。以下①～⑤が具体的な取組です。

- ①「夢」プロジェクト（14回）：地域の職業人を招き、夢や生き方に触れる授業（教育課程に位置付け）
- ②よりみち「夢」アカデミー（7回）：放課後の多目的ルームへ寄り道。希望生徒が興味ある職業人と出会う場。
- ③「夢」タイム（毎週）水曜午後すぐ下校。「家庭学習強化ディ」とし、帰りの学活で担任が家庭学習の動機づけ後すぐ下校させ自学に取り組む。自己調整学習を促進。令和6年度は試行として月1回、令和7年度は毎週
- ④イベント的な「夢」をテーマにしたキャリア学習
- ・学校舞台に地域とともに「夢」をテーマに即興劇（1回）地域に呼びかけ、地域住民と生徒が一堂に会し、生徒参加の「夢」をテーマにしたロクティムの演劇を実施
- ・生成AIと夢探し（2回）：株式会社キタイ工の協力のもとAIを活用して、自分の興味・適性を探る新しいキャリア学習。
- ⑤多様な学びの会（6回）：教職員・地域・保護者が学び合い、生徒の未来を語る場。

※回数は令和6年度実績（令和7年度進行中）

地域と一体 夢育む

別府西中学校で多様な学びの会が開催されました。会場には多くの生徒たちが集まり、地域の職業人による講演や交流会が行われました。また、有名画家（山下良平氏）と一緒に筆を入れる活動も実施されました。

別府西夢プロジェクトの記事 大分合同新聞 令和7年1月3日

別府西中学校の夢プロジェクト

いろんな経験をして

別府西夢プロジェクトの記事 今日新聞 令和7年2月21日

基礎情報

新設5年目、全校生徒430名の学校です。生徒の心に火をつける動機づけを大切にした教育活動をすすめています。また、地域と連携したボランティア活動・キャリア教育に力を入れている学校です。

成果

- ・実施回数 令和6年度 30回
- ・生徒の興味関心は数字だけでは測れませんが、確かな手応えがありました。アンケートで集計した「興味のある職業ベスト10」をもとに企画したよりみち夢アカデミーでは、希望する生徒が放課後に多目的ルームへ集い、職業人と交流しました。そこで活動は、単なる講話にとどまらず、実際の体験を交えた実践的な学びとなり、生徒にとって強い動機づけとなりました。特に印象的だったのは、写真のように会が終了しても生徒がなかなか会場を離れようとしなかったことです。名残惜しそうに質問を重ねるなど、職業人の方ともっと話したいと願う姿がみられたりしたことは大きな成果だと思います。



有名画家（山下良平氏）と一緒に筆を入れる生徒

課題や今後に向けて

別府西「夢」プロジェクトは、これまで地域の職業人がその仕事のやりがいや生き方を語り、生徒と交流することを中心に行ってきた。しかし今後は、単なる講話にとどまらず、より体験的な活動を取り入れていくことが課題となります。実際に手を動かし、職業人の視点に触れる機会を増やすことで、生徒の興味関心をさらに高め、自らの人生をどう生きるかを考えるきっかけにつなげていく必要があります。

推薦教育委員会名：(大分県教育委員会)

多様な学びのフィールドが育む子どもたちの未来を拓く力

キーワード

伴走と共創 / 社会との接続 / 探究

取組概要

宮崎市教育委員会は、子どもたちが「ふるさと宮崎」に誇りを持ち、自分らしい生き方を地域社会と主体的に結びつけられるよう支援している。教育委員会が学校や教職員、地域と「伴走」し、一体となって子どもたちの学びを支えるコミュニティ・スクールや地域関係団体と連携した独自の体制を整備している。

教職員への伴走と共創：学校や教職員がもつ想いや抱く困り感に寄り添うヒアリングを行い、実態やねらいに応じた授業作りに繋がるよう伴走支援を行う。キャリア教育支援センター的機能を果たす組織として、一体的かつ効果的に推進している。

社会との接続：商工会議所等と連携した会議を開催し、社会の動向やニーズについて教育現場へのフィードバックを行う。「宮崎市キャリア教育協力企業バンク」を整備し様々な授業支援を得ることで、子どもたちが多様なロールモデルと出会う機会を提供している。

探究学習から生まれる実践力：小学校からのキャリア教育を推進し、教職員が行う探究学習の進め方を研究・周知している。教職員自身の探究的学ぶ姿にふれ、子どもたちも主体的に探究する心を育んでいる。

取組の詳細

1. キャリア教育支援センター的機能による伴走サポート

- ・キャリア教育推進アドバイザーの配置
- ・対話重視の伴走支援
- ・共創による授業支援
- ・好事例の紹介



キャリア教育推進アドバイザー

2. 効果的な教育活動につなげるための社会との接続

- ・キャリア教育推進プロジェクト会議の開催
- ・多様な関係各所との連携
- ・社会の動向を教育現場へ
- ・強固なネットワークの構築
- ・キャリア教育協力企業バンクの整備



プロジェクト会議の様子 企業による授業支援

3. 探究を軸とした教職員研修と児童生徒の学びや実践力・社会参画

- ・教職員のロールモデル化
- ・現場の課題解決に寄り添った探究支援
- ・学びの発表機会
- ・社会参画の促進



キャリア教育アワード「みやざき未来発表会」

基礎情報

児童生徒数

小学校46校(児童数 20,973名)※R7.5.1現在

中学校26校(生徒数 9,763名)

令和2年度から令和4年度はキャリア教育推進モデル校指定方式で市内のキャリア教育推進を図っていた。

令和5年度からはキャリア教育推進研究会を発足し、研究会を核として現場の声をもとにした教職員への研修や課題解決等に取り組んでいる。

成果

令和7年度全国学力・学習状況調査の本市の結果

児童・生徒質問調査の結果（一部）

7. 将来の夢や希望をもっていますか
小学校 65.0(県 65.7、全国 60.7)
中学校 40.0(県 39.7、全国 35.5)

27. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
小学校 36.1(県 36.6、全国 33.8)
中学校 27.3(県 26.6、全国 22.4)

自己肯定感に関する内容の質問や、本市が進める授業観の転換に関する内容の質問について、ほとんどの質問で全国平均を上回っており、本市の平均から見ると、概ね子供主導の学びやすい授業が実施されており、そのことが学校や授業の楽しさ、自己肯定感の高まりにつながっていると見ることができる。

課題や今後に向けて

■学校や地域の実態に応じた、学校の主体的取組の更なる充実のための支援

■企業人に加えて、地域人等幅広いキャリア・モデルと児童生徒の出会いの機会づくり

■キャリア教育の偏ったイメージ(キャリア教育=進学・就職指導、職業教育、等)から脱却、本質的なキャリア教育の充実



地域とつながる、世界とつながる、未来を創る北川～持続可能な社会の担い手としての学び～

キーワード

地域連携／国際交流／キャリア教育／持続可能な社会の創り手／人間関係形成能力

取組概要

本校はESDの理念を基盤に、生徒が地域や国際社会と連携し持続可能な社会を学び自らの生き方やキャリアについて主体的に考える取組を進めています。具体的には、ホタル保護や湿原緑化の活動を自治体や専門家と協働し、自然と共生する地域づくりに参加。また、職業人講話や地域交流で働く意義を学び、キャリア意識を育成。国際交流もを行い、多様な文化に触れる機会を提供。これらを通じ、生徒はふるさとへの誇りと協働力を育み、未来を主体的に考えている。

取組の詳細

本校では、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の理念を基盤に、北川の豊かな自然環境を守り育てる実践を通じて、生徒が地域や世界とつながりながら、自らの生き方やキャリアについて主体的に考える教育活動を推進している。

(1) 地域・社会・世界とつながる「生き方」の学び

環境活動とつなげながら、地域の人の声を聞く会や職業人講話、ボランティア活動を多数実施。自然保護や地域づくりに関わる人の話を聞くことで、仕事観や社会参画の意識を育成。

自治体職員、造園業者、環境教育の専門家など、プロジェクトに関わる多様な職業人との実際の交流を通して、「働くこと」の意味や役割を実感。

国際理解教育の一環として、ミャンマー研修生との交流や、ドイツ・ボトロップ市の生徒との英語での文通活動を実施。グローバルな視点から自然や文化的多様性について学び、多様な他者と持続可能な社会をつくることの重要性を実感。

(2) 北川の自然を未来へつなぐ実践

生徒総会での話し合いを起点に、「自然と共生するためにどのような活動をすればよいか？」という問い合わせ立て、家庭湿原緑化プロジェクトとホタル再生プロジェクトを立ち上げた。地元自治体や専門業者との連携を通じて、実際の課題に基づいた地域参加型の自然再生プロジェクトを計画・実践。

生徒は、地域資源の価値や自然と人の共生の在り方を学び、ふるさとへの誇りと責任感を育む。

以上、地域・社会・世界とのつながる「生き方」についての学び、北川の自然を未来につなぐ実践を計画的・系統的・組織的に実践し、ふるさとへの誇りと協働力を育み、未来を主体的に考える生徒の育成につなげている。



基礎情報

- 延岡市立北川中学校（小野 秀俊 校長）生徒数 44名
- 宮崎県北部に位置し、祖母傾山系エコパークなどの自然に恵まれている。カヌー体験や清掃活動、近隣の山での散策活動を行ってきたが、新たにキャリア教育の視点から、自然環境保護に取り組む方々と連携し、社会への参画意識や持続可能な地域づくりについて意識させることとした。2025年6月ユネスコスクール認定。

成果

- ホタル再生や湿原緑化などの活動を通して、生徒が地域の自然や文化の価値を再認識し、ふるさとへの愛着を高めた。
- ミャンマー研修生やドイツの中高生等との交流を通じて、多様な価値観を理解し、国際的な視野を持つ力が育ってきた。
- 地域の職業人講話や活動参画により、働くことの意義や将来像について考えるきっかけが増え、自己の生き方を主体的に捉える姿勢が育った。
- これまでの取組に新たな視点での取組も取り入れたことで、学校全体でのキャリア教育を体系化する一助となった。

課題や今後に向けて

- 今年度の取組について生徒のポートフォリオや職員研修を元に検証を行い、成果と課題について明らかにする。その上で、国際交流や地域活動を、教育課程の中で効果的に位置づけ、事前や事後の学習をとおして生徒のさらなる資質・能力の向上につなげる必要がある。
- 学習成果や活動状況等について、地域や関係機関に効果的に発信する仕組みの強化が必要である。

推薦教育委員会名：(宮崎県教育委員会)



妻高校を核とした共育のかたち～西都市・小中高連携による地域総ぐるみのキャリア教育実践～

キーワード

地域連携／小中高連携／キャリア教育／探究活動／体験学習／人材育成／対話・協働

取組概要

妻高校では、西都市の小中学校・行政・地域人材と連携し、体験型キャリア教育を体系的に推進。福祉及び商業の専門学科では、地域に貢献できる人材育成を展開し、総合的な探究の時間「妻みらい塾」では、高校生が地域との協働による地域課題解決に挑戦。さらに、中高・行政・市議会議員による「知恵の輪ミーティング」や「高校生と市議会議員の意見交換会」等を通じて、高校生が地域振興を自分事として捉え、行政・市議会議員とともに議論を深めている。

取組の詳細

◆小中高連携による体験型キャリア教育

児童・生徒が望ましい将来像を描けるよう、発達段階に応じた体験型キャリア教育を体系的に妻高が展開

- 小学5年生：「妻高の学習体験会」にて、介護や情報活用などの妻高専門学科の学びを体験
- 中学1年生：「妻高の学びから職業を考えるキャリア学習」で妻高2年生が講師を担当
- 中学2年生：「さいと学アワード」にて中学生が探究発表を行い、妻高生と意見交換
- 中学3年生：「進路特別学習（クロストーク）」妻高生・校長との座談会形式の対話を実施

◆メンター（地域人材）と連携した「妻みらい塾（総合的な探究の時間）」

行政・観光・商工・農業などの地域人材が、メンターとして、妻高生の地域課題解決型探究活動を支援

- 高校生が主体となり、地域の課題を調査・分析し、解決策を提案（市補助金活用）
- メンターの伴走により、地域社会との接点を重視しながら学びを深化
- 郷土の活性化を自分事として捉えるグローカル・リーダーの育成

◆地域との協働による地域づくり活動の推進

地域の担い手となる意欲を育む取組を展開

- 「知恵の輪ミーティング」中高生・行政・市議会議員が地域課題について協議
- 「妻高校生と西都市議会議員の意見交換会」妻高生と市議会議員が西都市の未来について協議
- 「地域の祭りへの参画・協力」さいと夏祭り、古墳まつり、都於郡（とのこおり）城址まつり等への関わりを通じて地域とのつながりを深化



基礎情報

団体の特徴（学校）

学校創立103年目の県内屈指の伝統校。西都市唯一の高等学校で、約600名が在籍。普通科、普通科文理科学コース、福祉科、情報ビジネスフロンティア科を設置し、地域連携や市内中学校の地域学習「さいと学」と接続した一貫性のある探究活動、資格取得を通じたキャリア教育に力を入れている。

成果

- メンター等の「出会うべき大人」との関わりを通じ、生徒の精神的成长が見られた
- 農畜産業など地域の高度な取組を学び、地域を尊重する気持ちが醸成された
- 高校生による地域課題発見と解決提案が、市補助金により実践された
(例)「廃棄野菜からクレヨンへ」、「アートが繋ぐ共生社会」
- 小中高が連携したキャリア教育により、教育の一貫性が構築された
- 学校満足度アンケートの「学んだことを誇りに思う」が県内普通科高校で第1位
- 生徒主体の学校行事における生徒の企画力・運営力が大きく向上した
- 県内・地元企業への就職率が高水準を維持（令和6年度85.4%、令和5年度89.7%、令和4年度95.3%）

課題や今後に向けて

- メンター（地域人材）の継続的な確保と育成
- R8市内中学校再編後の新たな小中高連携による共育のかたちの形成
- 中高間の教科交流研修を充実させ、生徒にとって最適な学びの接続と継続を保障
- 地域資源の更なる発掘と発信力強化（台湾の羅東鎮との姉妹都市交流、桃園市立壽山高級中等學校（姉妹校）や國立羅東高級商業職業學校との交流を強化・活用し、海外へ地域資源・観光の魅力を発信）



ノーベル賞ウィークを核としたキャリア教育の推進

キーワード

赤崎勇先生(ノーベル賞受賞者)の功績を受け継ぐキャリア教育（「キャリア・パスポート」を活用して）

取組概要

- 毎年12月に、ノーベル賞ウィークを位置づけ、その中で、赤崎勇先生の功績を称えるノーベル集会を開催する。
 - ・自分の夢や希望、将来の目標を、夢シートに書かせ、ノーベル賞集会で発表をするとともに、「キャリア・パスポート」に綴らせ振り返りに活用する。
 - ・夏休みの自由研究に、発明品募集を募集し、大賞を表彰する。
 - ・赤崎勇先生の功績を称える、ノーベル賞の部屋を開放し見学する。

取組の詳細

○ 「キャリア・パスポート」を活用した夢の発表会の実施

学級活動の中で、自分の夢や希望、将来の目標を、「夢シート」に書き、各学級の代表者が、ノーベル集会で発表する。「夢シート」は「キャリア・パスポート」に年次ごとに綴らせこれまでの記述を振り返らせることで、自己の成長を自覚できるようにしている。

○ ノーベル集会での、発明大賞の紹介と表彰

夏休みに取り組んだ発明品募集の優秀作品の中から大賞を選出し、ノーベル集会で表彰し、紹介する。

○ ノーベル賞の部屋の開放と見学

赤崎勇先生の功績を称えるために、先生の研究の内容や成果を紹介した資料や写真、書籍等を展示したノーベル賞の部屋をノーベル賞ウィークの期間中に、いつでも見学できるように開放する。



基礎情報

- ・児童数は4月8日時点で、323人
- ・校区内に西郷隆盛を祀る南洲神社があり、遺訓である「敬天愛人」と東郷平八郎元帥の「奮励努力」を校訓としている。
- ・赤崎勇先生は、昭和16年に本校を卒業している。

成果

- ・毎年、夢シートに自分の夢や希望、目標を書かせ、「キャリア・パスポート」に綴らせることで、長期スパンで自己の成長を振り返ることができ、自分のよさを自覚し、今後の目標を発達段階に応じて形作ることができた。
- ・ノーベル賞受賞者である赤崎勇先生の功績を受け継ぐノーベル賞ウィークを位置づけることで、本校で学ぶことへの誇りと意欲を醸成できた。

課題や今後に向けて

- ・「キャリア・パスポート」の活用をさらに高めるために、学校全体で計画的に取組を進めていく。
- ・ノーベル集会で発表、紹介する児童の数に制限があるため、全児童の夢や発明作品を紹介できる資料ソフトを整備する。
- ・赤崎勇先生の功績を称える、ノーベル賞の部屋の資料等を適宜整備し、展示内容を工夫改善する。



地域と育む郷土愛とキャリアプランニング能力

キーワード

地域連携／産業界と連携／SDGsの推進／体験的な学習

取組概要

本校は、地域の多様な人材との交流や地域資源を活用した体験的な学習に取り組み、ふるさとに愛着を持ち、地元に貢献しようとする児童の育成を図っている。さらに、キャリアデーや産業界と連携した交流学習等を実施し、児童一人一人が自己のキャリア形成に必要なプランニング能力を育む教育活動を展開している。

取組の詳細

- 1 安富祖っ子米づくり（地域の基幹産業「稻作」体験・長年続く伝統的な教育活動）**
- ・地域の稻作農家の方を講師に迎え、田植えから稲刈り、販売までの活動を体験させ、地域産業の理解に繋げている。
 - ・3月田植え ・4月補植と追肥
 - ・6月田草とり ・7月稲刈り ・9月学校・地域で販売活動
- 2 ふるさとの良さを知り環境を守る活動**
(地域・村役場・漁協・ダイビングショップの協力)
- ・浜下り（海の生物観察会：全児童・保護者・地域が参加）
 - ・ビーチクリーン活動（児童会活動で年2回実施）
 - ・シュノーケリング体験、サンゴ植付け体験（高学年の活動）
 - ・赤土流出防止活動（ベチバー植えと刈り取り活動）
 - ・県民の森自然観察（低学年）
 - ・護郷隊慰靈の塔清掃活動、戦争遺構見学を通して地域の戦争の実相を知る（高学年）
 - ・地域の伝統お菓子作り（4年生：三月菓子、1, 2年生：鬼餅）

- 3 地域の職業人や様々な職種に触れ職業観を養う**
- ・キャリアデー（地域の職業人や先輩に触れる）
 - ・産業界との交流学習
 - ・ものづくり体験学習
- (ホテル) (自動車製造会社) (病院) (たたみ制作) (循環型環境ビジネス) (伝統芸能実演家)

基礎情報

団体の特徴（学校）

所在地：沖縄県恩納村安富祖

全児童数：88名

地域の特徴：学校区には恩納村有数の稻作地帯を有し、学校裏には沖縄国定公園の美しい海が広がる風光明媚な地域である。保護者・地域は学校への関心が高く協力的である。

成果

○自己の将来像を描き職業観を醸成することができた。

・全国学力調査（児童質問紙）「質問7：将来の夢や目標をもっていますか」の回答が80で全国より20ポイントほど高かった。

○地域に貢献しようとする態度を醸成することができた。

・全国学力調査（児童質問紙）「質問27：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の回答が46.7で全国より10ポイント以上高くなっている。

○地域の伝統的な行事に参加する児童が増えた。

○主体的な児童会活動の展開（縦割り班、6年生のリーダーシップ）

課題や今後に向けて

- ・児童に委ねる探究的な学びの展開
- ・自分事として、調べ・計画・実行する行動力の育成
- ・地域資源の更なる発掘と活用
- ・保護者と連携した活動展開
- ・地域の方が学校に足を運びやすい環境づくり
- ・学校運営委員会との連携深化

推薦教育委員会名：(沖縄県教育委員会)



自らの学びを社会と未来につなげ主体的に課題解決に向かう「至逞タイム」の探究学習

キーワード 「自己探究」と「プロジェクト型探究」／地域・企業・大学との連携／学びのデジタルポートフォリオ／ハッピーメーカー

取組概要

- 探究的な学びのカリキュラムマネジメント（起業家教育「キャリアハッピープロジェクト」、観光課題解決「ハッピートラベルプロジェクト」、よりよい未来に「ハッピームービープロジェクト」）
- 学びを豊かにするコミュニティスクールを活かした幅広い外部人材の活用
- 大学・企業と連携した校内研究の充実とエージェンシーの向上
- 社会とつなげるフィールドワークや企業を招いた研究成果報告会
- デジタルポートフォリオによる学びの可視化と相互フィードバック

取組の詳細

- 共通実践に向けたベクトルをそろえる管理職によるコンセプトメイキングとリーダーシップ
- 「自己探究」と「プロジェクト型探究」を効果的に組み合わせた3年間の学びを見通す総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント
- 週時程に位置付けた「総合的な学習委員会」による校内研究の推進
- 教師と企業、学校運営協議会の協働によるワークショップ型校内研究で多角的な視点から生徒と教師の学びの姿をアップデートする
- 大学との連携で生徒エージェンシー、教師エージェンシーの向上を目指す
- 課題設定、情報収集のためのフィールドワークと企業を招いての事業計画批評会や研究成果報告会の実施により学びを社会とつなぐ
- デジタルポートフォリオによる学びの可視化と探究プロセスを往還する過程での教師と生徒の相互フィードバックの充実
- 目的意識×相手意識で世の中をハッピーにするハッピーメーカーへの道のり



生徒の企画が御菓子御殿から商品として販売(R7. 1月)

基礎情報

- 生徒数：485名 創立34年目を迎える。校訓「至逞」
- 令和5年に浦西中学校学校運営協議会が設立され 地域・企業との協働的な取り組みが行われている。
- 生徒会団活動による支持的風土の醸成と、学びを社会とつなげ課題解決に向かう探究学習を推進している。

成果

- 探究学習の推進を通して「共に学ぶ存在」としての教師の指導観の転換が図られた。
- 探究プロセスの往還で「課題発見力」や「創造的思考力」、生徒自身が学びを動かすエージェンシーの向上につながっている。
⇒「総合的な学習の時間に関する県生徒質問紙調査結果において、肯定的回答83.4%で、県+5.8ポイント」
- 地域・企業・大学との連携による外部人材の活用で「学びが社会とつながり豊かになった」との生徒の肯定的回答が9割を超えた。

課題や今後に向けて

- 3年間を見通した探究的な学びのカリキュラムマネジメント
- 教師エージェンシー、生徒エージェンシーのさらなる向上
- 学びのデジタルポートフォリオの効果的な活用の推進
- 教科横断的な視点と探究プロセスによる指導と評価の一体化
今後も、生徒と教師の学びの姿の相似形を目指し、実践的な取り組みの推進に努めていく。

推薦教育委員会名：(沖縄県教育委員会)



「よかたんプロジェクト」を軸としたキャリア教育の実践～探究×地域連携力×課題対応力を強みとした「ミラヨカ人材」の育成～

キーワード

総合的な探究の時間、PBL（プロジェクトベースドラーニング）、地域連携力、機能的な地域連携システムの構築、課題対応力

取組概要

- (1)総合的な探究の時間（「通称：よかたん」）における「地域連携」型 P B L の取組による、実社会に根ざした探究活動の推進。
- (2)豊富な地域資源・人材を活用する機能的な地域連携システムによる人間関係・社会形成能力の育成。
- (3)地域社会に参画できる人材（ミラヨカ人材）の育成：地域課題解決に着眼した探究活動を自己の学びやキャリアにつなげると同時に、次代の地域人材の育成やよりよい未来社会の担い手づくりに資するキャリア教育の推進。

取組の詳細

- (1)PBL（プロジェクトベースドラーニング）による系統的な「総探」の構築
 - ①1学年：広報誌作成（地域の魅力の発掘）
 - ②2学年：地域の課題解決
 - ③3学年：進路探究
 - ④外部メンター（8名）による指導・助言（2回）
(2学年探究計画発表会・ポスターセッション)
 - ⑤公開ポスターセッション（2月）の実施
(北海道立平取高生徒、地元企業、緑が丘中生等)
- (2)地域連携に係る機能的なシステムの構築
 - ①うるま市と連携した企業見学バスツアーの実施
市内工業団地の企業25社で実施。市職員による市の産業や雇用状況や課題の講義を踏まえ実社会や実生活に即した探究テーマや問い合わせの設定並びに職業観や勤労観の育成を図っている。
 - ②「肝高あやはし組合」（地域の通り会）との関係構築（未来のよかちやー育成プロジェクト「ミラヨカ」との連動）
月1～2回程度、担当教諭や生徒と「肝高あやはし組合」メンバーとの情報交換会を実施。探究活動の見聞を広げると同時に世代を超えた取組により人間関係形成能力・社会形成能力等の育成を図っている。



メンターによる指導・助言



うるま市企業見学バスツアー



発案スイーツ商品化決定

基礎情報

本校は沖縄本島中部与勝半島に位置し、設置学科は1学科（普通科）、1学年4クラス、生徒数411名である。創立46年目を迎えるが、平成19年、県立与勝緑が丘中学校が開校し、本県初の併設型・中高一貫教育校となった。令和2年度から1学年では地域の魅力発見、2学年においては地域課題の解決をテーマとした探究活動に取り組む。令和4年度から機能的な地域連携システムを構築し、豊かな地域資源を活かした、地域と一体となったキャリア教育に取り組んでいる。

成果

- (1)地域の魅力発信や地域愛の高揚を目的として発案した「よかちやーフェス」の企画・運営を「肝高あやはし組合」（地域の通り会）と連携し、実施した。
- (2)地元産の食材を用いたスイーツを考案し、地元の生産者や食品加工会社と連携し商品化に取り組み、大手コンビニエンスストアにおける販売に繋がった。
- (3)探究活動を大学等での学びに繋げ、自己理解や社会参画や社会貢献意識の高揚などキャリア発達を促している。その成果として、R5～R6年度卒業生の進路決定率は約92%、うち国公立大学への進学者が約30%を占め、R3度（約16%）・R4年度（約24%）から躍進した。

課題や今後に向けて

- (1)生徒の探究活動の指導・支援方法の体系化・標準化。
- (2)探究的な問いを立てる十分な時間の確保とその支援。
- (3)キャリアプランニング能力のさらなる向上を目指した取組。



地域と連携した職場体験 お仕事体験フェスティバル –三光☆夢☆未来フェスター

キーワード

地域連携／職業体験／幼小連携／持続可能な取組

取組概要

児童の夢や、将来やってみたいと思う職業を見つける手助けをするための活動である。主に校区内に存在し、普段関りのある事業所や公共機関など、地域で活躍されている事業所を中心に、その職種を生かした**職業体験**を行っている（**地域連携**）。コロナ禍前から行われているが、非常事態宣言後は**持続可能な取組**に転換し、活動を継続している。

取組の詳細

I 実施までの流れ



II 実施の概要

1 平成30年度第1回目開催 名護市内19事業所

当時のPTA会長の思い

「子供たちが世の中の職業を知る機会は少ない。小学生の時から自分たちの周りにある身近な仕事を知って、高校や大学に進むきっかけとし、名護市にまた戻ってきてほしい」（琉球新報記事より）

2 令和元年度第2回目開催 名護市内27事業所へ

対象児童は4～6年 これまでの開催で最大規模となる

・令和2年度、令和3年度は緊急事態宣言、感染防止により中止

3 令和4年度より再開

・2年間のブランクがあったが保護者、教師の思いで再開
・感染対策の徹底
・持続可能な運営となるための運営体制の見直し
(大々的な取組は魅力的だが、行動が制限された場合や保護者や教師が代わっても取り組めるように運営方法を見直した)

4, 5 令和5, 6年度も継続開催 事業者5年度：10 6年度：11事業所

・事業者、PTA、学校が負担なく取り組める流れが確立しつつある



第1回は5,6年児童対象



基礎情報

全児童377名、幼稚園園児20名の中規模校で校区内には国指定天然記念物のひんぶんガジュマルがあり、名護城公園では桜まつりが行われるなど自然文化との関わりが深い。PTAは6専門部あり、学校行事と連携して活動している。会員数は280名で運営されている。

成果

保護者感想（一部）…肯定的な回答ほぼ100%

・とても楽しみにしていました。ずっと続けてほしいです。
・色々な仕事を見て触れて、良い機会だと思います。子供達の夢が広がりますね。
・子供たちの顔がイキイキと輝いて楽しめました。両親のお仕事と同じ職業を選んでいる子が多く、親をあこがれている様子がうかがえ、素晴らしいなと思いました。

事業所さん感想（一部）…回答者すべてが前向きな回答

・今年も楽しく授業ができました。来年もあります是非、授業を聞く準備ができる生徒さんが少しいました。私も集中して聞いてもらえるネタを考えます。
・意外に大変だった。子供たちの集中力がすごかったです。教えることが難しかった。子供たちの目がキラキラしていました。髪飾りやヘアスタイルを選ぶ時が嬉しそうでした。
・参加した児童も楽しく熱心に活動している様子が見られた。また校内に隣接する幼稚園もお兄さん、お姉さんの活動を見学したり、バスに試乗したりと普段経験することができない貴重な体験をすることができ、目を輝かせていた。

本活動は特色ある取り組みの一つとして、子供たちには貴重な**職業体験**の場となっている。**職業体験を地域連携**とタイアップさせることで今後も継続的な取組が期待できる。

課題や今後に向けて

もっとも重要な課題としては**持続可能な取組として継続していくこと**である。学校は職員が代わり、保護者も卒業する。今後、企画運営に携わる人が主体的に活動でき、子供たちが「楽しかった、勉強になった、この仕事に興味がわいた」等の声が聴けるよう、PTAも楽しみながら取り組んでいきたい。

推薦教育委員会名：(沖縄県教育委員会)



子どもの意思決定に基づく学校行事「子どものまち」の実践

キーワード

起業教育／まちづくり／子どもの意思／

取組概要

「子どものまち」とは、学校内を「一つの町」として、子どもたちが様々なお店を出して仕事をしたり、お買い物をしたり、遊んだりする学校行事で、起業教育的な視点を含んだキャリア教育の取組として実施している。6年間を通して教育計画上に位置付けて体系的にカリキュラムを組んでいる。

取組の詳細

各学年では、生活・総合的な学習で学んだことを、子どものまちで、どのように表現していくのかをそれぞれ話し合い、検討する。

1年生…「校庭や公園で秋を探そう」 ⇒ 子どものまちの看板づくり

2年生…「おもちゃやさんごっこをしよう」「町探検」
⇒ 子どものまちの看板づくり

3年生…「上野山の良さを見つけよう」「町巡り」「笊川探検」
⇒ まちで使う紙幣

4年生…「障害・福祉について知ろう」 ⇒ 当日のルールや地図が書かれたパンフレットなどを作成

5年生…「SDG'Sについて知ろう」「子どものまちをつくろう」
⇒ まちのお店づくりの提案・運営

6年生…「はたらくってどういうこと」「子どものまちにむけて」
⇒ まちの運営

基礎情報

団体の特徴（学校）

全校児童数 469名

本校は、仙台市西部の縁に囲まれた住宅地に立地している。学校に隣接した森を「楽元の森」と名付け、授業や各種イベントで利用し、児童の学びの場としている。

成果

○見通しや責任感を持ち、主体的に行動しようとする意識が高まった。【うごく力】

○自分たちの力で行事をやり遂げ、達成感を感じることができた。【みつめる力】

○相手の立場を考えてコミュニケーションを取ろうとする意識が高まった。【かかわる力】

○友達や上學年の姿を見て、仕事の見通しや目標を持つことができた。【みとおす力】

○一人一人が役割を果たしながら働くことの良さを児童が実感することができた。【いかす力】

課題や今後に向けて

各学年のゴールとなる「を目指す児童の姿」に向けたカリキュラムを整理し、学校全体で「子どものまち」を推進することで、「子どものまち」を自分づくり教育の柱として持続可能な活動にしていく。



サマー講座・七小ゆめフェスティバルを通じたキャリア教育の実践

キーワード

地域連携／体験講座

取組概要

サマー講座や七小ゆめフェスティバルという行事を開催して、地域の諸団体や企業がこどもたちに様々な体験講座を実施している。協力する地域の企業には、学校支援地域本部（にこにこ本部）が中心となって声を掛けており、毎年工夫を凝らした講座が開催されている。

基礎情報

全校児童数 588人（令和7年5月1日現在）
開校152年目を迎えた伝統校であり、近隣住民には卒業生も多い。地域の方の学校への愛着も強く、行事や教育活動へのボランティア参加も大変盛んである。

取組の詳細

1 サマー講座

夏休みの始め、1週間にわたり様々な体験講座を実施し、希望する児童が参加する。講座は地域や学校に関わる方、地域の諸団体や企業等が運営し、内容はものづくりや職業体験、アート、スポーツなど幅広く充実したものになっている。



2 七小ゆめフェスティバル（地域の部）

七小ゆめフェスティバルは11月の金曜日に児童の部、翌土曜日に地域の部を実施する。児童の部は3年生以上が店を開く児童会行事で、地域の部ではサマー講座同様、PTAや地域の方、企業がブースを開いてこどもたちを楽しませている。飲食や遊びの店に加え、ダンスや音楽、ものづくりなどの体験型のブースも人気である。



成果

今年度のサマー講座は14団体から講師53名、ボランティア等で60名が講座の運営に関わっていただいた。参加児童は延べ340名となった。また、昨年のゆめフェスティバルは43団体に御協力をいただいた。近年の生活体験不足のこどもたちにとって貴重な体験の場となっている。また、地域とこどもたちをつなぐ行事として根付いており、本校の特色の一つとして知られている。

課題や今後に向けて

毎年学校支援地域本部がアンケートをまとめ、こどもたちの実態に合わせて内容等を見直している。今後も体験の場、地域交流の場として継続するとともに、中学生ボランティアの活用も推進し、より価値ある取組にしたい。



心染色“こんぱす”は、みんなが土屋中学校を大好きにするための提案をします。

キーワード

主権者教育／話し合い活動／小中連携／学校運営協議会

取組概要

昨年度、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会(委嘱)、25地区進路指導・キャリア教育研究協議会、令和6年度さいたま市教育委員会委嘱(研究指定)を受け、主題を「生進にわたって自分の道を切り拓いていく生徒の育成」～「キャリアプランニング能力」を重点とした授業実践の充実～とし、教科を中心に学校校育目標である「夢に向かって」の美現を目指し研究をしてきた。

今年度は、さらにキャリア教育の充実を図るために、特別活動に重点を置き、生徒による新組織、「心染色“こんぱす”」を立ち上げ活動を行っている。心染色“こんぱす”は、生徒が話し合い、土屋中の生徒の心を新たに染め、土屋中を大好きになるために、皆が同じ気持ちで、同じ方向を目指す羅針盤という意味を込めて、名称を決定した。学校を社会の縮図として捉え、自分が動くことで学校が変わる、主権者としての意識を定着、醸成、進化させ、全校でキャリア教育の一つとして実践する。

取組の詳細

- ①学級討議によって、今年度の生徒総会では学校を大好きするための提案が35個出た。その後、心染色“こんぱす”で討議し、職員会議で3つの提案を行った。
- ②いじめ撲滅する取組として、連携校であるさいたま市立指扇小学校、さいたま市立馬宮東小学校、さいたま市立栄小学校と一緒に挨拶運動を行うこと、いじめ撲滅の動画制作をして「つぼみの日」に6年生に見せること、心が温かくなる言葉キャンペーンを計画している。
- ③年3回の学校運営協議会・いじめ防止対策委員会に参加する。第1回では、生徒から学校紹介と心染色“こんぱす”が創設したことを報告した。第2回、第3回では心染色“こんぱす”的活動の様子を紹介したり、地域へ提案したり、地域から依頼を受けたりして活動の幅を広げる。
- ④さいたま市ストップいじめ！子どもサミットでは、同じ地域の小・中学校が集まり、各校のいじめ撲滅のための実践を報告・情報共有を行い、いじめの防止について意見交換を行った。
- ⑤さいたま市タウンミーティングに心染色“こんぱす”から3名が参加し、市長に土屋中学校の地域で困っていることを伝え、改善を求める提案を行った。
- ⑥カリマネデザインマップに「『話し合い活動』を取り入れた授業実践による、生徒の主体性と確かな学力の育成」を育てたい資質・能力として掲げ、年に3回、特別活動の講師に来ていただき、学級会の研修を行ったり、さいたま市教育委員会に要請訪問を依頼し、全教科で「話し合い活動」を取り入れた教科横断的な研究授業を行ったりした。



基礎情報

昭和61年に開校し、今年度40周年を迎える。埼玉県さいたま市西区に位置し、学校周辺はさくら草や豊かな田園に囲まれている。全校生徒は517名、学校職員は49名、学校教育目標「夢に向かって～希望の登校 笑顔の活動 満足の下校～」の実現に向け、全校で取り組んでいる。令和6年度にさいたま市教育委員会委嘱「進路指導・キャリア教育」、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の委嘱を受け、研究発表を行った。今年度も継続してキャリア教育を実践する。

成果

- ・3つの提案のうち2つが実行に移されたことで、生徒が自らの言動によって、学校を変えられることに気づき始めた。
- ・中学3年生の4月に実施した全国学力・学習状況調査の生活習慣や学校環境に関する質問紙調査を9月にも実施したところ、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」という項目において、肯定的回答が93%から1%増加、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という項目において、肯定的回答が88.4%から2%増加、「あなたは土屋中学校が好きですか」という項目において、肯定的回答が60%から30%増加し、90%に達した。
- ・学級会をあまり実践してこなかった教員の意識が変わり、学級会のグッズを学校でそろえたり、机の配置や教員の立ち位置を考えたり、議題の内容について積極的に意見を出し合ったりするようになった。

課題や今後に向けて

- ・生徒が企画した活動を地域へと広げ、学校だけでなく、国家及び社会の形成者として主体的に参画しようとする日本の主権者としての資質・能力を育成する。
- ・学校を大好きにするための提案は誰もが納得できる理由がない提案が多く、学級討議をもっと活発にさせていく必要がある。そこで、教員が特別活動や各教科で、生徒が自分の意見を持ちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いをつけたりする中で、納得解を見出しながら合意形成を図っていく「話し合い活動」を実践し、生徒の主体性を伸ばし、土屋中の主権者としての自覚を育成する。

推薦教育委員会名：(さいたま市教育委員会)



探究学習を核にした「自己決定型キャリア形成」と外部連携 — 6年間のMY MOIStory

キーワード

探究学習／キャリアガイダンス／学校内外部連携／教員研修／高大連携／総合型選抜

取組概要

生徒一人ひとりの興味関心を核に、探究学習・キャリアガイダンス・外部連携を統合し、6年間一貫キャリア形成プログラム「MY MOIStory」を展開。志望理由書作成や大学入試問題探究講座などを通じて、教師の進路指導スキルを高めると同時に「探究力」「思考力」「自走力」を育成する伴走型支援を実現している。大学・地域・行政・企業との協働を奨励し、学校内外に開かれた学習とキャリア形成の場を提供している。

取組の詳細

① 多機関連携の推進（協力性）

国際バカロレアに基づく探究学習を核に、大学との高大連携授業や入試問題探究講座、大学フェアを実施。さいたま市・地域団体・企業と協働し、授業公開やイベント参加、商品開発やボランティア活動を展開。三菱みらい育成財団からの支援や今後校内に設置予定のTech Land構想とも連動し、社会課題に根差した学びを推進。

② PDCAによる改善と運営（継続性）

学校運営協議会に生徒・保護者・大学・地域を巻き込み、年度方針を協議。成果の振り返りをアンケートや発表会で行い改善につなげる。学年間連携やポートフォリオ検討会、毎月の教員研修や全教職員で取り組む進路指導により、協働力・指導力を育み、探究的な学びを全職員で共有。

③ 地域・社会ニーズを反映した探究活動（実践性）

生徒は個人の興味から地域課題へとテーマを発展させ、交通・食品ロス・子ども食堂などを探究。「さいたまエンジン」プロジェクトや献血、ボランティアイベント企画等を通じて、自治体・企業と連携し、地域社会に主体的に参画。

④ 地域・社会へ広がる波及効果（発展性）

探究発表会や授業を公開し、地域および教員機関、外部機関との交流を促進。生徒発案のフードトラックや献血活動、ボランティアなどが実現し、活動は学校外にも波及。他校や教育委員会研修、メディアにも紹介され、「探究×進路」のモデルとして認知が拡大。



基礎情報

大宮国際中等教育学校(通称MOIS)は、県内初・唯一の中等教育学校(開校7年目)で、公立校では全国でも数少ない国際バカロレアMYP・DPを導入している。さいたま市全区から1学年160人が通い、6年間の一貫教育を通じて、校訓であるGrit(やり抜く力)・Growth(成長し続ける力)・Global(世界に視野を広げる力)のもと、概念・探究学習、All Englishで行う英語教育、国際理解教育が充実している。ICTにも力を入れており、公立校としては唯一、教育ICT先進校「Microsoft Showcase School」に認定された国内5校のうちの1校である。

成果

① 探究・進学実績の成果

- ・探究活動の成果として、外部コンテストでの入賞を含む多くの実績。
- ・総合型選抜等の年内入試利用率 61%（国公立大学年内入試合格率 60.6%）、海外大学合格者 22名（世界7か国）。

② 地域連携の広がり

- ・フードトラックや献血活動など、生徒発案の取り組みが実現。
- ・大宮かどまちフェア、盆栽美術館との協働企画、子ども食堂の取り組みなど、地域から高評価。

③ 学校文化としての定着

- ・全教員が進路支援に関わる意識を共有、伴走型支援を実現。

課題や今後に向けて

- ・保護者の「先回り型」進路関与への対応 → 生徒の意思を尊重する建設的対話を強化。
- ・海外進学に向けた奨学金・受験準備 → 情報提供・伴走支援を拡充。
- ・探究学習の「質的向上」→ 大学入試での評価に対応するため、成果の可視化・発信を強化。
- ・地域連携のさらなる拡張 → さいたま市内小・中学校や地域住民を巻き込む公開授業や発表会を拡大予定。



地域とつながり、未来をえがく学び

キーワード

人・もの・こと／地域への愛着／学びの連続性

取組概要

地域の人・もの・こととのつながりを生かした学習
児童が実社会や地域とつながりながら、自ら課題を見いだし、主体的・協働的に探究する学びを、学年を越えて体系的に展開している。地域の人・もの・こととのつながりを生かして、自分のこれから生き方・在り方を考える教育活動に取り組んでいる。

基礎情報

団体の特徴（学校）

全校児童651名、2025年に創立75周年を迎える。川崎市中原区に位置し、周囲は商店街や公園が点在している。「学びに向かう力、人間性等の涵養」を柱に、児童の可能性を伸ばすことを大切にしている。

取組の詳細



二ヶ領用水清掃
2週に1回活動



キッズゲルニカ
絵で平和を伝える取組

人・もの・こととのつながりを生かした段階的かつ連続性のある学び 令和7年度6年生のこれまでの取組

【4年生】「二ヶ領用水きわめ隊」

川崎の発展と共に歩んだ二ヶ領用水の価値に気付き、地域で受け継がれてきた二ヶ領用水の環境保全に目をむけ、後世に引き継いでいくためにできることを考え実行してきた。

【5年生】「未来へ！川崎の宝引きつき隊」

二ヶ領用水以外にも、歴史や人、環境や技術などの川崎の宝の存在に気づき、市制100周年と絡め、その素晴らしさを伝えた。次の100年に向けて、川崎の宝を大切に引き継いだ。

【6年生】「明日へ！平和繋ぎ隊」

戦後80年を迎えた今年、川崎に残る様々な遺構を見学したり、被爆体験者から直接話を聞いたりした。この経験をもとに、一人ひとりが語り部として平和の大切さを表現し、広く発信する活動に取り組んでいる。

成果

・地域への愛着と誇りの醸成

地域の人・もの・ことを題材とすることで、児童が地域の人とのつながりや文化歴史を身近なものとしてとらえることができ、「自分はこのまちの一員だ」という意識をもって地域の清掃活動や交流会参加などの行動に移すことができた。

・学年を超えた学びの連続性

段階的かつ連続性のあるテーマ設定をしたことによって、児童は地域と深く関わりながら、地域社会や自分の未来について考え、課題解決に向かう力を育むことができた。

課題や今後に向けて

・学びの成果の可視化と価値の共有

児童の変容や成長を保護者や地域に伝える方法を工夫し、取組の価値を共有していきたい。

・地域連携の維持と発展

学習発表や交流イベントなどを設けて、地域と学びを共有し、地域側の関心や参加意欲をより高める取組を検討していく。



目指す姿は、共につくる

キーワード

学校教育目標の具体化／生徒と共に／総合的な学習の時間

取組概要

生徒主体で目指す生徒像を策定

学校教育目標である「自主自律」の具現化を目指し、教員および生徒へのアンケートをもとに、育成すべき具体的な生徒像を設定している。

取組の詳細



生徒による捉え直し
(一部抜粋)

(1) 生徒による「自主自律」の捉え直し

生徒評議会のメンバーにもアンケートを行い、「3年間でどんな生徒になりたいか」を問い合わせた。評議会内でキーワード化した結果、「積極性」「リーダーシップ」「自主性」などが挙がり、職員の意見との共通点から具体的な生徒像が明確になった。

(2) 教員による「自主自律」の具体化

教育目標の具体化に向けて、教員に「3年間でどのような生徒を育てたいか」というアンケートを実施し、研修を通じて意思統一を図った。その結果、「自ら考え、試み、作り、行う強い意志と実践力をもって自学自立する生徒像」が共有された。

(3) 目指す生徒像の決定と単元計画

職員と生徒の意見をもとに、「自らを高めていける生徒」「周りとともに高めていける生徒」という3年後の目指す姿を設定し、それに基づいた総合的な学習の時間の単元計画を策定した。

【学習活動例】

- ・商品開発…夏祭り等の行事に向けて地域と協力し新商品の開発と販売体験をしている。
- ・地域防災…地震から生き抜くために必要な物や方法について考え、地域へ情報発信している。
- ・地域の魅力発信…地域の魅力や特産品を調べ、発信方法を工夫しながら地域へ発信している。
- ・学校の魅力発信…学校の魅力について発信方法を工夫しながら地域へ発信している。

基礎情報

団体の特徴（学校）

全校生徒453名。川崎市北部の閑静な住宅地を学区として、令和2年度に創立30周年を迎えた。「自主自律」の学校教育目標のもと、生徒たちは落ち着いた環境で学習している。

成果

・生徒の学びに対する目的意識の高まり

教育目標「自主自律」を具体化し、目指す姿を生徒と共に考えて共有することで、学びに対する目的意識が高まった。

・自己肯定感と達成感の醸成

生徒の「自分たちの力でやり遂げた」「協力して成功した」といった振り返りから、自己肯定感や達成感が醸成されたと考える。

・教師の協働的な単元開発と実践力の向上

職員研修を通じて意見交換を行い、教材分析やウェビングなどの手法を活用しながら単元を構想する力が高まった。

課題や今後に向けて

・生徒の発信機会の確保

より多くの生徒が自分の言葉で魅力や、学びを語ることができるよう、発信の方法や場面を多様化する。

・単元計画と評価の連動強化

目指す生徒像に向けた単元計画と、学びの成果を振り返る評価を連動させる。生徒自身が自己的成長を実感し、次の学びへつなげられるよう、振り返りの質を高める。

幼保小中高でゴールを共有、校種間・地域と連携したキャリア教育の実践

キーワード

幼保小中高連携／地域連携／育みたい力の焦点化／アウトカム評価によるPDCAサイクルの推進

取組概要

中学校区で「めざす児童生徒像」と「育みたい力」を共有し、小中で一貫性のある「キャリア教育全体計画」を作成、キャリア教育の視点による授業改善について中学校区全教員が共通理解を図り実践するとともに、幼稚園・保育所・認定こども園や高校とも取組を共有し、地域と連携・協働した教育活動を行っている。

取組の詳細

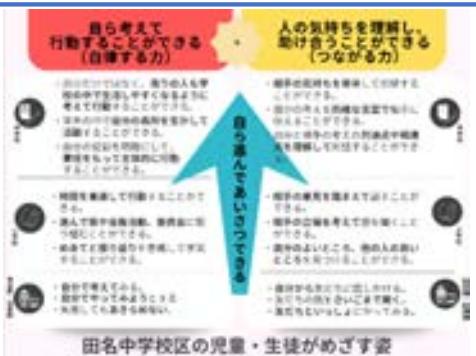
○視点をそろえる
「中学校区キャリア教育推進小委員会」、
小中高連携推進協議会の定期開催、小中
全教員が集う「小中一貫の日」（年3回）、
幼保小中連携情報交換会

○計画をそろえる
各校における「キャリア教育全体計画」の見直し、
年間指導計画の作成・活用、中学校区における
「めざす姿」の具体化と共有（幼保小中）

○実践をそろえる
キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・授業研究
育みたい力がどの程度身についたかを把握・分析するためのアンケート実施
系統性を意識した「キャリア・パスポート」の作成・活用

○校種間交流
合同あいさつ運動、児童会・生徒会会議、部活動見学、
中学校教員による授業、小中一貫の日、校内研究授業公開、
幼保小交流会、高校授業公開・ラウンジ展

○地域連携
学校運営協議会、各校における地域と連携・協働した
教育活動（ゲストティーチャー、職場体験等）、地域
への取組発信（「キャリア教育通信」等）



基礎情報

田名中学校区

（相模原市研究推進事業「キャリア教育推進」令和6～8年度）

・相模原市立田名小学校 全校児童数 557名
・相模原市立田名北小学校 全校児童数 376名
・相模原市立田名中学校 全校生徒数 622名

（令和7年5月1日現在）

成果

全国学力・学習状況調査質問紙項目より

自己肯定感・自己と周囲との関わりに関する項目でポイント増

○「自分にはよいところがある」 小中ともに増加
(田名中 : R5 78.8% → R7 86.4%)

○「人が困っている時には進んで助けていますか」

(田名北小 : R5 89.6% → R7 95.0%)

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

(田名小 : R5 71.6% → R7 82.1%)

課題や今後に向けて

○キャリア教育の視点による授業実践及び系統性のある教育活動のさらなる工夫改善

○保護者を含めた地域と協働した教育活動の展開



挑戦!

「アントレプレナーシップ教育を軸にした未来を切り拓く資質能力の育成」

キーワード

アントレプレナーシップ教育／地域展開／総合的・教科横断的な教育活動

目指す生徒の姿

取組概要

未来を切り拓く生徒

小中教職員・保護者・地域との
熟議による目標の設定教育
目標

自律

創造

貢献

アントレプレナーシップ教育を軸に、探究し考動する人材の育成

教科横断	各教科	道徳	特学	総合的な学習	課題発見力・主体性	1年: アントレミニ体験・アイディアピッチ	小中連携	地域貢献	健康体力
学校行事	ICT				課題解決力・情報収集力	2年: ミッション型職場体験・株式会社体験			
					探究・アウトプット力	3年: しもまちプロポジション			

インクルーシブ教育

人権感覚の育成

PDCAサイクル

取組の詳細

総合的・教科横断的な全体計画の作成・展開による各学年の特色ある学び

・1年生: アントレミニ体験

<主体性・課題発見力>

周りの人の困りごとを聞き、自分が解決したいことを見つけ、アイデアを考案し、人に共感してもらえるようにプレゼンする。



・2年生: ミッション型職場体験学習

<課題解決力・情報収集力>

勤労観に加え、課題解決力の育成を目指す。職場先の事業所から課されたミッションの解決策を考え、提案する。



・3年生: しもまちプロポジション

<探究・アウトプット力>

地域の人から話を聞き、課題を見い出し、その解決に向けて、行政や地域の方々と協働する活動にチャレンジする。地域のニーズ・想いを具現するために自分たちができるることを考案し、実際に行動を起こす。

今年度は地域の商店街で、17の企画・ブースのあるマルシェを開催する。



基礎情報

団体の特徴（学校）

新潟柳都中学校
マスコット

猫柳さん

湊町として栄え、新潟の発展に寄与した歴史が地域内で随所に垣間見える新潟市中央区の「しもまち」地域にある学校。舟栄中と二葉中が統合する形で開校し、今年で12年目を迎えた。全校生徒は約200名。校章の組み合った3つの輪は教育目標である「自律」「創造」「貢献」を表現している。また、中心の「R」に「1」が組み込まれており、当校のスローガンの1つである「No. 1」・「Only 1」を表現している。



成果

- ・継続的な地域連携により、地域からの信頼を得て、今年度、地元の商店街とコラボしたマルシェを実現し、3年間の学びの成果を発信できた。
- ・アントレプレナーシップ教育を軸にした教育活動により、生徒の以下の資質能力が大きく向上した。

新教育課程を編成する前のR4年度と編成・実施してから3年経過したR7年度の調査結果をもとに、全学年の数値を以下に比較した。

主体性 6%UP

課題解決力 9%UP

アウトプット力 18%UP

・生徒だけでなく教職員の資質能力の発揮にも大きく貢献した。

協働性 31%UP

課題や今後に向けて

- ・アントレプレナーシップ教育を軸にした教育課程を編成して3年目であり、持続可能な教育活動になるよう工夫・評価・改善しながら継続する。
- ・小中連携した資質能力の育成を一層推進し、効果を検証する。
- ・毎年入れ替わる教職員へのアントレプレナーシップ教育の理解と持続可能な実践意欲の継承が必要である。
- ・「学びの相似形」の言葉通り、自分で探究し、行動する生徒・教職員を育む。

推薦教育委員会名：(新潟市教育委員会)



地域の力を学校へ 多世代がかかわる「風の子 太陽の子 応援団」

キーワード

地域の強みをいかし、CSによる地域連携を基盤にした、組織的なキャリア教育の推進 「いつまでも学校へ行こう！」

取組概要

地域全体で子供たちを育てるために「風の子 太陽の子 応援団」を組織。地域の多様な年代の方々を募り、授業・生活・活動支援に参画してもらう仕組みを整えている。また、ボランティアマニュアルやSNSを活用して支援の輪を拡大ながら、組織的に子供たちのキャリア教育を支えている。

取組の詳細

- 見守り：あいさつ運動、交通安全指導、町探検やグループ別学習、校外学習時の安全確保と活動の見守り
- 学習補助：家庭科、図画工作科、書写、生活科、総合的な学習の時間などの補助
- 講話：戦争体験、地域の暮らし、職業や生き方に関する話
- 運動：ハロースポーツ（業間運動）の準備・片付けや運動補助、運動会など行事補助
- クラブ活動補助：クラブ活動での昔遊び・将棋・日本の文化体験などの支援
- 図書活動：読み聞かせ、図書整理、読書まつりの運営補助
- 生活支援：1年生の給食配膳補助、プール活動や、特別な配慮を要する児童の支援
- 環境整備・園芸：花壇づくり、草取り、休日や長期休みの水やり、など
- 仕組みづくり：
 - ボランティアマニュアルを作成し活動内容や留意点を明確化
 - リーフレットで活動を紹介し参加を呼びかけ
 - 便りを年間7回作成し、活動の実績を報告
 - オンライン連絡網を活用し、支援パターン別に情報共有
- 社会的・職業的自立に向けた学びの蓄積「キャリア・パスポート」の活用：
振り返りを通して、地域住民の多様な生き方や役割、仕事について学んだことや、学校の学習と将来や社会、職業とのつながりや地域に対する理解を深めたことを記録に残し、キャリア・パスポートに蓄積。



基礎情報

- 児童数 508名
- 学校教育目標：「風の子 太陽の子 ～ともに未来を創る～」
- 校区では、人情味溢れる温かな人間関係が形成されており、家庭・地域・学校の連携が図られている
- 教育活動に対して協力的であり、地域の行事や毎日の子供たちへの声掛けなどを通して、子供たちを健やかに育てよう努めている

成果

- 多様な年代の方々が学校にかかわるようになり、活動を通して地域住民自身もいきいきとした様子が見られる
- 子供にとっては、知識や技能を持つ大人から直接学べる機会が増え、学習の質が向上
- 教員の負担軽減につながり、より充実した授業づくり・児童支援が可能になっている
- 振り返りやアンケートを通して、子供や地域の声を大切にし、PDCAサイクルにより取組を改善
- 地域と学校の結びつきが強まり、「地域とともにある学校づくり」が前進
- CSの支援によりキャリア教育が充実した結果、子供たちは教育活動の中で自然にキャリア教育の4つの観点を意識して取り組めるようになり、振り返りなどを通して、自らの成長や学びを意識する力が高まっている

課題や今後に向けて

- 人材の固定化を防ぎ、より幅広い世代・層の参画を促す必要がある
- 活動の可視化（参加人数、活動回数、児童・保護者の反応など）を行い、成果を客観的に示していくことで、家庭・地域にもっと周知していきたい。
- 「キャリア教育」で育む観点を明確にし、地域住民の協力の下、子供が「生き方」「働き方」「仕事」に必要な資質・能力を知ったり、考えたりする機会をさらに増やし、基礎的・汎用的能力の育成をしていきたい。

推薦教育委員会名：(浜松市教育委員会)



小さな成長と学びの積み重ね！「振り返り」と「見つめるカード」でつくる「なりたい自分」

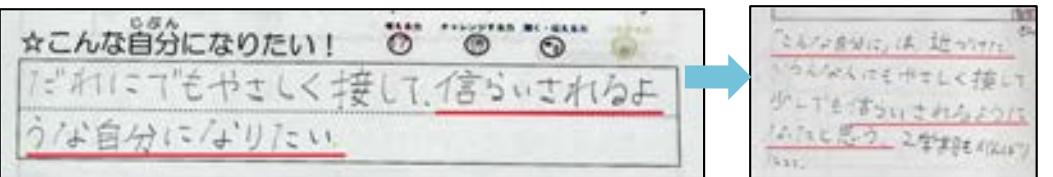
キーワード

成長と自己変容の実感する「キャリア・パスポート」の活用／毎日の振り返りの積み重ねと2週間に1度の自己との対話
オリジナル教材「見つめるカード」／家庭・地域・学校の一体的な取り組み

取組概要

「キャリア・パスポート」を活用し、子供が「なりたい自分」（自己実現）への取り組みを支援しながら、キャリア発達を促している。学期初めにオリジナル教材「見つめるカード」で目標を設定し、家庭学習カードで実践を毎日、自己評価する。さらに、2週間に1度、それまでの実践の振り返り、自己との対話を通じて、自身の変容や成長を実感、次への目標設定の機会を設定。子供の主体的に学ぶ力やさらなる自己実現につなげている。また、家庭・地域との関わりや協力のもと、学校と一緒に子供のキャリア形成に必要な能力等の育成に取り組んでいる。

取組の詳細



【見つめるカードの活用 学期始めに「なりたい自分」の設定】

【学期末の子供の振り返り】

「継続した振り返りの機会を設定し、子供自身が改善、実践を繰り返しながら
自己の変容や成長を実感できるよう支援」

- 毎日、家庭学習カードで「なりたい自分」のために設定した「日々めあて」の実践を振り返り、自己評価を行う。（家庭との連携）
- 2週間に1度、これまで記録した実践、自己評価を振り返り、次の「めあて」を設定。
- 学期末や年度末に、これまでの学びや実践を振り返り、新しい目標を設定。

「各教科等や学校行事での学びや取り組みを通じてキャリア発達を促す」

- 各教科等の学びの中で、地域住民との対話や関わりを積極的に取り入れて、自分たちの学びが将来につながっていることや、家庭や地域に愛着をもつたり、さらによりよくするためにできることを考えたりする学習を展開。
- 学校を通して、自分や友達の良さに気付いたり、活動をよりよくするための工夫を考えたりできるように、目標の設定、実践、振り返りの場を設定し、学んだことを「キャリア・パスポート」に蓄積。
- 「キャリア・パスポート」に書かれた振り返りをもとに、子供、家庭、教師が対話を通して成長を確認したり、称賛のコメントを記述したりして、自己有用感を高めることに結び付ける。

基礎情報

- 全校児童数：92名
- 学校教育目標：「夢に向かって命を輝かせる子」
- 学校、地域特徴：河西哲英訓導から学ぶ「命の尊厳」を継承し、美しい都川が流れる豊かな自然の中で、キャリア教育を根底にした教育活動の推進を地域・家庭・学校が共に手を取り合いながら、一体となって取り組んでいる。

成果

- 「目標設定」→「実践」→「振り返り」の学びのサイクルを確立することで、学習や生活を見通したり、自己評価を日々積み重ねたりして、自己の成長や変容を実感できる支援ができた。
- 継続的な振り返りの機会を設定することで、目標の修正、改善を子供自らが発見し、一人一人の自己実現や個性を伸ばす指導につなげることができた。また、教師が取組状況を把握し対話的に関わることで、キャリア・カウンセリングを行い、子供理解や一人一人のキャリア形成に努めることができた。
- 「なりたい自分」の自己評価を毎日「家庭学習カード」に記入することで、家庭に子供の「なりたい自分」の共有や支援を共にすることことができた。
- 地域住民の協力、交流を通して、各教科等の学びを深めたり、地域住民の働く様子を実際に見学したりして、地域への愛着がもてるような学びを展開できた。

課題や今後に向けて

- 今後も子供一人一人の「なりたい自分」の実現と、学びを将来や社会につなぐキャリア発達に必要な基礎的・汎用的能力の育成を、地域・家庭・学校が一体となり、継続的に推進したい。
- 各教科等と特別活動の学びの往還の関係を意識し、今の学びが自分の将来にどのようにつながっているか、自己のキャリア形成の方向性と関連付けた授業をさらに模索していきたい。
- 特別活動の学級活動を中心とした学校教育全体の学びを「キャリア・パスポート」に記録・蓄積する際には、子供自身がこれまでの学びを振り返り、自己の変容につながった学び、経験を自ら選び取って、自分だけの「キャリア・パスポート」を作り上げられるようにしたい。

推薦教育委員会名：(浜松市教育委員会)



「自走自在」する児童を育てる京都市版キャリア・パスポート「生き方探究パスポート」の活用

キーワード

児童の実践を支える生き方探究パスポート / 変容や成長の可視化

取組概要

「自走自在する児童」の育成を目指し、特別活動を軸に児童が主体的に学校行事等に取り組める活動を展開している。児童一人一人が自己決定した目標を実践し、達成感を感じたり、実践を振り返る中で自身の変容や成長を実感したりすることで自己効力感を高められるようにしている。その際、目標設定や振り返りの過程で、児童が自身の変容や成長を可視化するための重要なツールとして、生き方探究パスポートを活用している。

取組の詳細

学校行事の年間計画は、児童にとって1年間の見通しや行事ごとにスマールステップで成長していく自身のイメージを持ちやすい。各行事ごとに「目標設定・実践・振り返り・分析」を行い、成長を積み重ねていく。その成長を児童が実感するためのツールとして生き方探究パスポートを活用している。

例えば、Teamイワシタで取り組む運動会では、生き方探究パスポートを基に、一人一人がどのように運動会を取り組みたいか目標を自己決定し、そこに向けて実践をする。運動会当日に至るまでの実践を通して、感じたことや考えたことが変容や成長の気づきに繋がるため、記録を残す。これを「運動会ノート」と名付け、生き方探究パスポートの基礎資料として蓄積する。振り返りを1枚のシートに記入できるようにしたり、文字だけでなく、その日発揮した力やついたと思う力を色シールで貼ったり、成長の積み重ねを可視化している。また仲間からの他者評価や教師によるコメントなど対話を取り入れ、自分では気づかなかった変容や成長に気づけるようにしている。運動会後の振り返り・分析では、積み重ねた振り返りと向き合い、確かな自己評価を行うことで、自分についた力や高まった力などに気づき、成長を実感する。また今後の自分についても目を向けるようにし、次の目標設定につながるようにしている。

児童が主体的に取り組む学校行事とその実践を支える生き方探究パスポートの活用の両輪で、児童の自己効力感を高め、「自走自在」を育てている。



基礎情報

- ・全校児童287名・校は「自走自在」
- ・これまで地元の和菓子屋や企業の協力を得て、商品企画する等のキャリア教育を行ってきた。
- ・Teamイワシタ（校内起業）：高学年が思い描く学校像を実現するために学校に必要な委員会の立ち上げを児童が行う。日々の活動において他学年に求人募集を行い積極的に参加を求める。また学校行事「運動会」「学習発表会」「1年生を迎える会」を児童が主体的に創りあげている。

成果

- *児童が、自身の活動を振り返る時間を楽しみにしている姿がある。
- *自分の変容や成長を感じられなかった児童も、実践する場と振り返ることを繰り返す中で、自分自身の良さや可能性を感じ、前向きに学習や活動に向かうようになっている。
- *失敗を恐れない児童が多く、失敗から学び、チャレンジする児童が育っている。
- *振り返りを書き残す良さを児童自身が実感している。
- *保護者に児童の様子を伝えるツールとして活用し、児童の考えていることやどんな思いで行事に向き合っているのかが分かると評価を得ている。
- *R7年度全国学力学習状況調査の児童質問紙より(H31パスポート取組前と比較)
- 自己有用感等に関わる項目の肯定的回答が高い
 - ・「自分にはよいところがあると思いますか」 90.7
 - ・「先生はあなたのよさを認めてくれていると思いますか」 100
 - ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」 95.4
- 社会に向かう力に關わる項目の肯定的回答が高い
 - ・「人の役に立つ人になりたいと思いますか」 100
 - ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」 88.3
- 主体的に学習に向かう力に關わる項目の肯定的回答が高い
 - ・「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」 95.4
 - ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」 97.7

課題や今後に向けて

教員の異動等の入替わりがあつても、意義や意図を理解したうえで、学校全体の取組として持続可能なものにしていくこと。

推薦教育委員会名：(京都市教育委員会)



IKUNO未来科

～9年間を通したキャリアの育成の中で、未来への新たな扉を開かせ、誇りをもって社会に羽ばたく子どもを育む～

キーワード

IKUNO未来科／キャリアの育成／体験的な学び

取組概要

本校は、9年間を通したキャリアの育成の中で、生野区にある地元企業や町工場・商店街など地域の教育資源を活用した取組を行っている。

8年生においては、一人ひとりの社会的・職業的自立のさらなる手立ての一つとして、大阪市総合教育センターにおいて、指導主事や多種多様な企業等、産官学が連携する体験的キャリア教育の取組を実施した。

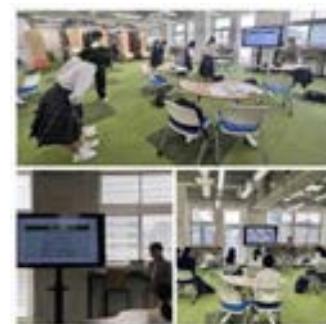
取組の詳細

本取組は、様々な職業に就く方の職業観に触れ、自身の「将来の夢」や「なりたい自分に向けて、今できること」について体験的な学習を通して考えを広げ深め、キャリアの育成・進路選択へつなげていく。

1. 自己理解や職業観を育成する取組
2. 様々な職業に就く方々と出会い、「働く」を体験的に学ぶ取組

大阪市総合教育センターで指導主事や様々な職業に就く方を講師に招いた取組を実施。

- ① 職業講話・グループ協議…「働くうえで大切にしていること」「学ぶことの意義」「夢を持ち、挑戦すること」についての講話を基に、グループで「働くこと」について意見を交流する。
(講師は、生野区内の企業の方)
- ② 職業体験…10の企業や専門学校で働く方々を講師に迎え、様々な職業について体験的に学ぶ。



参考（講師所属先）

- ①ロート製薬株式会社
- ②大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校、大阪ECO動物海洋専門学校、大阪ホテル・観光＆ウェディング専門学校、大阪農業園芸・食テクノロジー専門学校、株式会社金剛組、株式会社産經新聞社、資生堂ジャパン株式会社、ソフトバンク株式会社、三菱UFJ銀行、雪印メグミルク株式会社

3. 職場体験学習・これまでの取組の振り返り

基礎情報

- 令和4年4月に近隣の中学校1校、小学校4校を統合再編する形で開校した大阪市生野区にある大阪市初の義務教育学校。(児童生徒数845人)
- 地元企業や商店街での起業体験、様々な方面の働く人と出会い、働く人の情熱に触れ、探究的な課題にチャレンジさせる教科横断的独自教科「IKUNO未来科」を設定し、9年間を通して子どもたちのキャリアの育成を図っている。

成果

- 様々な職業に就く方との出会いを通して、将来の夢や就きたい職業について、自身と真剣に向き合い、考えを広げ深めることができた。
- 振り返り場面においては「(将来の職業選択に向けて)自分の好きなことを見付けるために、今、様々なことを勉強したい」「働くことは、人に喜びを与えられる素晴らしいこと」と「働くこと」への関心・意欲の高揚・学習意欲の向上や自立意識の涵養が図られた。

課題や今後に向けて

キャリアの育成に向けては、本取組や特定の教科に限らず、あらゆる教科での学習や学校行事等と連携させながら、9年間を通して「働くこと」「将来の自分」について学ぶ視点を持たせることができるよう、引き続き、地域資源を活用しながらカリキュラムマネジメントを推進させていく。



自分の将来を考えよう～地域の魅力を伝えながら、働くことの意義を学ぶ～

キーワード

起業体験／販売体験／農業体験／地域連携／複式教育／他校種連携

取組概要

地域の農家の方々や観光農園、キャリアコンサルタントや税理士と連携し、起業家教育の学習プログラムを作成し、実践している。

5・6年生の児童が、地域で育てたナスやイチゴ等の農作物の販売体験、マーケティングやブランディング学習、収支計算から新たな課題を見出し、次の取組につなげるといった一連の起業体験活動の取組を進めている。

基礎情報

全校児童数：42名（中学年と高学年は複式学級）
広島市の北部に位置する安佐北区白木町に所在しており、豊かな自然に恵まれている。

起業体験活動に令和5年度から取り組んでおり、生活科、総合的な学習の時間を軸に取組を進めている。

取組の詳細

地域の農家や観光農園、キャリアコンサルタント、税理士と連携し、5・6年生児童は以下のような取組を行っている。

[前期：夏野菜、後期：イチゴの販売体験]

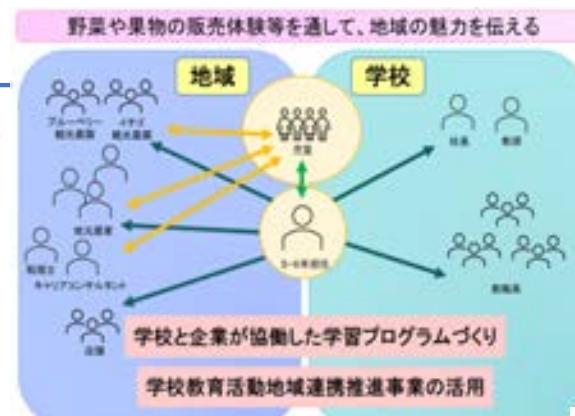
- これまでの学習を基にした課題設定
- 農業体験
- 販売計画の作成（場所・対象・方法・価格）
- 販売準備（販促物の作成・収穫・梱包）
- 販売体験
- 収支計算と振り返り
- 成果や課題の整理

〈発展的な体験活動〉

- 市立商業高校が運営するイベントでの販売体験
- 高校生から学ぶ接客方法

〈年度のまとめ〉

- 1年間の学習の振り返り
 - ・5年生：自らの成長と次年度の目標について
 - ・6年生：自らの成長や将来への思いについて



成果

地域の魅力を伝えるために農作物の販売等を通して、児童は基礎的・汎用的能力を培い、職業観・勤労観、そして、地域への愛着を深めている。また、学校を中心に地域のつながりを深める一助となっている。

課題や今後に向けて

毎年度、児童が経験を通して課題を見つけ、その解決に向けて取り組むことで、学びを継続的に深めていく必要がある。



湯来町みらい計画～湯来町のまちづくりに貢献～

キーワード

地域連携／地域貢献／他者評価

取組概要

「今後の目標や夢をもち主体的に学ぶ生徒」を目指し、総合的な学習の時間を中心に、NPO法人、地域団体等の延べ約200名と関わりをもち取組をした。学年ごとに湯来の「これまで」「今」「未来」と学習を進め、学年末は「自分の将来」を表現する。

取組の詳細

NPO法人「峠の森保全の会」「映画祭実行委員会」公民館、町内事業所等の地域の方と連携・協働し、地域を知り、魅力等を発信・貢献活動をする。

地域の方に依頼し、生徒のよかつたところを書いてもらったカード（きらりカード）を掲示することによって、自己肯定感を高める。学年末には、学んだことを振り返り「自分の将来」を表現する。

第1学年「湯来町のこれまでの歩みを知ろう」

- 地域の歴史新聞作成（卒業生インタビュー）
- 竹林整備と竹細工 ○メンマパッケージ作成



第2学年「湯来町の今の魅力を発信しよう」

- メンマづくり、メンマを利用したレシピ作成
修学旅行・文化祭でのメンマ販売
- 1人1事業所での職場体験
- 湯来町の魅力発信パンフレット等づくりと分析



第3学年「湯来の未来のために町づくりに貢献しよう」

- 地域活性化のための映画祭の参画

基礎情報

全校生徒数：66名

広島市の北西部に位置する佐伯区湯来町に所在しており、豊かな自然に恵まれている。

キャリア教育系統図を作成し、総合的な学習の時間、特別活動を軸に取組を進めている。



成果

- 地域の現状と課題を考え具体的な活動をすることで、主体性と自己有用感を向上することができた。
- 地域貢献している方に出会うことで、これからの自己的生き方について考えを深めることができた。
- 地域の方から良い点についてのメッセージをいただくことが自己肯定感を高め、多面的・多角的な自己理解にもつながっている。

課題や今後に向けて

- 地域の課題も年々変化するため、持続可能な取組にするためにも、PDCAサイクルを確立し、地域と連携しながら内容の充実や見直しを図る。
- 現在の取組を継続的に進めていく上で、教科との関連及び現在湯来町で検討が進められている小中一貫校設立の視点からカリキュラムを見直していく。